

平成24年度

柏市学力・学習状況調査結果分析資料

平成24年7月27日

柏市教育委員会

柏市学力・学習状況調査結果分析資料目次

■ 柏市学力・学習状況調査概要	1
□ 柏市学力・学習状況調査の概要について	
□ 柏市学力・学習状況調査事項について	
□ 柏市学力・学習状況調査結果分析資料について	
■ 小学校【第2学年国語】学力状況調査結果及び分析概要	2
■ 小学校【第2学年算数】学力状況調査結果及び分析概要	4
■ 小学校【第3学年国語】学力状況調査結果及び分析概要	6
■ 小学校【第3学年算数】学力状況調査結果及び分析概要	8
■ 小学校【第4学年国語】学力状況調査結果及び分析概要	10
■ 小学校【第4学年算数】学力状況調査結果及び分析概要	12
■ 小学校【第5学年国語】学力状況調査結果及び分析概要	14
■ 小学校【第5学年算数】学力状況調査結果及び分析概要	16
■ 小学校【第6学年国語】学力状況調査結果及び分析概要	18
■ 小学校【第6学年算数】学力状況調査結果及び分析概要	20
■ 中学校【第1学年国語】学力状況調査結果及び分析概要	22
■ 中学校【第1学年数学】学力状況調査結果及び分析概要	24
■ 中学校【第2学年国語】学力状況調査結果及び分析概要	26
■ 中学校【第2学年数学】学力状況調査結果及び分析概要	28
■ 中学校【第2学年社会】学力状況調査結果及び分析概要	30
■ 中学校【第2学年理科】学力状況調査結果及び分析概要	32
■ 中学校【第2学年英語】学力状況調査結果及び分析概要	34
■ 中学校【第3学年国語】学力状況調査結果及び分析概要	36
■ 中学校【第3学年数学】学力状況調査結果及び分析概要	38
■ 中学校【第3学年社会】学力状況調査結果及び分析概要	40
■ 中学校【第3学年理科】学力状況調査結果及び分析概要	42
■ 中学校【第3学年英語】学力状況調査結果及び分析概要	44
■ 生活・学習意識調査結果及び学力との相関分析	46
□ 教科との相関について	47
□ 生活との相関について	50
□ 読書に係わる内容や学校図書館活用との相関について	56
□ ICT活用に関する生活・学習意識調査結果及び分析	60

柏市学力・学習状況調査結果概要

柏市学力・学習状況調査の概要について

実施日 平成24年4月（各学校が設定した日）

実施校 柏市内小中学校（小学校 42校 中学校 20校）

実施学年及び実施教科等

学校種	学年	実施教科等
小学校	2年	国語及び算数（2教科） 生活・学習意識調査（アンケート）
	3年	
	4年	
	5年	
	6年	
中学校	1年	国語及び数学（2教科） 生活・学習意識調査（アンケート）
	2年	国語，数学，社会，理科及び英語（5教科）
	3年	生活・学習意識調査（アンケート）

柏市学力・学習状況調査事項について

【学力調査事項】

- ・ 児童生徒の前年度の履修内容を調査
- ・ 出題内容は、学習指導要領の評価の観点に基づいて出題
- ・ 基礎問題と活用問題で構成されており、活用問題は「思考力・判断力」「表現力」を問う問題で出題
- ・ 国語と英語は全学年で聞き取り問題と作文を出題
- ・ 記述論述問題を一定量（35～50%）出題し、作図や作文の問題、論理的思考力や考えるプロセスを考慮した問題を出題

【生活・学習意識調査事項】

- ・ 学習意欲，学習習慣，生活等に関するアンケート調査

柏市学力・学習状況調査結果分析資料について

【学力調査事項について】

学年別の正答率や問題別の正答状況を数値等で示してあります。また、正答率の高かった問題や課題がある問題について分析をおこない、今後の指導例を記載しました。また、類似問題も掲載したので参考にしてください。

【生活・学習意識調査について】

学力と生活・学習状況調査結果との相関分析を、学力と教科に関する関心意欲，学力と学習・生活習慣，学力と学校図書館活用，学力とICT活用との相関分析を実施しました。これにより児童生徒の学力と生活・学習状況調査の相関を類推することができます。

小学校【第2学年国語】学力状況調査結果及び分析概要

1 学力状況調査結果の概要について

国語	正答率(%)		
	全体	基礎	活用
柏市	82.3	87.6	57.0
全国平均	79.6	85.9	49.7

(1) 基礎的内容について

基礎的問題は、出題内容全般概ね良好である。第1学年配当漢字を書くことや、自分の考えが明確になるように、文を書くことが課題である。

(2) 活用的内容について

活用問題は、全国平均を5ポイント近く上回る問題が多く、良好であるが、条件に合う情報や、根拠となる情報を意識して読みとることが課題である。

2 調査問題について

問題正答率 ※「全国と比較」の欄は、柏市の正答率が全国正答率より5ポイント以上上回る場合を○、5ポイント以上下回る場合を△で示しています。

通し番号	大問番号	解答形式	観点					活用観点	問題の内容	出題のねらい	全国正答率	全国と比較	
			関	話	書	読	言						
1	1	選択	○	◎				はなしをききとる	大事なことを落とさないように聞き取ることができる。	96.6			
2		選択	○	◎						90.3			
3		記述	○	◎	○					表	話題に沿った質問をすることができる。	73.0	
4	2	短答					◎	かん字をよむ	第1学年配当漢字を読むことができる。	98.1			
5		短答					◎			94.5			
6		短答					◎			92.5			
7		短答					◎			かん字をかく	第1学年配当漢字を書くことができる。	94.3	
8		短答					◎					95.8	
9	短答					◎		95.8					
10	3	短答					◎	「は」「を」「へ」のつかいかた	助詞の「は」を、文の中で正しく使うことができる。	87.0			
11		短答					◎			89.9			
12		短答					◎			73.9			
13	4	選択					◎	ものがたりをよみとる	場面の様子を読み取ることができる。	71.3			
14		選択					◎			94.6			
15		選択					◎			思	時間的な順序、事柄の順序を考えながら、場面の様子を読み取ることができる。	49.0	○
16	5	選択					◎	せつめい文をよみとる	事柄の順序などを考えながら、内容を読み取ることができる。	68.2	○		
17		選択					◎			76.3	○		
18		選択					◎			83.5			
19	6	選択					◎	ことばあそびをかながえる	例から言葉のルールを読み取って、他の例を考えることができる。	43.2	○		
20		記述	○		○		◎			表	与えられた情報を読み取って、例にならって文を書くことができる。	33.7	○
21	7	記述	○		◎			文しょうをかく	一文以上、文を書くことができる。	87.3			
22		記述	○		◎					経験・想像したことの中から書くことを決め、文を書くことができる。	80.5		
23		記述	○		◎					自分の考えが明確になるように、文を書くことができる。	61.9		

3 全国平均正答率よりも5ポイント以上上回った問題分析について（大問5）

説明文を事柄の順序などを考えながら読みとる問題である。この問題は、文章の中から大事な事柄を見つけることが重要である。

□類似問題

【もんだい】
つぎの 文しょうを よんで、あとの もんだいに こたえましょう。

とりの くちばしには、いろいろな かたちを した ものが あります。 きつつきの くちばしは、さきが がつて います。 きつつきは、この くちばしで、木の みきを つついて あなを あけます。そして、中に いる 虫を とって たべます。

つるの くちばしは、（以下割愛）

きつつき・つるの ①くちばしの かたちと ②えさの とりかたに ついて まとめました。□□に あてはまる ことばを、文しょうの 中から ぬきだしましょう。

●きつつき

①くちばしは、さきが□□□□います。

4 課題が見られる問題分析について（大問7）

自分の考えが明確になるように文を書く問題である。この問題は、題材について、何を書けばよいのかという条件を理解した上で、作文することが重要である。

■類似問題

【もんだい】
一年生の ときに 学校の ともだちと した あそびで たのしかった ことを 文しょうに 書いて はっぴょう すること になりました。

あなたなら、どのように かきますか。 つぎの ことに ちゅういして かきましょう。

（ちゅういすること）
①一年生の ときに ともだちと した あそびで たのしかった ことと、なぜ それが たのしかったのか よく わかるように かきましょう。

②まずに たてがきで かきましょう。

5 今後の指導について

文章の内容を正確に読みとらせるためには、低学年での音読指導が大切になる。相手意識を持ちながら、声に出して正しく読むことを継続することが大切である。また、書きたいことを明確に表現させるためには、条件を確認しながら書きたいことを話し合ったり、付箋紙などにメモを書いたりしてから文を書かせるなどの段階的指導が必要である。

小学校【第2学年算数】学力状況調査結果及び分析概要

1 学力状況調査結果の概要について

算数	正答率(%)		
	全体	基礎	活用
柏市	86.1	89.9	67.3
全国平均	84.8	89.4	62.3

(1) 基礎的内容について

基礎的問題は、出題内容全般概ね良好である。2つの数の大きさを比べたり、差を求めたりする場面を想定して立式する問題に課題がある。

(2) 活用的内容について

活用問題は、全国平均を5ポイント上回っていて良好であるが、集合数を知って順序数を知る問題や、条件を満たす場面を考える文章問題が課題である。

2 調査問題について

問題正答率 ※「全国と比較」の欄は、柏市の正答率が全国正答率より5ポイント以上上回る場合を○、5ポイント以上下回る場合を△で示しています。

通し番号	大問番号	解答形式	観点				活用観点	問題の内容	出題のねらい	全国正答率	全国と比較
			関	考	技	知					
1	1	短答			◎			たしざん	(1けた)+(1けた)=(1けた)の計算ができる。	98.7	
2		短答			◎				(1けた)+(1けた)=(十何)の計算ができる。	96.5	
3		短答			◎				(十何)+(1けた)=(十何)の計算ができる。	93.1	
4		短答			◎				(何十)+(何十)=100の計算ができる。	94.8	
5		短答			◎			ひきざん	(1けた)-0=(1けた)の計算ができる。	97.9	
6		短答			◎				(1けた)-(1けた)=0の計算ができる。	98.3	
7		短答			◎				(十何)-(1けた)=(1けた)の計算ができる。	94.3	
8		短答			◎			3つのかずのけいさん	(2けた)-(1けた)=(2けた)の計算ができる。	92.4	
9		短答			◎				(1けた)+(1けた)+(1けた)=(1けた)の計算ができる。	96.7	
10		短答			◎				10-(1けた)+(1けた)=(1けた)の計算ができる。	91.2	
11	2	短答			◎		120までのかず	20までの数の大小関係を理解している。	97.2		
12		短答			◎			120までの数の大小関係を理解している。	90.7		
13	3	短答			○	◎	120までのかず	位取り記数法を理解し、10の個数と1の個数から、その数を表すことができる。	93.9		
14		短答			○	◎		位取り記数法を理解し、10の個数から、その数を表すことができる。	88.4	○	
15		短答			○	◎		100までの数の系列を理解している。	97.9		
16		短答			○	◎		120までの数の系列を理解している。	86.4	○	
17		短答			○	◎		96.6			
18	4	短答			◎		たしざん	繰り上がりのあるたし算の考え方を理解している。	47.9		
19	5	短答		◎	○		たしざん	文章問題(増加の場面)を解くための加法の立式ができる。	99.1		
20		短答			◎		たしざん	文章問題(増加の場面)を解くために立式した(1けた)+(1けた)=(2けた)の式から、正しい答えを求めることができる。	96.8		
21	6	短答		◎	○		3つのかずのけいさん	文章問題(求残の場面)を解くための3口の減法の立式ができる。	82.3		
22		短答			◎		3つのかずのけいさん	文章問題(求残の場面)を解くために立式した10-(1けた)-(1けた)=(1けた)の式から、正しい答えを求めることができる。	79.5		
23	7	短答		◎	○		ひきざん	文章問題(求補の場面)を解くための減法の立式ができる。	83.9		
24		短答			◎		ひきざん	文章問題(求補の場面)を解くために立式した(何十)-(何十)=(何十)の式から、正しい答えを求めることができる。	84.3		
25	8	短答		◎	○		たしざん	文章問題(求大の場面)を解くための加法の立式ができる。	84.7	△	
26		短答			◎		たしざん	文章問題(求大の場面)を解くために立式した(1けた)+(1けた)=(2けた)の式から、正しい答えを求めることができる。	83.1	△	
27	9	短答		◎	○		たしざん	加法を適用して、順序数と集合数の文章問題を解くことができる。	80.1		
28		短答		◎	○		ひきざん	減法を適用して、順序数と集合数の文章問題を解くことができる。	73.3		
29	10	選択			◎		ながさ	長さの異なるテープの長さを目盛りのいくつかで比較できる。	92.2		
30		選択			◎		ながさ		96.5		
31	11	短答	○		◎		とけい	何時を示す時計がわかる。	93.3		
32		選択	○		◎		とけい	何時半を示す時計がわかる。	77.2		
33		選択	○		◎		とけい	何時何分を示す時計がわかる。	90.4		
34	12	短答	○		◎		かたち	立体の面を写し取ってかいた絵を見て、使った立体を見つることができる。	89.8		
35	13	選択	○	◎	○		思	図形を移動して変形する問題を解くことができる。	59.7		
36	14	選択		◎			思	減法の式に合った文章問題を選ぶことができる。	75.8		
37	15	短答	○		◎	○	思	方向や位置に関する言葉を理解している。	61.9	○	
38		記述	○	◎			表	方向や位置に関する言葉を使って、正しく位置を伝えることができる。	54.7	○	
39	16	短答	○	○	◎		思	絵を読み取り、3つの数の大小がわかる。	61.0	○	
40		選択	○	◎	○		思	場面を理解し、条件を満たす場合を考えることができる。	59.3	○	
41		記述	○	◎	○		表	たしざん	加法を適用して買いたい品物の代金を求め、所持金でその品物を買うかどうか説明することができる。	64.0	

- 3 全国平均正答率よりも5ポイント以上上回った問題分析について（大問15）
方向や位置に関する言葉を理解し、その言葉を使って正しく位置を伝える問題である。
普段の生活の中に適用場面を取り入れていくことが大切である。

□類似問題

〇〇くんのランドセルが入っているロッカーのばしょを、ことばでともだちにせつめいしてください。

- 4 課題が見られる問題分析について（大問9, 16, 8）

- (1)「〇番目」のような位置や順序を表す数も、集合に置き換えると、既習の加法や減法をもとに考えられることを絵や図、ブロックなどを使って指導していく必要がある。

■類似問題

車が10だいとまっています。
しょうぼう車はまえから2だいです。
しょうぼう車のうしろには、なんだいとまっていますか。

しき _____ 答え _____ だい

- (2) 問題を解くために文章の内容を読み取り、買い物の場面を想像して条件を満たす場合を考える問題である。日常の算数的事象について筋道を立てて考える場面や、自分の考えを表現する場面を多く取り入れることが必要である。
- (3) 全国正答率よりも5ポイント以上下回った問題
文章をよく読み取り、正確に立式して解く問題である。

■類似問題

はるこさんは、ノートを3さつもっています。
なつこさんは、はるこさんよりも4さつおおくノートを
もっています。
なつこさんは、ノートをなんさつもっていますか。

しき _____ 答え _____ まい

- 5 今後の指導について

問題の場面を想定して立式をしたり、問題文の内容を読み取ったりする力をつけることが必要である。それには絵や図、ブロックなどの具体物操作を多く取り入れ、生活体験の中で数量感覚を身につけることが有効である。また、算数でも普段から順序よく話をする場面を想定し、発表したり話したりさせることが大切である。

小学校【第3学年国語】学力状況調査結果及び分析概要

1 学力状況調査結果の概要について

国語	正答率(%)		
	全体	基礎	活用
柏市	77.3	80.0	66.7
全国平均	78.1	81.6	64.4

(1) 基礎的内容について

基礎的問題は、全国平均を若干下回っている。「書くこと」の領域に関しては、条件を満たすような作文を書くことに問題がある。

(2) 活用的内容について

活用問題も、概ね全国平均と同程度である。話を聞いて、話題に沿った質問をすることに課題がある。

2 調査問題について

問題正答率 ※「全国と比較」の欄は、柏市の正答率が全国正答率より5ポイント以上上回る場合を○、5ポイント以上下回る場合を△で示しています。

通し番号	大問番号	解答形式	観点					活用観点	問題の内容	出題のねらい	全国正答率	全国と比較
			関	話	書	読	言					
1	1	選択	○	◎					話の内ようを聞きとる	大事なことを落とさないように聞き取ることができる。	94.8	
2		選択	○	◎						話題に沿った質問をすることができる。	89.1	
3		記述	○	◎	○			表			67.2	
4	2	短答					◎	かん字を読む	第2学年配当漢字を読むことができる。	95.8		
5		短答					◎			89.5		
6		短答					◎			91.7	△	
7		短答					◎			87.6		
8		短答					◎			76.7		
9		短答					◎			65.1		
10		短答					◎			63.5		
11	3	短答					◎	ことばの学しゅう	片仮名で書く語の種類がわかり、文の中で使うことができる。	77.4	○	
12		短答					◎		88.4			
13		短答					◎		87.0			
14	4	短答					◎	ものがたりの内ようを読みとる	漢字を意味によって分類して理解することができる。	80.3		
15		選択					◎		登場人物の気持ちを読み取ることができる。	77.1		
16		選択					◎		場面の様子を読み取ることができる。	83.4		
17	5	選択					◎	せつ明文の内ようを読みとる	時間的な順序、事柄の順序を考えながら、場面の様子を読み取ることができる。	71.2		
18		選択					◎		77.2			
19		選択					◎		63.6	○		
20	6	選択					◎	カードと文しようを読みとる	事柄の順序などを考えながら、内容を読み取ることができる。	70.6		
21		選択					◎		59.2	○		
22	7	記述	○	◎	○	○		カードと文しようを読みとる	カードに書かれている事柄の順序や大事な言葉を読み取って、丁寧な言葉で話すことができる。	44.3		
23		記述	○	◎					指定された長さで文章を書くことができる。	87.3	△	
24		記述	○	◎					経験・想像したことの中から書くことを決め、文を書くことができる。	85.1	△	
25	7	記述	○	◎				作文	自分の考えが明確になるように、具体的に書くことができる。	80.3	△	
25		記述	○	◎								

3 全国平均正答率よりも5ポイント以上上回った問題分析について（大問5）

説明文の内容を読みとる問題である。この問題には、聞かれていることに必要な情報を文章の中から選び出す力が重要になる。

小学校【第3学年算数】学力状況調査結果及び分析概要

1 学力状況調査結果の概要について

算数	正答率(%)		
	全体	基礎	活用
柏市	76.7	80.6	54.5
全国平均	74.6	79.1	49.6

(1) 基礎的内容について

基礎的問題は、出題内容全般概ね良好である。空位のある3けた－2けたの繰り下がりのある問題に課題がある。

(2) 活用的内容について

活用問題は、全国平均を5ポイント近く上回っていて良好であるが、分数の意味を実感的に理解する問題や、条件を満たす場合を考えその理由を説明する力に課題がある。

2 調査問題について

問題正答率 ※「全国と比較」の欄は、柏市の正答率が全国正答率より5ポイント以上上回る場合を○、5ポイント以上下回る場合を△で示しています。

通し番号	大問番号	解答形式	観点				活用観点	問題の内容	領域	出題のねらい	全国正答率	全国と比較
			関	考	技	知						
1	1	短答			◎			計算のふくしゅう	数と計算	2けた＋1けた＝2けた(繰り上がりなし)の計算ができる。	95.6	
2		短答			◎					2けた－1けた＝1けた(繰り下がりが1回)の計算ができる。	96.1	
3		短答			◎					2けた＋2けた＝3けた(繰り上がり2回)の計算ができる。	85.5	
4		短答			◎					3けた＋1けた＝3けた(繰り上がり1回)の計算ができる。	85.5	
5		短答			◎					何百＋何百＝1000の計算ができる。	94.3	
6		短答			◎					2けた－2けた＝2けた(繰り下がりが1回)の計算ができる。	82.5	
7		短答			◎					3けた－2けた＝2けた(波及的繰り下がりがあり)の計算ができる。	82.0	
8		短答			◎					8の段の九九ができる。	97.0	
9		短答			◎					3の段の九九ができる。	95.6	
10		短答			◎					7の段の九九ができる。	95.0	
11	2	選択			○	◎		10000までの数・分数	数と計算	位取り記数法を理解し、1000と10の個数から、その数を表すことができる。	84.5	
12		選択			○	◎				数の相対的な大きさについて理解している。	70.3	○
13		選択			○	◎				10000より1小さい数を求めることができる。	90.7	
14	3	選択				◎		数直線に示された数を読み取ることができる。	30.7	○		
15	4	短答		○		◎		数の大小を理解し、示された数よりも大きい数を書くことができる。	86.0			
16	5	短答		○		◎		分数で大きさを表すことができる。	68.0	△		
17	6	選択		◎	○			たし算・ひき算	数と計算	文章問題(合併の場面)を、2けた＋2けた＝3けたの加法を適用して解くことができる。	82.9	
18		選択		◎	○					文章問題を、乗法九九を適用して解くことができる。	81.5	
19		選択		◎	○					文章問題(加法逆の減法の場面)を、2けた－1けた＝2けたの減法を適用して解くことができる。	83.3	
20	7	短答		◎	○			かけ算	数と計算	文章問題を解くための乗法九九の立式ができる。	78.9	
21		短答			◎					文章問題を解くために立式した乗法九九の式から、正しい答えを求めることができる。	79.8	
22	8	記述		◎	○		表	たし算・ひき算	数と計算	減法の文章問題(減法逆の減法の場面)を表した図を理解している。	48.7	○
23		選択		◎	○					減法の文章問題(減法逆の減法の場面)を、図を使って解くことができる。	66.2	○
24	9	短答	○			◎		かけ算	数と計算	答えが同じになる九九を全て求めることができる。	86.6	△
25	10	短答			○	◎	思	かけ算	数と計算	乗数と積の関係を理解している。	68.0	
26	11	選択		◎			思	かけ算	数と計算	示された乗法の式から適切な文章問題をつくらることができる。	53.9	○
27	12	選択	○		◎			時ごとと時間	量と測定	1時間＝60分であることを理解し、時間を求めることができる。	81.0	
28		選択	○		◎					2つの時刻の間の時間を求めることができる。	73.9	
29	13	選択	○		◎		思	時ごとと時間	量と測定	文章から必要な情報を読み取って、時間を求めることができる。	46.9	
30	14	選択	○			◎		長さ・かさ	量と測定	身近にあるものの長さを推察して、適切な単位を使うことができる。	79.7	
31		選択	○			◎				身近にあるもののかさの推察して、適切な単位を使うことができる。	34.7	○
32	15	短答	○		○	◎		長さ・かさ	量と測定	ものさしに示された長さを読み取ることができる。	80.7	
33	16	選択	○			◎		長さ・かさ	量と測定	長さの単位の関係を理解し、長短を判断することができる。	60.1	
34	17	選択	○		○	◎		長さ・かさ	量と測定	リットルまずに示されたかさを求めることができる。	75.9	
35	18	選択				◎		三角形と四角形	図形	正方形の特徴を理解し、他の図形から弁別できる。	87.8	
36		選択				◎				直角三角形の特徴を理解し、他の図形から弁別できる。	81.2	
37	19	選択				◎		はこの形	図形	立方体の辺と頂点の数を理解している。	71.9	
38	20	短答			○	◎		はこの形	図形	直方体から写し取ることができる面を理解している。	62.7	
39	21	短答	○	◎	○		思	たし算・ひき算	数と計算	場面を理解し、条件を満たす場合を考えることができる。	58.3	○
40		記述	○	◎	○		表			場面を理解し、条件を満たす場合を考え、その理由を説明できる。	21.5	○

3 全国平均正答率よりも5ポイント以上上回った問題分析について（大問3）

数直線に示された数を読み取る問題である。10進法記数法を知り、3学年で指導する1万を超える数と連続性や発展性を持って接続できるようにすることが大切である。

□類似問題

百を10こあつめた数を、千といい、と書きます。
千を2こあつめた数を、二千といい、と書きます。

0 1000 2000 3000
↑ 100 ↑ 100が10こ ↑ 1000が2こ ↑ 100が32こ

4 課題が見られる問題分析について（大問5，21）

- (1) 場面を想像しながら、分数で大きさを表す問題である。操作活動を十分に行い、実感を伴って指導することが大切である。また、 $1/2$ や $1/4$ などの分数を日常生活の中で使うことも定着を図る上で重要である。
- (2) 条件を満たす場面を考え、その理由を説明する問題である。文章問題を解くために買い物の場面を想像し、自分の考えを簡潔に説明する方法を指導する必要がある。

■類似問題

3年生の男子の人数は87人です。女子は、男子より19人少ないそうです。女子の人数は何人ですか。

わなげで、あかねさんはつづけて13回せいこうしました。ゆういちさんは、つづけて21回せいこうしました。どちらが、何回多くせいこうしましたか。

5 今後の指導について

算数的活動を通して、数量や図形の意味を実感を持ってとらえさせることが大切である。分数の問題では、ピザやケーキを分ける、色紙やハンカチを折るなどの具体的操作を数多く体験することが望まれる。買い物の問題も買った金額とおつりの関係や、残金でいくらの物が買えるか等、教具のお金や図を使っての具体的な操作活動と日常の買い物体験両方から理解の定着を図ることが必要である。また、算数の授業においても、自分の考えを根拠をもって説明する活動を積極的に取り入れていくことが大切である。最後の問題は無解答率が高かった。最後まで粘り強く問題に取り組む力を育てていくことも重要である。

小学校【第4学年国語】学力状況調査結果及び分析概要

1 学力状況調査結果の概要について

国語	正答率(%)		
	全体	基礎	活用
柏市	68.9	73.4	47.9
全国平均	66.6	71.8	43.1

(1) 基礎的内容について

基礎的問題は、出題内容全般概ね良好である。ローマ字を読んだり書いたりする問題に課題がある。

(2) 活用的内容について

活用問題も、出題内容全般概ね良好であるが、物語の内容を読みとる問題に関して、登場人物の行動から気持ちを読みとることが課題である。

2 調査問題について

問題正答率 ※「全国と比較」の欄は、柏市の正答率が全国正答率より5ポイント以上上回る場合を○、5ポイント以上下回る場合を△で示しています

通し番号	大問番号	解答形式	観点					活用観点	問題の内容	出題のねらい	全国正答率	全国と比較
			関	話	書	読	言					
1	1	選択	○	◎				話し合いの内ようを聞き取る	話の中心に気をつけて聞くことができる。	93.7		
2		選択	○	◎						91.9		
3		記述	○	◎	○					表	互いの考えの相違点や共通点を考えながら、進んで話し合うことができる。	37.5
4	2	短答					◎	漢字を読む	第3学年配当漢字を読むことができる。	91.7		
5		短答					◎			68.2	○	
6		短答					◎			87.7		
7		短答					◎			90.4		
8		短答					◎			77.0		
9		短答					◎			54.7		
10		短答					◎			81.5		
11		短答					◎			70.5		
12	3	選択					◎	言葉の学習	国語辞典の使い方を理解している。	56.5		
13		選択					◎			文の構成(主語)について理解している。	58.7	○
14		選択					◎			文の構成(述語)について理解している。	55.7	○
15		短答					◎			ローマ字を読むことができる。	56.8	△
16		短答					◎			ローマ字を書くことができる。	52.8	
17	4	選択					◎	物語の内ようを読み取る	登場人物の様子を読み取ることができる。	88.4		
18		選択					◎			登場人物の気持ちを読み取ることができる。	55.6	
19		選択					◎			思	59.3	
20	5	選択					◎	せつ明文の内ようを読み取る	文章の要点に注意して読み取ることができる。	71.6		
21		選択					◎			82.7		
22		選択					◎			段落の要点に注意して読み取ることができる。	49.4	○
23	6	記述	○		○		◎	調べた結果の表と文章を読み取る	表と文章を読み取って、適切な言葉を補って文を書くことができる。	34.3	○	
24		選択					◎			思	表と文章を関連付けて考えることができる。	28.0
25	7	記述	○		◎			作文	指定された長さで文章を書くことができる。	58.3		
26		記述			◎		○			二段落構成で文章を書くことができる。	50.2	
27		記述	○		◎					書こうとするものの中心を明確にして書くことができる。	83.8	
28		記述	○		◎					書こうとするものの理由を挙げて書くことができる。	79.0	

3 全国平均正答率よりも5ポイント以上上回った問題分析について（大問6）

表と文章を関連付けて考える問題である。この問題は、表から読みとったことを適切な言葉を補って文章に書く学習が重要である。

4 全国平均正答率よりも5ポイント以上下回った問題分析について（大問3）

ローマ字を読んだり書いたりする問題である。無解答率が高く、学習していても定着していない様子が見える。理解を確実なものにする手立てを考える必要がある。

■類似問題

次の読み方をするローマ字を下から選びましょう。

「ずかん」	1	s u k a n
	2	z u k i n
	3	z u k a n
	4	s u k o n

次の言葉をローマ字で書きましょう。

(1) さかな	(2) はさみ
(3) やかん	(4) かっぱ
(5) なわとび	(6) きょうりゅう
(7) おもちゃ	(8) としょかん

5 今後の指導について

児童にローマ字を理解させるためには、実際にローマ字表記されているものに多く触れさせることが大切である。そのためには、情報教育等、国語の授業以外の時間も活用することを心がける必要がある。ITアドバイザーとの連携でコンピュータを活用した学習を年間指導計画に位置付けるなどの工夫により、日常的な活用で定着を図ることができる。

また、とりわけ、「g a k k o u」のように、つまる音（促音）の表記は間違いやすいポイントなので、丁寧に指導していく必要がある。

小学校【第4学年算数】学力状況調査結果及び分析概要

1 学力状況調査結果の概要について

算数	正答率(%)		
	全体	基礎	活用
柏市	71.4	80.0	42.1
全国平均	68.5	77.6	37.3

(1) 基礎的内容について

基礎的問題は、出題内容全般概ね良好である。身近にあるものの重さを推察する問題に課題がある。

(2) 活用的内容について

活用問題は、全国平均を5ポイント近く上回っていて良好であるが、複雑な長文問題に関して、問題内容をきちんと理解することが課題である。

2 調査問題について

問題正答率 ※「全国と比較」の欄は、柏市の正答率が全国正答率より5ポイント以上上回る場合を○、5ポイント以上下回る場合を△で示しています。

通し番号	大問番号	解答形式	観点				活用観点	問題の内容	出題のねらい	全国正答率	全国と比較
			関	考	技	知					
1	1	短答			◎			計算のふく習	2けた+2けた=3けた(波及的繰り上がりあり)の計算ができる。	92.6	
2		短答			◎			たし算・ひき算	4けた+4けた=4けた(繰り上がり3回)の計算ができる。	88.2	
3		短答			◎			4けた-4けた=4けた(波及的繰り上がりあり)の計算ができる。	63.5	○	
4		短答			◎			計算のふく習	7の段の九九ができる。	98.9	
5		短答			◎			かけ算	2けた×2けた=3けたの計算ができる。	73.1	
6		短答			◎			わり算	3けた×2けた=4けたの計算ができる。	66.0	
7		短答			◎			わり算	2けた÷1けた=1けた(余りなし)の計算ができる。	97.0	
8		短答			◎			わり算	2けた÷1けた=1けた(余りあり)の計算ができる。	83.7	
9		短答			◎			大きい数・小数・分数	小数第一位+整数の計算ができる。	60.1	○
10		短答			◎			大きい数・小数・分数	同分母の真分数-真分数=真分数の計算ができる。	94.8	
11	2	選択		○	◎			大きい数・小数・分数	命数法で書かれた数を記数法で表すことができる。	68.6	
12	3	選択		○	◎			大きい数・小数・分数	数の相対的な大きさについて理解している。	72.3	○
13	4	選択			◎			大きい数・小数・分数	数直線上に示された小数を読み取ることができる。	96.3	
14		短答			◎			大きい数・小数・分数	小数のしくみを理解している。	60.5	○
15		選択			○	◎			数の相対的な大きさについて理解している。	86.0	
16		短答				◎			分子が1の分数が何個で1になるかを理解し、答えることができる。	77.5	
17	5	短答		◎	○			わり算	文章問題を解くための除法の立式ができる。	75.7	
18		短答		◎	○		思	わり算	文章問題を解くために立式した2けた÷1けた=1けた(余りあり)の式から、余りの処理をして正しい答えを求めることができる。	53.6	
19		選択		◎	○			かけ算	倍の文章問題を解くための乗法の式を選ぶことができる。	79.0	
20	6	短答		◎	○			口を使った式	文章問題を、口を使ったかけ算の式に表すことができる。	66.4	○
21	7	選択		◎			思	口を使った式	口を使った文章問題(減法逆の加法の場面)を表した図を理解している。	65.6	○
22	8	選択			◎	○		時ごとと時間	ある時刻から一定時間後の時刻を求めることができる。	83.8	
23		選択			◎	○		時ごとと時間	2つの時刻の間の時間を求めることができる。	79.7	
24		選択			◎	○		時ごとと時間	ある時刻から一定時間前の時刻を求めることができる。	79.8	
25	9	選択	○			◎		長さ・重さ	道のりの意味を理解し、地図から道のりを読み取ることができる。	85.6	
26	10	選択	○			◎		長さ・重さ	身近にあるものの長さを推察して、適切な単位を使うことができる。	63.5	
27	11	選択	○			◎		長さ・重さ	はかりに示された重さを読み取ることができる。	82.6	
28		選択	○			◎		長さ・重さ	身近にあるものの重さを推察することができる。	44.6	
29	12	選択				◎		円と球・三角形	円の直径について理解している。	88.2	
30	12	選択			◎	○		円と球・三角形	球の半径から、球が入る箱の辺の長さを求めることができる。	47.6	○
31	13	選択		◎		○	思	円と球・三角形	正三角形の性質がわかり、適用問題ができる。	26.7	○
32	14	短答				◎		円と球・三角形	二等辺三角形の定義を理解している。	70.9	
33	15	選択				◎			棒グラフを読み取り、提示された条件に該当する項目を示すことができる。	88.4	
34		短答	○			◎		棒グラフと表	表の値を棒グラフに表すことができる。	89.5	
35		記述	○	○			◎	表	棒グラフの有用性や特徴を理解している。	36.5	○
36	16	選択			◎		思	かけ算	()を用いて1つの式に表した3つの数の乗法について、式の意味を場面と結びつけて説明できる。	15.1	○
37		選択			◎		○	思	かけ算	()を用いて1つの式に表した3つの数の乗法について、式の意味を場面と結びつけて説明できる。	11.8
38	17	短答				◎		思	0を含む乗法を適用し、表を完成することができる。	43.5	
39		選択				◎		思	0を含む乗法を適用し、得点の合計を比べることができる。	53.9	
40	17	記述	○	◎	○		表	かけ算	2つの表で異なる数値に着目するなど工夫して、条件を満たす場合を考えることができる。	28.6	

3 全国平均正答率よりも5ポイント以上上回った問題分析について（大問6）

文章問題を、□を使ったかけ算の式に表わす問題である。この問題は、実物の操作を通した学習が重要である。

□類似問題

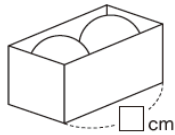
えん筆が7本ずつ入った箱がいくつかあります。えん筆は、ぜんぶで42本です。
わからない数を□箱として、式に書きましょう。

4 課題が見られる問題分析について（大問12, 5）

(1) 球の半径から、球が入る箱の辺の長さを求める問題である。この問題は、半径が示してあるが、半径からボール1個分の直径をイメージして、考える必要がある。

■類似問題

右の図のように半径6cmのボールが箱にきちんと入っています。
右の図の□にあてはまる数をもとめましょう。



(2) 文章問題を解くために、立式した2けた÷1けた（余りのある）の式から、余りの処理をして正しい答えを求める問題である。余りの処理をしないでそのまま解答する場合がある。

■類似問題

子どもが29人います。4人がけのベンチに分かれてすわります。
全員がすわるには、ベンチはいくつあればいいですか。

式 _____ 答え _____

5 今後の指導について

児童に長文の問題内容を理解させるためには、日頃から、作問に取り組ませて問題文に慣れさせるとよい。長文を読んで立式する際は、文章に書かれている順番に式を立てていくのではなく、文章全体を読み、内容を理解して式を立てるようにすることが大切である。また、図形の理解を深めるには、実際に図形を描かせたり、どんな図形ができるか考えさせたりすることが必要である。

小学校【第5学年国語】学力状況調査結果及び分析概要

1 学力状況調査結果の概要について

国語	正答率 (%)		
	全体	基礎	活用
柏市	74.5	77.6	59.5
全国平均	68.8	71.8	54.4

(1) 基礎的内容について

基礎的問題は、全国平均を5ポイント以上上回って良好であるが、文の構成（述語）に関する問題に課題がある。

(2) 活用的内容について

活用的問題も、全国平均を5ポイント以上上回って良好であるが、指示語に関する問題に課題がある。

2 調査問題について

問題正答率 ※「全国と比較」の欄は、柏市の正答率が全国正答率を5ポイント以上上回る場合を○、5ポイント以上下回る場合を△で示しています。

通し 番号	大問 番号	解答形式	観点					活用 観点	問題の内容	出題のねらい	全国 正答率	全国と 比較	
			関	話	書	読	言						
1	1	選択	○	◎					発表の内ようを聞き取る	話し手の意図を考えながら、話の内容を聞くことができる。	87.8		
2		選択	○	◎						話し手の工夫を考えながら、話の内容を聞くことができる。	52.2		
3		記述	○	◎	○			表		話し手の意図を考えながら、話の内容を聞き、メモをとることができる。	37.2	○	
4	2	短答					◎	漢字を読む	第4学年配当漢字を読むことができる。		95.4		
5		短答					◎				69.3		
6		短答					◎				90.4	○	
7		短答					◎				65.9	○	
8		短答					◎				74.6		
9		短答					◎			漢字を書く	第4学年配当漢字を書くことができる。	75.9	○
10		短答					◎						78.3
11	短答					◎		59.7	○				
12	3	選択					◎	言葉の学習	文の構成(主語)について理解している。	61.7			
13		選択					◎		文の構成(述語)について理解している。	62.6	△		
14		選択					◎		文の構成(連体修飾語)について理解している。	58.3	○		
15		選択					◎		文の構成(連用修飾語)について理解している。	52.6	○		
16		短答					◎	思	指示語について理解している。	63.4	△		
17	4	選択					◎	物語の内ようを読み取る	登場人物の様子を読み取ることができる。	90.9	○		
18		選択					◎		登場人物の気持ちを読み取ることができる。	86.1	○		
19		選択					◎		登場人物の様子を読み取ることができる。	81.7	○		
20		選択					◎		思	文章の要点に注意して、全体の内容を要約することができる。	70.0	○	
21	5	選択					◎	説明文の内ようを読み取る	文章の要点に注意して読み取ることができる。	88.9			
22		選択					◎		文章の要点に注意して、全体の内容を要約することができる。	77.6	○		
23		選択					◎			54.3	○		
24	6	記述	○	◎	○	○		パンフレットと話し合いを読み取る	資料を正しく読み取り、自分の考えがわかるように、適切な言葉づかいで話すことができる。	52.4	○		
25		選択					◎		思	資料と話し合いを関連付けて考えることができる。	48.8	○	
26	7	記述	○	◎				作文	指定された長さで文章を書くことができる。	63.5			
27		記述		◎		○			二段落構成で文章を書くことができる。	61.3			
28		記述	○	◎						71.7	○		
29		記述	○	◎						自分の意見とその理由を区別して書くことができる。	62.0	○	

3 全国平均正答率よりも5ポイント以上上回った問題分析について

全29問中18問、5ポイント以上上回った。

中でも、「物語の内ようを読み取る」問題と、「パンフレットと話し合いを読み取る」問題については、全問、5ポイント以上上回っている。

観点別にみても、「読むこと」に関する問題は、9問中8問、5ポイント以上上回っている。

「解答形式」や「基礎的問題か活用的問題か」に関しては、顕著な傾向はみられなかった。

4 全国平均正答率よりも5ポイント以上下回った問題分析について（大問3）

全国平均を5ポイント以上下回った問題は2問である。ともに「言葉の学習」（言語事項）に関する問題であった。（1）文の構成（述語）と、（2）指示語に関する問題である。

（1）に関しては、誤答の選択肢である名詞から動詞を連想し、これを述語ととらえてしまった児童が多かったものと考えられる。

■類似問題

次の文の^{じゅつ}述語をあとからえらびましょう。

学校から 帰る とちゅうで 雪が 急に ふりだした。

述語（ ）

（2）に関しては、位置関係に合う指示語（こそあど言葉）の理解が不十分な児童が多いものと考えられる。

■類似問題

次の会話文中の（ ）に入るこそあど言葉を書きましょう。

児童 「先生、宿題はどこにてい出すればよいですか？」

先生 （教室の先生のつくえを指さしながら）「（ ）に出して下さい。」

5 今後の指導について

「述語は、主語と述語の倒置がなければ、ほとんどの場合文末にくる」

「述語を押さえられれば主語が探しやすくなるので、述語から探す」

の2点について、再度指導を徹底する必要がある。

また、児童の「先生、トイレ。」のような会話を許容させるのではなく、「先生、トイレに行ってきます。」のように述語を意識させる指導も行っていく必要がある。指示語についても、児童との日常会話の中で教師が意識して使うようにして、児童の理解を促すことが大切である。

児童の学力差が最も顕著だったのが「書く能力」である。大問7（全4問）の不正解が

多かった児童については、授業の「まとめ」や「感想」、「振り返り」を自分で書かせる指導などを通して、考えを書くことに慣れさせるとともに、その場面を有効に活用して語彙を増やすための個別支援を行っていくと、効果が期待できる。

小学校【第5学年算数】学力状況調査結果及び分析概要

1 学力状況調査結果の概要について

算 数	正 答 率 (%)		
	全 体	基 礎	活 用
柏 市	68.2	71.0	52.4
全国平均	64.8	67.8	47.7

(1) 基礎的内容について

基礎的問題は、全国平均を約3ポイント以上上回っていて良好であるが、伴って変わる二つの数量の関係を式に表わす問題に課題がある。

(2) 活用的内容について

活用問題は、全国平均を約5ポイント近く上回っていて良好であるが、角の大きさの見当をつけることや角の大きさの測定方法を理解することが課題である。

2 調査問題について

問題正答率 ※「全国と比較」の欄は、柏市の正答率が全国正答率より5ポイント以上上回る場合を○、5ポイント以上下回る場合を△で示しています。

通し 番号	大問 番号	解答形式	観 点				活用 観点	問題の内容	領域	出題のねらい	全国 正答率	全国と 比較
			関	考	技	知						
1	1	短答			◎			計算のふく習	数と計算	2けた÷1けた=1けた(余りあり)の計算ができる。	82.9	
2		短答			◎			わり算		2けた÷1けた=2けた(余りあり)の計算ができる。	80.7	
3		短答			◎					3けた÷2けた=2けた(余りあり、商に空白あり)の計算ができる。	58.8	○
4		短答			◎			計算のふく習		小数第一位-整数の計算ができる。	56.6	○
5		短答			◎			小数		小数第二位+小数第二位の計算ができる。	83.3	
6		短答			◎					小数第二位-小数第三位(差が純小数)の計算ができる。	59.6	○
7		短答			◎			分数		帯分数+帯分数=帯分数(繰り上がりなし)の同分母分数の計算ができる。	82.9	○
8		短答			◎					帯分数-真分数=真分数(繰り上がりあり)の同分母分数の計算ができる。	79.8	
9		短答			◎			小数		小数第一位×整数の計算ができる。	86.2	
10		短答			◎					小数第一位÷整数=小数第一位の計算ができる。	59.7	
11	2	選択	○	◎				徳と兆・がい数の表し方	数と計算	位取り記数法を理解し、1兆と1億の個数から、その数を表すことができる。	69.2	
12		選択		◎	○					大きな数を10でわった数を求めることができる。	91.8	△
13	3	選択		○	◎			小数	数と計算	小数のしくみを理解している。	84.6	
14		選択		○	◎					小数の相対的な大きさを理解している。	76.8	○
15	4	短答			○	◎		分数	数と計算	数直線上に示された分数を読み取ることができる。	64.9	
16	5	選択	○	○		◎		分数	数と計算	帯分数、仮分数、真分数、整数を大小順に並べることができる。	65.0	△
17	6	選択				◎		徳と兆・がい数の表し方	数と計算	千の位までの概数の表し方を理解している。	77.4	
18		選択		◎		○				概数に対応する数の範囲を理解している。	52.0	○
19	7	選択		◎				わり算	数と計算	値の文章問題を解くための除法の式を選ぶことができる。	70.2	○
20	8	短答		◎	○			小数	数と計算	文章問題を解くための整数÷整数=小数第一位の除法の立式ができる。	70.6	
21		短答			◎					文章問題を解くために立式した整数÷整数=小数第一位(商が純小数)の式から、わり進んで正しい答えを求めることができる。	56.6	○
22		9	選択		◎			小数		数と計算	小数×整数の文章問題を表した図を理解している。	49.1
23	10	選択			◎	○		計算のきまり・変わり方調べ	数量関係	四則混合で()を用いた式の計算順序を理解している。	67.1	○
24	11	選択		◎	○		思	計算のきまり・変わり方調べ	数量関係	四則混合で()を用いた式に合った文章問題を選ぶことができる。	49.1	○
25	12	選択			○	◎		角の大きさ	量と測定	分度器の中に示された角の大きさを読み取ることができる。	83.8	
26		選択		◎		○	思			角の大きさの見当をつけることができる。	60.9	△
27	13	短答			◎	○		面積	量と測定	正方形の面積を求めることができる。	54.4	○
28		選択			○	◎				身近にあるものの面積を推察することができる。	15.4	○
29	14	選択	○	◎				面積	量と測定	複合図形で、面積を求める式から求め方がわかる。	82.8	
30	15	選択				◎		いろいろな形	図形	長方形の辺どうしの平行な関係を理解している。	93.0	
31	16	短答	○	○	◎			いろいろな形	図形	与えられた2つの辺をもとに、ひし形を作図することができる。	57.0	
32	17	選択				◎		いろいろな形	図形	四角形の対角線の性質を理解している。	54.4	
33	18	選択		◎		○		いろいろな形	図形	直方体の展開図を理解している。	56.1	○
34	19	選択	○		○	◎		折れ線グラフと表	数量関係	折れ線グラフの変化について理解し、グラフを読み取ることができる。	66.1	
35	20	選択	○	○		◎		折れ線グラフと表	数量関係	折れ線グラフの特徴と有用性を理解している。	57.0	
36	21	短答		◎		○		計算のきまり・変わり方調べ	数量関係	伴って変わる二つの数量の関係を式に表すことができる。	60.5	△
37	22	記述		◎		○	表	わり算	数と計算	除数と余りの関係を説明することができる。	32.9	○
38	23	記述	○	○		◎	表	折れ線グラフと表	数量関係	二次元表を読み取り、縦と横の分類項目を見て、対象のマスがどのような意味を持っているか指摘できる。	54.4	○
39		短答	○	○		◎	思			二次元表の読み方を理解している。	62.3	○
40		選択	○		◎		思			二次元表を利用し、問題を解くことができる。	26.8	

3 全国平均正答率よりも5ポイント以上上回った問題分析について（大問1）

3けた÷2けた=2けた(余りあり, 商に空位あり)のあまりのあるわり算の問題である。整数の除法についての理解を深め, その計算が確実にできることが大切である。

□類似問題

計算をしましょう。あまりもだしましょう。

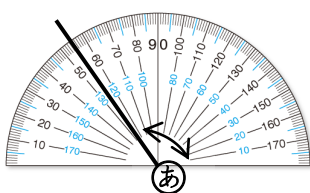
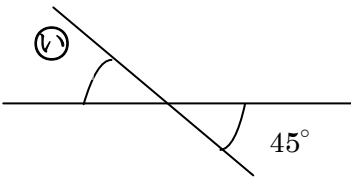
(1) $6 \overline{)91}$ (2) $11 \overline{)70}$ (3) $18 \overline{)831}$

4 全国平均正答率よりも5ポイント以上下回った問題分析について（大問12, 21）

(1) 分度器の中に示された角の大きさを読み取る問題である。角の大きさについて単位と測定の意味を理解し, 角の大きさの測定ができるようにする。角の大きさの見当をつけることがポイントとなる。

■類似問題

次の㉠, ㉡の角度はそれぞれ何度ですか。

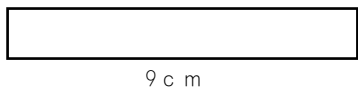
(1)  (2) 

(2) 伴って変わる二つの数量の関係を式に表すことができる。数量の関係を表す式について理解し, 式を用いることができるようになることが大切である。

■類似問題

まわりの長さが20cmの長方形をつくります。
たての長さを1cm, 2cm, …と変えると,
横の長さは下の表のように変わります。

たての長さを○cm, 横の長さを△cmとして, ○と△の関係を式に表しましょう。



たての長さ (cm)	1	2	3	4	5
横の長さ (cm)	9	8	7	6	5

5 今後の指導について

伴って変わる量の学習では, 式に表わすと, 長さや面積がいくつの中でも, 伴って変化する量を求めることのできるよさがある。そのよさがわかるように指導することが大切である。例えば, 長さの等しい棒を10本用意し, 上記の問題を解くといった, 実体験に基づいた指導が必要である。

小学校【第6学年国語】学力状況調査結果及び分析概要

1 学力状況調査結果の概要について

国 語	正 答 率 (%)		
	全 体	基 礎	活 用
柏 市	69.8	74.1	49.4
全国平均	67.6	72.0	46.4

(1) 基礎的内容について

基礎的問題は、全国平均を約2ポイント上回って良好であるが、漢字の読み書きに課題がある。

(2) 活用的内容について

活用的問題も、全国平均を3ポイント上回って良好であるが、話し合いの聞き取りに関する問題に課題がある。

2 調査問題について

問題正答率 ※「全国と比較」の欄は、柏市の正答率が全国正答率を5ポイント以上上回る場合を○、5ポイント以上下回る場合を△で示しています。

通し 番号	大問 番号	解答形式	観点					活用 観点	問題の内容	出題のねらい	全国 正答率	全国と 比較
			関	話	書	読	言					
1	1	選択	○	◎				話し合いの内容を聞き取る	話し手の意図を考えながら、話の内容を聞くことができる。	87.9		
2		選択	○	◎						86.4		
3		記述	○	◎	○					表	自分の立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合おうとすることができる。	53.9
4	2	短答					◎	漢字を読む	第5学年配当漢字を読むことができる。	93.9		
5		短答					◎			91.0		
6		短答					◎			85.5	△	
7		短答					◎			87.2	○	
8		短答					◎			64.6	△	
9		短答					◎			71.5		
10		短答					◎			87.5	△	
11	短答					◎	漢字を書く	第5学年配当漢字を書くことができる。	48.8	○		
12	3	選択					◎	言葉の学習	文の構成(主語)について理解している。	62.5	○	
13		選択					◎		文の構成(述語)について理解している。	51.4	○	
14		選択					◎		文の構成(連体修飾語)について理解している。	50.6		
15		選択					◎		文の構成(連用修飾語)について理解している。	31.7		
16	短答					◎	思	敬語の使い方について理解している。	53.7	○		
17	4	選択					◎	物語の内容を読み取る	登場人物の心情を読み取ることができる。	69.1		
18		選択					◎		登場人物の様子を読み取ることができる。	60.2		
19		選択			○	◎			登場人物の心情を読み取ることができる。	91.5		
20	5	選択					◎	説明文の内容を読み取る	文章の内容を的確に押さえながら読み取ることができる。	64.5		
21		選択					◎		段落のまとまりを考えながら読み取ることができる。	80.7		
22		選択					◎		文章の内容を読み取り、他の例に当てはめて考えることができる。	60.0		
23		選択					◎		思	47.7		
24	6	選択					◎	活動報告と話し合いを読み取る	資料と話し合いを正しく読み取って考えることができる。	39.4	○	
25		記述	○		○	◎	表		資料と話し合いを正しく読み取り、適切に書き直すことができる。	37.5	○	
26	7	記述	○	◎				作文	指定された長さで文章を書くことができる。	71.0		
27		記述		◎		○			二段落構成で文章を書くことができる。	64.5		
28		記述	○	◎					自分の意見とその理由を区別して書くことができる。	86.9		
29		記述	○	◎					79.2	○		

- 3 全国平均正答率よりも5ポイント以上上回った問題分析について（主に大問3，6）
全29問中8問，5ポイント以上上回った。

「言葉の学習」と「活動報告と話し合いを読み取る」で，高い正答率が見られた。

- 4 全国平均正答率よりも5ポイント以上下回った問題分析について（大問1，2）
全国平均を5ポイント以上下回った問題は4問である。（1）漢字の読み書きが3問，（2）「話し合いの内容を聞き取る」問題が1問であった。

（1）に関しては，5年生までの配当漢字の読みとり1問，書きとり2問である。

■類似問題（読み）

客人を招く。 快く思わない。 人が群がる。
勝利に導く。 使用の許可をもらう。

■類似問題（書き）

せいかつしゅうかんを身につける。 的確にはんだんする。
市役所のしょくいんをつとめる。 ほうふな資源^{げん}を持つ。
ぎじゅつを学ぶ。

（2）に関しては，「発表者の意見を的確にまとめて書く」問題であったが，「意見の一部しかまとめて書くことができなかった」準正答が22.4%と最も多かった。無回答は3.2%と少なかったので，正確に聞き取ることができなかった児童が多かったと考えられる。

5 今後の指導について

第5学年までの配当漢字について，日記や作文の指導の際に，「漢字で書けるものは漢字で書く」ことを指導する。

また，「スピーチ」等の際に，話し手の指導だけでなく，

- ①話し手の意図を考えながら聞く。
- ②自分の考えと比べながら聞く。

などの，聞き手に対する指導も徹底していく必要がある。聞き手の指導をしっかりと行うことで，互いの立場や意図をはっきりさせながら，計画的に話し合う力の向上につなげることが，大切である。

小学校【第6学年算数】学力状況調査結果及び分析概要

1 学力状況調査結果の概要について

算 数	正 答 率 (%)		
	全 体	基 礎	活 用
柏 市	65.6	71.7	36.9
全国平均	64.4	69.9	38.2

(1) 基礎的内容について

基礎的問題は、全国平均を約2ポイント近く上回っていて良好であるが、半径から円周を求める等、円周率に係る問題に課題がある。

(2) 活用的内容について

活用問題は、全国平均を少し下回っている。百分率とグラフの問題に課題がある。百分率についての正確な理解が必要がある。

2 調査問題について

問題正答率 ※「全国と比較」の欄は、柏市の正答率が全国正答率より5ポイント以上上回る場合を○、5ポイント以上下回る場合を△で示しています。

通し 番号	大問 番号	解答形式	観 点				活用 観 点	問題の内容	出題のねらい	全国 正答率	全国と 比較
			関	考	技	知					
1	1	短答			◎			計算の復習	3けた×2けた=5けた(被乗数に空位あり)の計算ができる。	69.9	○
2		短答			◎				3けた÷1けた=3けた(余りなし)の計算ができる。	71.8	○
3		短答			◎			小数の計算	小数第一位×小数第一位の計算ができる。	78.4	○
4		短答			◎				小数第二位×小数第一位の計算ができる。	61.4	○
5		短答			◎				小数第二位÷小数第一位=小数第一位の計算ができる。	76.8	
6		短答			◎				整数÷小数第一位=小数第三位(商が純小数)のわり進む計算ができる。	62.5	
7		短答			◎			分数の計算	真分数+真分数=真分数の分母どうしをかけた通分をした計算ができる。	88.8	
8		短答			◎				帯分数-真分数=真分数の片方の分母にそろえた通分をした計算(約分あり)ができ	54.5	
9		短答			◎				分数×整数(約分なし)の計算ができる。	84.9	
10		短答			◎				分数÷整数(約分あり)の計算ができる。	68.7	○
11	2	短答			○	◎		分数と小数	小数のしくみを理解している。	77.6	○
12		短答			○	◎			分数を小数に直すことができる。	68.0	
13	3	選択				◎		整数のなかま分け	整数を偶数と奇数に類別することができる。	77.6	
14		選択				◎			倍数について理解している。	82.4	
15	短答				◎	◎			最大公約数について理解し、それを求めることができる。	63.7	
16	4	選択				◎		分数と小数	分数倍の図の意味を理解している。	63.3	○
17	5	短答				◎		分数と小数	分数の分母と分子に同じ数を乗除してできる分数は、元の分数と同じ大きさを表すこと	28.6	
18	6	選択			◎	○		小数の計算	小数倍の文章問題(比較量を求める)を解くための乗法の式を選ぶことができる。	81.1	
19		短答			◎	○			文章問題を解くための小数の除法の立式ができる。	81.5	
20		短答				◎			文章問題を解くために立式した小数第一位÷小数第一位=整数(小数の余りあり)の式	53.7	
21	7	選択			◎		思	小数の計算	小数÷小数の式に合った文章問題を選ぶことができる。	28.2	
22	8	選択			◎	○		図形の角・円周	三角形の内角の和が180°であることを理解し、2つの角が与えられた三角形の残り	82.2	○
23		選択				◎	○		四角形の内角の和が360°であることを理解し、四角形の1つの内角を求めることが	63.3	○
24	9	選択	○	◎		○	思	図形の角・円周	図に示された五角形の内角の和の求め方を表す式がわかる。	70.2	
25	10	短答			◎	○	思	図形の角・円周	正方形の紙を3回折って切った形が正八角形だとわかる。	26.0	
26	11	選択			○	◎		図形の角・円周	半径から円周を求める式がわかる。	78.8	△
27	12	選択				◎		合同・立体	合同な図形を選ぶことができる。	89.3	
28	13	選択			◎	○		面積と体積	平行四辺形の面積を求める式がわかる。	85.7	
29		選択			◎	○			三角形の面積を求める式がわかる。	87.6	
30		選択				◎	○		台形の面積を求める式がわかる。	84.2	
31	14	選択				◎	○	面積と体積	立方体の体積を求める式がわかる。	84.9	
32	15	選択	○	◎		○	思	面積と体積	複合図形で、体積を求める式から求め方がわかる。	70.4	
33	16	選択			◎	○		単位量あたりの大きさ	測定値の個数が1つ増えたとき、新たな平均を求めることができる。	22.4	○
34	17	選択	○	◎		○		単位量あたりの大きさ	面積と人数の割合を求め、どの公園が最も混んでいるかを考察できる。	62.8	△
35	18	短答	○	◎		○		百分率とグラフ	与えられた表のデータから割合を求めることができる。	45.0	
36	19	選択			◎	○		百分率とグラフ	帯グラフの割合を読んで人数を求めることができる。	62.3	△
37	20	短答			◎	○		合同・立体	三角柱の展開図をかくことができる。	63.7	△
38	21	記述			◎	○	表	面積と体積	底辺と高さが等しければ、どんな三角形も等しい面積となることを理解している。	40.5	
39	22	選択	○	◎		○	思	百分率とグラフ	百分率を理解し、式の意味を理解することができる。	18.7	
40		記述	○	○	◎		表		百分率を理解し、代金を求めて比較することができる。	13.6	

小学校【中学1年国語】学力状況調査結果及び分析概要

1 学力状況調査結果の概要について

国 語	正 答 率 (%)		
	全 体	基 礎	活 用
柏 市	75.9	77.9	66.7
全国平均	74.2	76.4	63.9

(1) 基礎的内容について

基礎的問題は、全国平均を1.5ポイント上回って良好である。

(2) 活用的内容について

活用的問題も、全国平均を約3ポイント上回って良好である。

2 調査問題について

問題正答率 ※「全国と比較」の欄は、柏市の正答率が全国正答率を5ポイント以上上回る場合を○、5ポイント以上下回る場合を△で示しています。

通し 番号	大問 番号	解答形式	観点					活用 観点	問題の内容	出題のねらい	全国 正答率	全国と 比較
			関	話	書	読	言					
1	1	選択		◎				話の内容の聞き取り	話し手の意図を考えながら、話の内容を聞くことができる。	57.4		
2		選択		◎			話し手の工夫を考えながら、話の内容を聞くことができる。		92.7			
3		選択		◎					話し手の意図を考えながら、話の内容を聞くことができる。	91.8		
4		記述	○	◎			表			66.6		
5	2	短答					◎	漢字の読み	小学校で学習した漢字を読むことができる。	95.1		
6		短答					◎			85.8		
7		短答					◎			90.3		
8		短答					◎			77.2	○	
9		短答					◎			40.1		
10		短答					◎			78.1		
11		短答					◎			77.4		
12		短答					◎			45.3		
13	3	選択					◎	言葉の使い方と熟語の構成	日常よく使われる敬語の使い方を理解している。	75.9		
14		選択					◎		熟語の構成を理解している。	74.1		
15		選択					◎		思	ことわざの意味を理解している。	68.1	
16	4	短答	○		○	◎		説明文の内容の読み取り	文章の内容を的確にとらえることができる。	70.5	○	
17		選択				◎			段落相互の関係を考えながら内容を的確にとらえることができる。	67.0		
18		選択					◎			文章の内容を的確に押さえながら要旨をとらえることができる。	52.2	
19		選択					◎				76.9	
20	5	選択					◎	文学作品の内容の読み取り	登場人物の心情を押さえて読むことができる。	83.3		
21		選択					◎		場面の描写について注意して読むことができる。	84.4		
22		選択					◎		○	思	47.2	
23		選択					◎			登場人物の心情を押さえて読むことができる。	75.2	
24	6	記述	○		◎			作文	全体を見通して、書く必要のある事柄を整理することができる。	77.1		
25		記述			◎		○		考えを明確に表現するため、文章全体の構成を考慮することができる。	58.3		
26		記述	○		◎				自分の考えを明確にして書くことができる。	93.2		
27		記述	○		◎				自分の考えの理由を明確にして書くことができる。	91.4		
28		記述	○		◎				自分の考えを明確にして書くことができる。	84.4		

3 全国平均正答率よりも5ポイント以上上回った問題分析について（大問2，4）

全28問中2問，5ポイント以上上回った。その2問は次の2つである。

(1) 漢字の読み 1題

(2) 説明文の内容の読み取り（要約文の空欄にあてはまる語を本文中から抜き出して解答する問題）である。

4 課題が見られる問題分析について（大問2，6）

全国平均を5ポイント以上下回った問題は1問もない。

課題が見られる問題は，次の2つである。

(1) 漢字の書き 2題

(2) 作文 「考えを明確に表現するため，文章全体の構成を考えることができる」

作文の問題は「原稿用紙に正しく三段落に分けて書いている」ことが正答条件となっているが，次の2つの誤答が多かった。

・「一文ずつ段落分けをして書いている」（8. 1%）

・「段落ははじめの一字空けができていないなど，原稿用紙の使い方が間違っている」（7. 5%）

よって，原稿用紙の使い方に課題があると考えられる。

■類似問題

【問題】

ある中学校で、校庭を整備して「いこいの広場」を作ることになりましたが、この広場にごみ箱を設置するべきかどうかでみんなの意見が分かれました。この問題について、あなたはどのように考えますか。ごみ箱を設置するべきか設置するべきではないか、あなたの立場を明らかにして、意見を書きなさい。

〈注意する点〉

① 三段落構成（はじめ・なか・おわり）とすること。

② 第一段落（はじめ）にあなたの立場（「ごみ箱を設置するべきである」または「ごみ箱を設置するべきではない」）を書くこと。

③ 第二段落（なか）にあなたがそのように考えた理由を書くこと。

④ 第三段落（おわり）にまとめを書くこと。

⑤ 八行以上、九行以内（一四一字以上、一八〇字以内）で書くこと。

⑥ 原稿用紙の使い方や、誤字・脱字に注意して書くこと。
〈原稿用紙に書くときの注意〉

①、。 「」 『』 （ ） などの符号も一字分とるが、会話の終わりの「。」は一つのマスに書く。

② 「」などが、行の初めにくるときは、前の行の最後のマス目に、文字と一っしょに入れてよい。

③ 書き出しと段落の初めは一字下げる。

④ 会話文は行をかえて、「。」でくくって書く。

5 今後の指導について

1年生のうちに、小学校で学習した漢字の定着度を確認することが大切である。

「類似問題」等を活用しながら，原稿用紙の使い方について復習する必要がある。

これらの基礎基本の復習をしっかりと行うことに加え，思考力・判断力・表現力の向上を図るためにも，討論（ディベート）や論述（自分の立場を明らかにして意見を述べる）の指導にも重点的に取り組んでいくことが肝要である。

中学校【第1学年数学】学力状況調査結果及び分析概要

1 学力状況調査結果の概要について

数 学	正 答 率 (%)		
	全 体	基 礎	活 用
柏 市	73.9	76.4	61.0
全国平均	70.7	73.2	57.0

(1) 基礎的内容について

基礎的問題は、全国平均を約3ポイント以上上回っていて良好であるが、底面が台形の四角柱の体積を計算によって求めることに課題がある。

(2) 活用的内容について

活用問題は、全国平均を4ポイント上回っていて良好であるが、カレンダーの数の規則性を使って問題を解く等、約数や倍数の意味を理解することに課題がある。

2 調査問題について

問題正答率 ※「全国と比較」の欄は、柏市の正答率が全国正答率より5ポイント以上上回る場合を○、5ポイント以下下回る場合を△で示しています。

通し 番号	大問 番号	解答形式	観点				活用 観点	問題の内容	出題のねらい	全国 正答率	全国と 比較	
			関	考	技	知						
1	1	選択			◎	○	整数の性質	2つの整数(2けた)の最小公倍数を求めることができる。	88.4			
2		選択		◎	○			2つの整数(2けた)の最大公約数に関する文章題を解くことができる。	70.4			
3	2	短答			◎		小数・分数の計算	小数(小数第1位×小数第1位)の乗法の筆算ができる。	77.9			
4		短答			◎			小数(小数第1位÷小数第1位)の除法の筆算ができる。	83.5			
5		短答			◎			異分母の分数の加法の計算ができる。	65.0			
6		短答			◎			異分母の帯分数の減法の計算ができる。	73.2			
7		短答			◎			分数の乗法の計算ができる。	90.1			
8		短答			◎			分数の除法の計算ができる。	83.3			
9		短答			◎			帯分数を含む異分母の分数の乗法の計算ができる。	78.1			
10		短答			◎			分配法則を使って、異分母の分数の計算ができる。	71.2			
11	3	選択		◎		○	小数・分数の問題	小数×小数に関する文章題の正しい式を選択することができる。	88.3			
12		選択		◎		○		分数の除法を適用して、文章題を解くことができる。	55.5			
13	4	選択				◎	面積と体積	直径が与えられた円の面積を求める式を選択することができる。	72.8	○		
14		短答		◎		○		底面が台形の四角柱の体積を求めることができる。	32.7			
15	5	短答		◎		○	面積と体積	与えられた式から複合図形の体積の求め方を考え、図に示すことができる。	78.5			
16	6	記述	○	◎			表	どちらが混んでいるかを、小屋の面積の違いに着目しながら説明できる。	56.4	○		
17		選択		◎		○		単位量あたりの大きさと速さ	小屋の面積とにわりの数の割合を求め、どの小屋が最も混んでいるかを考察できる。	52.8		
18	7	選択		○	◎		単位量あたりの大きさと速さ	速さと時間から進むことのできる道のりを求めることができる。	49.3	○		
19	8	選択			◎	○	平面図形	三角形の3つの角の和が180°であることを利用して、与えられた2つの角から残りの角を求めることができる。	90.0			
20		選択			◎	○		直線が180°であることと四角形の4つの角の和が360°であることを利用して、四角形の内角の大きさを求めることができる。	76.7			
21	9	短答				◎	平面図形	合同な図形の対応する辺と角がわかる。	79.1	○		
22	10	短答				◎	平面図形	拡大図とその倍率がわかる。	86.1			
23	11	選択		○		◎	平面図形	正方形の対称の軸が何本あるかわかる。	77.8			
24		短答		○		◎		点対称な図形を選択することができる。	56.5	○		
25	12	選択	○		◎		変わり方のきまり・文字と式	棒を三角形につぎつぎに並べていくとき、棒の数の増え方のきまりを理解し、5回目ときの全部の棒の本数を求めることができる。	87.5			
26		選択		◎		○		増え方のきまりから、ともなって変わる2つの数量の関係をとらえることができる。	86.2			
27	13	選択			○	◎	場合の数	3人が1列に並ぶときの並び方を表した樹形図を選択できる。	77.5	○		
28	14	選択			◎	○	場合の数	硬貨を投げたときの表と裏の出方が何通りあるかを求めることができる。	63.4	○		
29		選択				◎		◎	4色の色紙から2色を選ぶときの選び方が何通りあるかを求めることができる。	52.0	○	
30	15	選択	○			◎	比と比例	2つの量が比例する関係をいろいろな関係のものの中から選択できる。	57.1			
31		選択		◎		○		比例関係を用いて、1つの量から他の量を求めることができる。	84.4			
32	16	選択		◎		○	比と比例	速さの比を用いて、1つの量から他の量を求めることができる。	70.9			
33	17	選択		○	◎		変わり方のきまり・文字と式	乗法の文字式で表されることから選ぶことができる。	82.0			
34		選択		○	◎			加法の文字式で表されることから選ぶことができる。	83.9			
35	18	短答	○	◎		○	思	整数の性質	カレンダーの数の規則性を使って問題を解くことができる。	36.6		
36	19	選択	○	◎		○	思	平均	条件が異なる3人を比べるには、平均を比較すればよいことがわかる。	67.2	○	
37		選択		◎		○			思	条件が異なる3つのものを、1日の平均問題数を求めて比べることができる。	61.2	○
38		短答		◎		○			思	1日の平均問題数を使って、1週間の合計を求めることができる。	42.2	

3 全国平均正答率よりも5ポイント以上上回った問題分析について（大問6）

異種の二つの量の割合としてとらえられる数量について、その比べ方や表し方を理解することが大切である。単位量当たりの大きさについて、異なった二つの量の割合でとらえられる数量を比べるとき、三つ以上のものを比べたり、いつでも比べられるようにしたりするためには、単位量当たりの大きさを用いて比べるとより能率的に比べられることを理解することが大切である。

□類似問題

音楽室、家庭科室、理科室の3つの教室で生徒が勉強しています。下の表は、各教室の面積と生徒の人数を表しています。

いちばん混んでいるのは、どの教室ですか。

	面積 (㎡)	生徒数 (人)
音楽室	75	33
家庭科室	82	35
理科室	81	37

4 課題が見られる問題分析について（大問16）

二つの数量の大きさを比較しその割合を表す場合に、どちらか一方を基準とすることなく、簡単な整数の組を用いて表す方法が比である。a : bという比の表わし方を理解し活用できることが大切である。

■類似問題

下の表は、本のページ数と重さを表したものです。

- (1) 本の重さは、ページ数に比例しますか。
- (2) ページ数が70ページの時の重さは、何gですか。
- (3) 重さが960gの時、ページ数は何ページですか。

ページ数	10	20	30	40	50
重さ (g)	80	160	240	320	400

5 今後の指導について

乗法及び除法の計算の仕方を指導するに当たっては、形式的に覚えさせるのではなく、その方法を、整数や小数の計算などを活用して、児童・生徒が工夫して考え出させるようにする必要がある。例えば、ノート（1冊たりの重さが均一なもの）を100冊用意し、10冊ごとに増していくノートの重さを量り、簡単な整数の組を用いて表す方法を理解させるといった実体験に基づいた指導が必要である。

中学校【第2学年国語】学力状況調査結果及び分析概要

1 学力状況調査結果の概要について

国語	正答率(%)		
	全体	基礎	活用
柏市	70.5	72.9	62.4
全国平均	69.1	71.4	61.6

(1) 基礎的内容について

基礎的問題は、出題内容全般概ね良好である。しかし、文法や語句などの言語についての知識・理解に課題がある。

(2) 活用的内容について

活用問題は、全国平均を少し上回っているものの、表現力がほぼ同程度にとどまっている。また、記述問題では無回答率が比較的高いことも課題である。

2 調査問題について

問題正答率 ※「全国と比較」の欄は、柏市の正答率が全国正答率より5ポイント以上上回る場合を○、5ポイント以上下回る場合を△で示しています。

通し番号	大問番号	小問番号	解答形式	観点					活用観点	問題の内容	出題のねらい	全国正答率	全国との比較
				関	話	書	読	言					
1	1		選択		◎					話し合いの内容の聞き取り	話の内容を正確に聞き取ることができる。	91.0	
2			選択		◎				聞き手に理解してもらい話し方の工夫を聞き取ることができる。		78.7		
3			選択		◎						目的に沿った話し合いの進め方の工夫を聞き取ることができる。	84.5	
4			記述	○	◎				表		話題をとらえて自分の考えをまとめ、主体的に話し合いに参加することができる。	51.1	
5	2	①	短答					◎	漢字の読み	小学校と第1学年で学習した漢字を読むことができる。	76.9		
6		②	短答					◎			92.3		
7		③	短答					◎			92.1		
8		④	短答					◎			75.9	○	
9		①	短答					◎	漢字の書き	小学校で学習した漢字を書くことができる。	46.8		
10		②	短答					◎			56.1	○	
11		③	短答					◎			75.6		
12		④	短答					◎			63.4	△	
13	3		選択					◎	文法・語句に関する知識	文の構造について理解している。	46.1		
14			短答					◎			単語の類別について理解している。	50.9	
15	4		選択					◎	文法・語句に関する知識	話し言葉と書き言葉の違いについて理解している。	59.2		
16			選択					◎			漢字の部首について理解している。	62.6	△
17	5		選択				◎	説明文の内容の読み取り	文章の展開に即して内容をとらえることができる。	文章の構成や展開を正確にとらえることができる。	57.3		
18			選択				◎				文章の展開に即して内容をとらえることができる。	72.1	
19			選択				◎				文章の展開を確かめながら、要旨をとらえることができる。	63.3	
20			選択				◎					登場人物の心情を押さえて読むことができる。	88.3
21	6		選択				◎	文学作品の内容の読み取り	文脈の中での語句の効果的な使い方について理解することができる。	作品の展開を考えながら主題を考えることができる。	79.4		
22			選択				◎				様々な文章を読み、必要な情報を集めることができる。	78.4	
23	7		記述			○	◎	新聞記事の読み取り	文章の展開を確かめながら、要旨をとらえることができる。	文章の展開に即して内容をとらえることができる。	34.3		
24			選択				◎				文章の展開に即して内容をとらえることができる。	57.8	
25			選択				◎					78.0	
26			選択				◎					78.0	
27	8		記述	○			◎	作文	文章の形態に応じて適切な構成を工夫することができる。	身近な生活や学習から材料を見つけて書くことができる。伝えたい事柄を明確にして書くことができる。	78.6		
28			記述				◎				67.5		
29			記述	○			◎				82.5		
30			記述	○			◎				76.6		
31			記述	○			◎				60.3		

3 課題が見られる問題分析について（大問3，4）

(1) 文の構造についての理解を問う問題。副詞と形容詞の区別を正確に理解させる必要がある。

(2) 漢字の部首について理解しているかを問う問題。

単独ではなく、漢字に含まれる部首を意識させる必要がある。

■類似問題

次の各文の — 部分は、どの文節を修飾しよくしていますか。

① 校門ではったり友達と会った。

② もう少しははつきりと大きな声で意見を述べなさい。

③ 全然作業が進んでいない。

■類似問題

次の①②③を部首とする漢字をあとから選んで、その番号を書きなさい。

① わかんむり	② しんにょう	③ おおざと
1 剣	2 限	3 延
4 空	5 部	6 進
7 写	8 健	

4 今後の指導について

修飾・被修飾の関係の理解ができていないということは、文の成分についても十分理解ができていないことが考えられる。漢字も含め、既習事項を意識して取り上げ、復習する必要がある。辞書を活用することを習慣化させることも有効である。

新聞記事の内容を要約して小見出しをつける問題にも課題があった。選択肢がある問題に対して、記述問題の無解答率も比較的高い。「いつ」「どこで」「何が」「どうした」を入れるなど条件を付けて書く学習や、主題に対する自分なりの考えを端的に書く学習など、さまざまな条件を意識した課題を設定していくことが重要である。

中学校【第2学年数学】学力状況調査結果及び分析概要

1 学力状況調査結果の概要について

算 数	正 答 率 (%)		
	全 体	基 礎	活 用
柏 市	63.4	64.5	57.4
全国平均	61.4	62.8	53.5

(1) 基礎的内容について

基礎的問題は、出題内容全般概ね良好である。比例に関して、与えられた式を満たすグラフを見分けることが課題である。

(2) 活用的内容について

活用問題は、全国平均を4ポイント近く上回っていて良好であるが、方程式の未知数 x が何を表しているのかを把握する問題に課題がある。

2 調査問題について

問題正答率 ※「全国と比較」の欄は、柏市の正答率が全国正答率より5ポイント以上上回る場合を○、5ポイント以上下回る場合を△で示しています。

通し 番号	大問 番号	解答形式	観 点				活用 観点	問題の内容	出題のねらい	全国 正答率	全国と 比較
			関	考	技	知					
1	1	短答				◎	正負の数のしくみ	数直線上の点の表す数を読むことができる。	86.9		
2		短答			◎	○		負の分数と負の整数の大小を比較することができる。	61.5		
3		短答			◎	○		数直線上に、負の分数が示す点を記入することができる。	63.9	○	
4		短答				◎		絶対値について理解している。	36.9	○	
5	2	短答			◎		正負の数の計算	正負の数の減法の計算ができる。	70.6		
6		短答			◎			負の数の累乗を含む乗法の計算ができる。	78.2		
7	3	選択	○	○	◎		正負の数の計算	基準からの差で与えられた、負の数を含む5つの数から平均を求めることができる。	63.2		
8	4	選択				◎	文字式の計算	係数とは何かを理解し、文字式における負の数の係数を答えることができる。	65.5		
9		短答			◎			式を簡単にできる。	69.9		
10		短答			◎			分配法則を用いる文字式の計算ができる。	70.2		
11	5	選択			◎	○	文字式の計算	x の値を代入して式の値を求めることができる。	58.9		
12		選択	○		◎			式が何を表しているのかを答えることができる。	67.6		
13		選択	○	◎				時速と時間から道のりを求める式を選択することができる。	66.4		
14	6	短答	○	◎	○		文字式の表し方	大小関係を不等式に表すことができる。	32.8		
15	7	選択			◎	○	1次方程式	方程式とその解の関係を理解し、与えられた解を満たす方程式をいくつかの方程式から選択することができる。	76.8		
16		短答			◎			基本的な1次方程式を解くことができる。	79.1		
17		短答			◎			かっこを含む1次方程式を解くことができる。	59.3		
18	8	短答			◎		1次方程式	比例式を解くことができる。	42.3	○	
19	9	選択		◎		○	1次方程式の応用	文章題とそれを解く方程式から、文字 x が何を表しているかを答えることができる。	65.5		
20		選択		◎		○		式の中のある文字式が何を表しているかを答えることができる。	48.9		
21	10	短答	○	◎	○		1次方程式の応用	所持金についての方程式の x が何を表しているかわかる。	47.0	○	
22		短答	○	◎	○			ケーキの個数についての方程式の x が何を表しているかわかる。	32.2		
23	11	選択			◎	○	比例・反比例	x 、 y の比例関係を表す表から比例の式を選択することができる。	70.6		
24		選択			◎	○		x 、 y の値が与えられたとき、それを満たす反比例の式を選択することができる。	56.2		
25		選択			◎	○		与えられた比例の式を満たすグラフを選択することができる。	66.8		
26	12	選択			○	◎	平面図形	線対称の意味を理解し、正六角形のある対角線を対称の軸とみたとき、対称な点を選ぶことができる。	57.6		
27		選択			○	◎		合同な2つの図形をみて、どのような移動をさせたのかわかる。	63.3		
28	13	選択				◎	空間図形	立方体でぬじれの位置にある辺の個数を求められる。	82.8		
29		選択				◎		四角錐の投影図を選択することができる。	77.1		
30	14	選択		◎		○	空間図形	円錐の展開図から、その表面積を求める式を選択することができる。	66.5		
31	15	選択			◎		空間図形	三角柱の体積を求めることができる。	55.5		
32		選択			◎	○		球の体積を求めることができる。	25.3		
33	16	選択			○	◎	資料の散らばりと代表値	度数分布表のある階級の度数を、ヒストグラムから読み取ることができる。	80.3		
34		選択			○	◎		あるデータのメジアンを求めることができる。	44.5		
35	17	選択	○			◎	比例・反比例	機械を動かす時間と作ることのできるポップコーンの重さが比例の関係であることがわかる。	78.8		
36		短答	○		◎			機械を動かす時間と作ることのできるポップコーンの重さの関係を式に表すことができる。	56.2		
37		選択	○		◎	○		表した式と同じ比例の関係になるものを、いろいろな事象の中から選択することができる。	59.3		
38		記述	○	◎		○		表	2つのグラフ上の点の座標や傾きから、どちらが1分間に150gのポップコーンを作る機械かを判断し、その理由を説明できる。	47.7	

中学校【第2学年社会】学力状況調査結果及び分析概要

1 学力状況調査結果の概要について

社会	正答率(%)		
	全体	基礎	活用
柏市	56.7	59.2	47.2
全国平均	58.7	61.2	49.3

(1) 基礎的内容について

基礎的問題は、全国平均を若干下回っている。「社会的事象についての知識・理解」の定着が不十分と考えられるため、個別指導が今後の課題である。

(2) 活用的内容について

活用問題は、全国平均を若干下回っている。資料から読み取った内容を文章で表現する問題に課題がある。

2 調査問題について

問題正答率 ※「全国と比較」の欄は、柏市の正答率が全国正答率より5ポイント以上上回る場合を○、5ポイント以上下回る場合を△で示しています。

通し番号	大問番号	解答形式	観点				活用観点	問題の内容	出題のねらい	全国正答率	全国と比較	
			関	思	技	知						
1	1	選択			◎	○		地球の姿をとらえる	地球儀を活用し、緯度と経度を用いて地球上での位置を示すことができる。	52.5		
2		短答			◎	○			地球儀を活用し、各大陸のおおよその位置関係を示すことができる。	78.5		
3		選択		◎	○				地球儀上で、大陸と大洋の位置関係が判断できる。	45.1		
4		選択		○		◎			2地点間の時差について理解している。	50.4		
5		選択	○	◎	○	○			思	日付変更線の位置や正距方位図法の知識を、日常生活に活用して判断することができる。	56.5	△
6	2	選択				◎		日本の地域構成	日本の東西南北端の島について理解している。	70.7	△	
7		選択			○	◎			日本の都道府県の位置と名称を、地図と関連付けて理解している。	78.5	△	
8		選択	○	◎	○	○			思	歴史で得た知識を参照して地図を読み取り、日本の地方区分と結びつけて考えることができる。	50.7	
9	3	選択			○	◎		世界や日本の地形と人口分布	世界の造山帯について、その地域的特色を理解している。	66.9	○	
10		短答			○	◎			日本は環太平洋造山帯に属していることを理解している。	27.9		
11		選択			◎	○			世界の人口分布の地図を見て、人口密度の高い地域を読み取ることができる。	90.1		
12		選択	○	◎	○	○			思	過疎地域についての知識をもとに複数の資料を読み取った上で、過疎地域の現状を判断することができる。	35.8	
13		選択		○	○	◎				日本の人口構成の特色を理解し、その人口ピラミッドを描ける。	60.9	
14	4	選択			○	◎		世界の気候の特色	世界各地の気候の分布について、おおよそを理解している。	60.0		
15		選択		◎		○			世界の各気候帯の特色について考え、判断できる。	66.0		
16		選択	○			◎		日本の気候の特色	日本の主な自然災害について理解している。	66.3		
17		選択	○	◎	○	○			思	日本海側の冬の気候の特色について、季節風と結びつけて考えることができる。	54.0	
18		短答			◎			気温と降水量の資料を読み取り、グラフに表すことができる。	65.4			
19	5	選択	○			◎		弥生時代～古墳時代	弥生時代の日本について、東アジアの動きと関連付けて理解している。	41.3		
20		選択		○		◎			弥生時代の日本のくらしの様子について理解している。	44.0		
21		短答	○	○		◎			写真のような古墳の形状について、その呼称を理解している。	80.0	△	
22		記述	○	◎	○	○			表	資料を読み取り、5世紀ごろの大和政権の様子について考え、表現することができる。	35.9	
23		選択		○		◎				古墳時代の文化について理解している。	67.0	
24	6	選択			○	◎		7世紀～11世紀の政治と文化	聖徳太子が行ったさまざまな政治について理解している。	89.5		
25		選択			○	◎			飛鳥時代から奈良時代にかけての歴史の流れを、主要なできごとを通して理解している。	62.4		
26		選択	○	◎	○	○			思	奈良時代の税の資料を読み取り、農民に課されていた税について考えることができる。	43.3	
27		選択			○	◎				平安京を、地図上の位置と関連付けて理解している。	51.5	△
28		選択		◎		○				9世紀から11世紀にかけての、貴族(藤原氏)の政治の特色を理解している。	57.3	
29		選択			○	◎				国風文化について、文化財と関連付けて理解している。	43.0	
30	7	選択	○			◎		中世の日本	平清盛の業績について理解している。	61.7		
31		短答	○			◎			鎌倉幕府の政治のしくみや外国との関係について、理解している。	64.2		
32		選択	○			◎				資料から、元寇後の日本の社会の変動について、鎌倉幕府の政治体制を踏まえて読み取ることができる。	62.7	
33		選択			◎	○				室町時代の代表的な文化財を、写真資料によってとらえることができる。	47.4	
34		記述	○	◎	○	○			表	資料から武士の館の特徴を読み取り、表現することができる。	69.2	△

3 全国平均正答率よりも5ポイント以上下回った問題分析について（大問1，2）

■類似問題

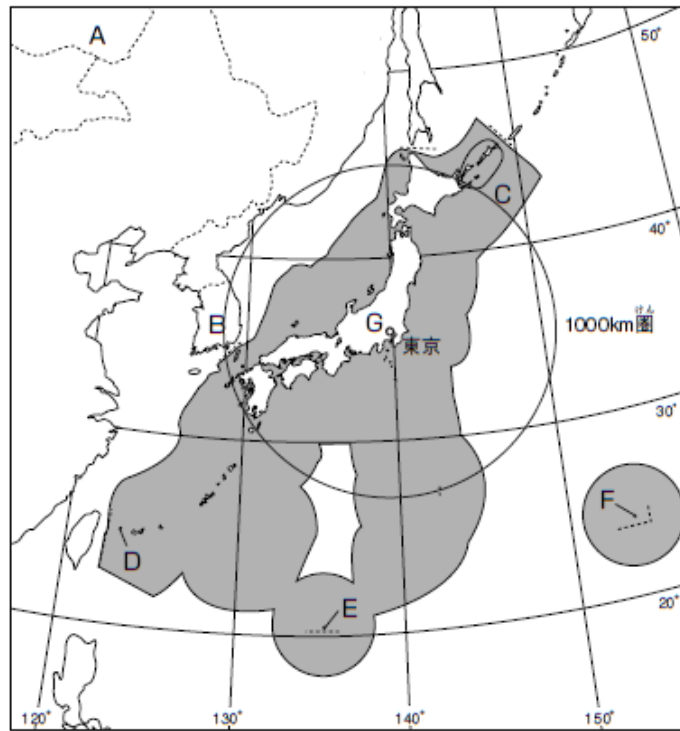
(1) 日本の東西南北端の島については、名称・位置はもちろん、排他的経済水域の意義を含めた海洋国家としての特色や我が国の領土をめぐる問題である。

また日本の地域区分を扱う際には、都道府県の名称と位置に加え、都道府県庁所在地も確実に習得させることが必要である。

地球儀や地図を使って、地球上の位置を緯度・経度で表したり、複数の地点の位置関係を確認したりすることが大切である。その際、赤道や本初子午線、日付変更線などを探す活動を取り入れることが重要である。

(1) 日本列島はAの〔 〕大陸の東のはしに位置する。

(2) 日本の国土面積は約〔 〕万K m²である。



(2) 資料から特色等を読み取り、文章で表現する問題については、日ごろから文章を書くことに慣れていなければ、対応が難しい。

4 今後の指導について

基礎的・基本的な知識，概念や技能を確実に習得させるためには、繰り返して学習させることが必要である。語句の意味を確実に理解し、書くことができなければ、それを活用して論理的な文章を組み立てることは難しい。生徒が語句を習得するうえで、ノートをしっかり書くことは重要である。系統的，構造的な板書計画とノート指導の見直しが大切である。

また、読解力を問われる記述式問題に対応するためには、日ごろから、書くことに慣れていなければならない。単元ごとに、学習内容を文章にまとめたり、テーマをもとにグループで話し合ったりといった言語活動を充実させ、思考力・判断力・表現力を身につけることが必要である。

中学校【第2学年理科】学力状況調査結果及び分析概要

1 学力状況調査結果の概要について

理 科	正 答 率 (%)		
	全 体	基 礎	活 用
柏 市	54.8	56.6	47.3
全国平均	55.8	57.6	48.3

(1) 基礎的内容について

基礎的問題は、若干全国平均を下回っている状況である。「自然事象についての知識・理解」の定着を図るための個別指導が課題である。

(2) 活用的内容について

活用問題は、若干全国平均を下回っている状況である。記述問題に対して無解答率が高く、苦手意識をもっている生徒が多いことが課題である。

2 調査問題について

問題正答率 ※「全国と比較」の欄は、柏市の正答率が全国正答率より5ポイント以上上回る場合を○、5ポイント以上下回る場合を△で示しています。

通し 番号	大問 番号	解答形式	観 点				活用 観点	問題の内容	出題のねらい	全国 正答率	全国と 比較
			関	思	技	知					
1	1	選択		◎	○		身近な植物の観察	正しいルーペの使い方を指摘できる。	58.1	△	
2		選択		◎	○			正しいスケッチのしかたを指摘できる。	81.2		
3		記述	○	◎		○		表	葉がたがいに重なり合わないようになっている理由を説明できる。	60.7	
4	2	選択		◎		○	植物の分類	植物を分類する観点がわかり、裸子植物の特徴が指摘できる。	60.7	△	
5		選択		○		◎		植物を分類した図で、ある植物がどのなかに分類できるか指摘できる。	63.5		
6		選択		○		◎		観察した植物が単子葉類であることがわかり、根や葉脈のようすを指摘できる。	48.1	△	
7	3	選択		○	◎		葉のつくりとはたらき	植物の光合成・呼吸を調べる対照実験の設定条件を指摘できる。	59.4		
8		選択		◎		○		実験の結果から二酸化炭素の増減を指摘できる。	65.7		
9		選択		◎		○		ヨウ素反応の結果から、どの袋の葉で光合成が行われ、デンプンができたかが指摘できる。	63.4		
10	4	選択		◎		○	光・音の性質	結果の表を見て、物体の位置と像ができるスクリーンとの位置との関係、物体の位置とスクリーンにできる像の大きさとの関係を見つけることができる。	24.8		
11		選択			○	◎		凸レンズで虚像ができる条件を理解し、その像を指摘できる。	35.4		
12	5	選択			○	◎	光・音の性質	音の大小による波形の違いを指摘できる。	61.8		
13		選択			○	◎		音の高低による波形の違いを指摘できる。	56.8		
14		選択		◎	○	○		モノコードを用いたときの低い音を出す条件を指摘できる。	49.3		
15	6	短答		○		◎	力と圧力	水中の物体にはたらく力のことを、「浮力」と定義できる。	55.9		
16		短答		◎		○		浮力の大きさを求めることができる。	59.2		
17		選択		◎		○		水中の物体にはたらく浮力の大きさは、深さがちがっても変わらないことを指摘できる。	31.5	○	
18	7	選択		○		◎	力と圧力	力の大きさの意味が理解でき、1kgの物体にはたらく重力が何Nか求めることができる。	32.9		
19		選択			◎	○		面積と力の大きさから、圧力を計算で求めることができる。	34.8		
20		短答		○		◎		スポンジのへこみ方の違いは、力の大きさが同じでも、ふれ合う面積によって圧力が異なるために生じる、ということを指摘できる。	58.4		
21		選択	○	◎		○		思	圧力を小さくする工夫をしている身近な例をあげることができる。	44.8	
22	8	選択		◎	○	○	物質の状態変化	エタノールが多くふくまれる混合物を指摘できる。	86.6		
23		選択				◎		沸点の違いを利用した混合物の分離法を、「蒸留」と定義できる。	71.2		
24		選択	○	◎		○		思	蒸留が、日常生活のどのような場面で行われているかを指摘できる。	36.1	
25	9	選択			○	◎	気体の性質	水上置換法で捕集する気体の性質を指摘できる。	70.8		
26		選択				◎		実験で発生した気体が二酸化炭素であることがわかり、二酸化炭素の性質を指摘できる。	68.3	△	
27		選択				◎		発生した気体が酸素であることがわかり、酸素の性質を指摘できる。	53.7		
28	10	選択	○	◎		○	物質の性質	鉄とアルミニウムを見分ける方法を指摘できる。	55.3		
29		短答	○	◎		○		思	物質の密度から、水への浮き沈みを指摘できる。	47.5	
30		選択				◎		プラスチックに共通する性質を理解している。	61.3		
31	11	選択		○		◎	地層のでき方	サンゴの生息場所から、堆積当時の環境を指摘できる。	69.1		
32		選択		◎				堆積岩の特徴からその成因を指摘できる。	80.6		
33		選択		○		◎		褶曲について理解し、褶曲するときに加わる力を指摘できる。	69.6		
34	12	選択		◎	○	○	地震のゆれ	地震波の伝わり方を表したグラフから、地震の発生時刻を求めることができる。	49.2		
35		選択				◎		震度とマグニチュードを理解している。	37.8	○	
36		記述	○	◎		○		表	緊急地震速報の考え方を理解している。	44.4	

3 全国平均正答率よりも5ポイント以上上回った問題分析について（大問6）

水中ではたらく浮力の大きさについての問題である。実験・観察により実感をともないながら理解を図ることが大切である。

□類似問題

空気中で物体をつるすとニュートンばかりは、4Nを示していたが、水中に入れると3Nを示した。

このとき、4Nは物体にはたらく〔 〕を示している。

1N (= 4N - 3N) は、この物体にはたらく〔 〕の大きさを示している。

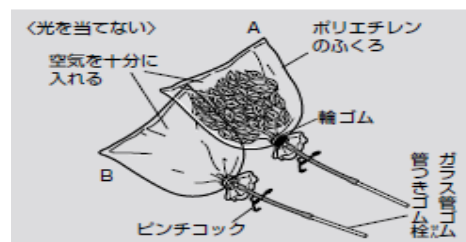
4 課題が見られる問題分析について（大問3）

実験結果から光合成や呼吸による二酸化炭素の増減を指摘する問題である。植物のはたらきによる気体の出入を全体的に捉える必要がある。

■類似問題

ふくろA・ふくろBの中の気体を石灰水の中におし出すと、ふくろAの中の気体は石灰水を白くにごらせるが、ふくろBの中の気体は石灰水にごらせない。

→ふくろAの中の葉は、光が当たっていないため〔 〕だけを行っているので、〔 〕を出しているからである。



5 今後の指導について

「自然事象への関心・意欲・態度」を高めながら学習を進めることが必要である。日々の授業において、実例や模式図を用いた指導や実験・観察をとおした問題解決的な学習、授業で取り扱う内容を日常生活と関連付けながらの指導をしていくことが大切である。生徒によって学習の定着度に大きな差が見られる内容については、適宜個別指導等を取り入れていく必要がある。

中学校【第2学年英語】学力状況調査結果及び分析概要

1 学力状況調査結果の概要について

算数	正答率(%)		
	全体	基礎	活用
柏市	73.7	77.2	61.6
全国平均	68.9	72.7	55.9

(1) 基礎的内容について

基礎的問題は、全国平均を5ポイント上回っている。単語の並べ替えによる英作文に課題がある。

(2) 活用的内容について

活用問題は、全国平均を5ポイント近く上回っている。対話文の読み取りが、課題である。

2 調査問題について

問題正答率 ※「全国と比較」の欄は、柏市の正答率が全国正答率より5ポイント以上上回る場合を○、5ポイント以上下回る場合を△で示しています。

通し番号	大問番号	解答形式	観点				活用観点	問題の内容	出題のねらい	全国正答率	全国と比較
			関	表	理	知					
1	1	選択	○		◎			リスニング(絵を見て答える)	疑問詞疑問文(Where ~?)の応答を聞き取ることができる。	92.2	
2		選択	○		◎			慣用表現(時刻をたずねる)の応答を聞き取ることができる。	75.3		
3		選択	○		◎			慣用表現(出身をたずねる)の応答を聞き取ることができる。	95.6		
4		選択	○		◎			疑問詞疑問文(How many ~?)の応答を聞き取ることができる。	93.6		
5		選択	○		◎			canの疑問文の応答を聞き取ることができる。	97.7		
6	2	選択	○		◎			リスニング(会話内容)	会話の内容(かばんの中身)を聞き取ることができる。	97.2	
7		選択	○		◎			会話の内容(所有者をたずねる)を聞き取ることができる。	92.5		
8		選択	○		◎			会話の内容(初対面のあいさつ)を聞き取ることができる。	95.4		
9	3	記述	○		◎		思	リスニング(メモの完成)	英文の要点(水曜日の予定)を聞き取ることができる。	56.6	
10		記述	○		◎		思	英文の要点(金曜日の予定)を聞き取ることができる。	46.7	○	
11	4	選択			◎			長文の読み取り	長文の内容を把握できる。	83.8	
12		選択			◎			長文の内容(曜日の名前)を把握できる。	83.3		
13		選択			◎			長文の内容を把握できる。	90.0		
14		選択			◎			長文の内容を把握できる。	62.9	○	
15		記述	○	◎			表	条件英作文	長文の内容を把握し、自分の立場で適切な表現ができる。	82.9	
16	5	選択			◎			会話文の読み取り	対話の流れを把握し、対話文を完成させることができる。	71.8	
17		選択			◎			対話文の内容を把握することができる。	60.4	○	
18		選択			◎			対話文の内容を把握し、質問文に答えることができる。	79.6	○	
19		選択			◎			対話文の内容を把握し、質問文に答えることができる。	89.6		
20		記述			◎			対話文の内容を把握し、質問文に答えることができる。	33.3	○	
21	6	選択			○	◎		文法・慣用表現の知識・理解	対話の中でWhoで始まる疑問文が理解できる。	41.9	○
22		選択			○	◎		対話の中でWhoseで始まる疑問文が理解できる。	69.9	○	
23		選択			○	◎		対話の中でWhatで始まる疑問文が理解できる。	73.5	○	
24		選択			○	◎		機内での会話(飲み物のやり取り)が理解できる。	50.9	○	
25		選択			○	◎		対話の中で慣用表現(値段のたずね方)が理解できる。	66.4	○	
26		選択			○	◎		対話の中でWhereで始まる疑問文が理解できる。	49.9	○	
27	7	短答			○	◎		単語の並べ替えによる英作文	電話での表現(Can I talk to ~?)を理解し、正しい語順で書くことができる。	50.1	
28		短答			○	◎		How manyを使った疑問文を理解し、正しい語順で書くことができる。	47.6	○	
29		短答			○	◎		一般動詞の命令文を理解し、正しい語順で書くことができる。	54.2	○	
30		短答			○	◎		Whenを使った過去形の疑問文を理解し、正しい語順で書くことができる。	64.3	○	
31	8	記述	○	◎			表	条件英作文	一般動詞の疑問文を書くことができる。	31.3	○
32		記述	○	◎			表	否定の命令文を書くことができる。	45.6	○	
33	9	記述	○	◎			表	自由英作文	自分の名前の紹介に続いて、can, do well or be good atといった表現を用いて、「上手にできること」を書き表すことができる。	73.1	
34		記述	○	◎			表	自由英作文	自分の名前の紹介に続いて、can, do well or be good atといった表現を用いて、「上手にできること」を書き表すことができる。	54.2	○
35		記述	○	◎			表	自由英作文	自分の名前の紹介に続いて、can, do well or be good atといった表現を用いて、「上手にできること」を書き表すことができる。	57.1	○

3 全国平均正答率よりも5ポイント以上上回った問題分析について（大問8）

否定の命令文を書く問題である。日常的に使っている表現を英語で書くことは容易であるので、これからも授業で英語を使う場面を多く設定することが必要である。

□類似問題

次のような場合、英語でどのように言いますか。3語以上の1文で書きなさい。
相手に、ここでサッカーをすることはできません、と伝える場合。

4 課題が見られる問題分析について（大問5，7）

(1) 対話文の内容を把握し、質問文に答える問題である。

二人の会話の内容を把握するためには、口頭での対話練習を繰り返し行うことにより、定着を図ることが大切である。

■類似問題

次の対話文は日本人の中学生タロウが、留学生のジョン（John）に図書室で会ったときの会話です。よく読んで、あとの問いに答えなさい。

Taro : Hello, John. What are you doing?

John : (ア) I'm writing a letter to Steve.

Taro : Who's Steve?

John : He is my brother's friend.

(以下割愛)

(2) 単語の並べ替えによる英作文に課題がある。日本語とは違う英語特有の語順を意識させるための指導を工夫するとともに、電話での会話など場面設定を明確にした指導が必要である。

■類似問題

次の対話文が意味の通る文になるように、()内の語(句)を正しく並べかえて書きなさい。

A : How (pencils / many / want / you / do) ?

B : I want three.

5 今後の指導について

英語で表現する楽しさとともに、正確な英語で表現させるためには、英語の文法の説明に終わらず、実際のコミュニケーション場面において使ってみるという観点から文構造等を繰り返し指導したり、まとめて取り扱う指導を通したりして、多様な英語表現を定着させることが重要である。

中学校【第3学年国語】学力状況調査結果及び分析概要

1 学力状況調査結果の概要について

国語	正答率(%)		
	全体	基礎	活用
柏市	69.4	74.6	47.1
全国平均	67.5	72.5	45.9

(1) 基礎的内容について

基礎的問題は、出題内容全般概ね良好である。ただ、漢字の書き取りや文法等、言語についての知識・理解について既習事項を定着させる必要がある。

(2) 活用的内容について

活用問題は概ね良好であるが、長文読解から要旨をまとめる。自分の考えをまとめて書くなどの点で課題が見られる。

2 調査問題について

問題正答率 ※「全国と比較」の欄は、柏市の正答率が全国正答率より5ポイント以上上回る場合を○、5ポイント以上下回る場合を△で示しています。

通し番号	大問番号	中間番号	解答形式	観点					活用観点	問題の内容	出題のねらい	全国正答率	
				関	話	書	読	言					
1	1	-1	選択		◎					話し合いの内容の聞き取り	話の中心的部分と付加的な部分の関係に注意して、聞き取ることができる。	93.7	
2		-2	選択		◎				話の論理的な構成や展開を考えて、聞き取ることができる。		74.0		
3		-3	選択		◎				話し合いが目的に沿って効果的に展開するように、聞き取ることができる。		88.0		
4		-4	記述	○	◎				表		自分の考えを話すのにふさわしい話題を選ぶことができる。	74.2	
5	2	-1	短答					◎	漢字の読み	小学校と第2学年までに学習した漢字を読むことができる。	70.4	○	
6			短答					◎			91.7		
7			短答					◎			65.5	○	
8			短答					◎			97.7		
9		-2	短答					◎	漢字の書き	小学校で学習した漢字を書くことができる。	58.5	△	
10			短答					◎			51.7		
11			短答					◎			66.4	△	
12			短答					◎			68.0		
13	3	-1	選択					◎	文法・語句に関する知識	単語の性質について理解している。	54.6	○	
14		-2	選択					◎		単語の活用について理解している。	66.1		
15	4	-1	選択					◎	文法・語句に関する知識	類義語・対義語について理解している。	93.2		
16		-2	短答					◎		思	同訓異字について理解している。	38.0	
17	5	-1	選択					◎	説明文の内容の読み取り	書き手の論理的展開の仕方を的確に理解することができる。	文章の展開に即して内容をとらえることができる。	91.3	
18		-2	選択					◎			73.7		
19		-3	選択					◎			38.6		
20		-4	短答			○	◎				思	42.2	
21			記述			○	◎				表	24.1	
22		-5	選択					◎			思	39.7	
23	-6	選択					◎		文章を読んで要旨をとらえ、考えることができる。	47.6			
24	6	-1	選択					◎	文学作品の内容の読み取り	文脈における語句の効果的な使い方について理解できる。	79.4		
25		-2	選択					◎		作品の展開に即して心情をとらえることができる。	88.8		
26		-3	選択					◎		70.2			
27		-4	選択					◎		思	表現の仕方や文章の特徴に注意して読むことができる。	57.1	
28	7		記述	○		◎			作文	文章の形態に応じて適切な構成を工夫することができる。	72.4		
29			記述			◎		○			68.2		
30			記述	○		◎					72.1		
31			記述	○		◎					70.1		
32			記述	○		◎			伝えたい事柄を明確にして書くことができる。	71.8			

3 課題が見られる問題分析について（大問2， 3）

(1) 漢字の書き取り問題。小学校で習った漢字を普段から適宜書かせる必要がある。

(2) 単語の性質について理解する問題。活用のある語と無い語を整理し、活用した形を文の中で確認させる必要がある。

■類似問題

次の各文の——部分のカタカナを、漢字で書きなさい。

①カをカゲンする。

②ヒハンの的な意見を述べる。

③商品のセンデンをする。

■類似問題

次の各文の——部分で、活用のある単語をそれぞれ一つ選んで、その番号を書きなさい。

(1) 小さなかばんの中には、作業で使う道具がぎっしりつまっていた。

(2) とても荒れた天気だった。しかし、夜になると、おだやかになった。

4 今後の指導について

普段から適宜漢字を使用して書かせる指導が必要である。また、観点別「書く能力」の結果から、定着が不十分であると考えられるので、このような生徒への個別指導が課題である。「書く」ために「読み」の指導をして、手本となる書き方に気づかせる指導も有効である。また、「文章を読んで要旨をとらえ、考える問題」の解答結果からも、部分的な内容を全体の要旨と誤って考えてしまった生徒が多いと考えられる。筆者がどのように論を展開しているのか全体を丁寧に読み取らせ、キーワードをもとに要旨をまとめさせる活動を取り入れる必要がある。

中学校【第3学年数学】学力状況調査結果及び分析概要

1 学力状況調査結果の概要について

算 数	正 答 率 (%)		
	全 体	基 礎	活 用
柏 市	64.7	68.4	44.2
全国平均	61.3	64.8	42.1

(1) 基礎的内容について

基礎的問題は、出題内容全般概ね良好であるが、仮定と結論を区別し、図形の性質を推論する問題に課題がある。

(2) 活用的内容について

活用問題は、全国平均を2ポイント以上上回っていて良好であるが、身近にある1次関数に関して、問題内容をきちんと理解することが課題である。

2 調査問題について

問題正答率 ※「全国と比較」の欄は、柏市の正答率が全国正答率より5ポイント以上上回る場合を○、5ポイント以上下回る場合を△で示しています。

通し 番号	大問 番号	解答形式	観 点				活用 観点	問題の内容	出題のねらい	全国 正答率	全国と 比較
			関	考	技	知					
1	1	短答			◎		式の計算	次数が2の項を含む文字式の同類項をまとめることができる。	79.0		
2		短答			◎			文字式の除法の計算ができる。	64.9		
3		短答			◎			文字式の乗除の混じった計算ができる。	46.3		
4		短答			◎			分配法則を用いる文字式の計算ができる。	80.7		
5		選択			◎	○		x, yの1次の等式について解くことができる。	55.1		
6		選択			◎			x, yを含む式の値を求めることができる。	72.7		
7	2	選択			○	◎	連立方程式	2元1次方程式の解について理解し、与えられた解をもつ方程式を完成させることができる。	68.4		
8	3	短答			◎		連立方程式	連立方程式を加減法で解くことができる。	67.1		
9		短答			◎			連立方程式を代入法で解くことができる。	64.0	○	
10	4	選択	○	◎		○	連立方程式	文章題の内容に適した連立方程式を選択することができる。	78.8		
11	5	選択			○	◎	1次関数	与えられた1次関数の式から傾きと切片を答えることができる。	91.8		
12		選択			◎	○		1次関数の式から、xの増加量に対するyの増加量を求めることができる。	52.5		
13		選択			◎			1次関数のグラフから、その式を選択することができる。	71.8		
14		短答			○	◎		1次関数の式から、1次関数のグラフをかくことができる。	68.4		
15	6	選択			◎	○	1次関数	変化の割合と1次関数を満たすx, yの値から、その式を求めることができる。	59.1	○	
16		選択			◎	○		与えられた2点を通る1次関数を求めることができる。	54.1	○	
17		選択			◎			○	点の移動に伴う三角形の面積の変化を1次関数で表すことができる。	42.8	
18	7	選択			◎	○	確率	確率の求め方を理解し、3種類の色のついた12個の玉から1個取り出したとき青玉である確率を求めることができる。	77.4	○	
19		選択	○		◎	○		大小2個のさいころの目の和が3になる確率を求めることができる。	58.0		
20	8	短答		○	◎	○	平行線と角・図形の性質	平行線と錯角の関係を理解し、平行線と折れ線のつくる角を求めることができる。	63.8	○	
21		短答			◎	○		四角形の内角の和が360°であることから、3つの内角が与えられた四角形の残りの角を求めることができる。	79.8		
22		短答		○	◎			三角形の内角と外角の関係を理解し、それを用いて1つの角を求めることができる。	67.6		
23		短答			◎	○		平行四辺形の性質と三角形の内角の和を用いて1つの角を求めることができる。	73.6		
24		短答			◎	○		二等辺三角形の性質を用いて底角を求めることができる。	68.0		
25	9	選択			◎	○	平行線と角・図形の性質	正十五角形の1つの内角の大きさを求めることができる。	58.3	○	
26	10	選択	○	◎		○	思	図形の性質と証明	仮定と結論を見きわめ、図形の性質を調べっていくことについて考察し、証明の誤りとその原因について指摘できる。	50.0	
27		記述	○	◎		○	表	平行線と角・図形の性質	証明を読んで、結論を導くことができる理由を、平行線と角の関係から説明することができる。	34.9	
28	11	選択			○	◎	○	図形の性質と証明	示された根拠に合った式を選択することができる。	58.1	○
29		選択			○	◎	○		証明に合った直角三角形の合同条件を選択することができる。	51.2	○
30	12	選択			○	◎		図形の性質と証明	二等辺三角形になることを証明するために、合同な三角形から何を示せばよいか、判断できる。	39.7	
31	13	選択	○			◎	思	1次関数の利用	1次関数のグラフから、ばねがのびた長さをよみとることができる。	44.1	
32		短答	○			◎	思		グラフの特徴を理解し、その特徴を正しく説明している文章を選択することができる。	55.5	
33		記述	○	◎		○	表		2つの直線の傾きをよみとり、どちらのばねのほうがよく伸びるかを説明することができる。	25.8	

3 全国平均正答率よりも5ポイント以上上回った問題分析について（大問6）

- (1) 与えられた2点を通る1次関数の式を求める問題である。今後も、座標平面上のどこに2点があるのかを、イメージできるようにすることが重要である。

□類似問題

次の条件をみたす1次関数を求めなさい。

(1) グラフが2点 $(-1, 6)$, $(2, -3)$ を通る。

(2) グラフが2点 $(-4, 10)$, $(1, 0)$ を通る。

4 課題が見られる問題分析について（大問5, 10）

- (1) 1次関数の式から、 X の増加量に対する Y の増加量を求める問題である。1次関数の変化の割合は、常に X の係数に等しいことを、グラフをかいて確かめさせる必要がある。

■類似問題

次の条件をみたす1次関数を求めなさい。

(1) 変化の割合が2で、 $x=0$ のとき $y=3$ である。

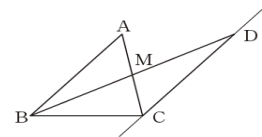
(2) 変化の割合が -1 で、 $x=0$ のとき $y=-2$ である。

- (2) 証明を読んで結論を導くことができる理由を、平行線と角との関係から説明する問題である。証明の根拠を明らかにし、自分の言葉で筋道たてて説明する活動を丁寧に積み上げていく練習を個別に行っていくことが有効である。

■類似問題

$\triangle ABC$ で、辺 AC の中点を M とし、 BM の延長と、点 C を通り辺 AB に平行な直線との交点を D とします。

このとき、 $MB=MD$ となることを証明しなさい。



5 今後の指導について

関数は2つの変数をとらえるという本来の目的のため、式や表、グラフを使うそれぞれの良さを強調して指導していくことが大切である。

図形では、証明問題の無回答率が4分の1を超えており、抵抗感が大きい。日頃から実際に図形を描かせたり、図形の中で既知と未知を考えさせたりすることが大切である。

中学校【第3学年社会】学力状況調査結果及び分析概要

1 学力状況調査結果の概要について

社会	正答率(%)		
	全体	基礎	活用
柏市	50.2	52.0	41.8
全国平均	51.6	53.5	43.1

(1) 基礎的内容について

基礎的問題は、出題内容全般で、若干全国平均を下回っている状況である。「社会的事象についての知識・理解」が定着していないと考えられるため、個別指導が今後の課題である。

(2) 活用的内容について

活用問題は、全国的にも低い傾向がある。資料を適切に収集、選択、処理、活用し、それらの資料に基づいて、多面的・多角的に考察し、公正に判断する態度を身につけさせることが大切である。

2 調査問題について

問題正答率 ※「全国と比較」の欄は、柏市の正答率が全国正答率より5ポイント以上上回る場合を○、5ポイント以上下回る場合を△で示しています。

通し 番号	大問 番号	解答形式	観点				活用 観点	問題の内容	出題のねらい	全国 正答率	全国と 比較	
			関	思	技	知						
1	1	選択			◎		世界の国々の調査(アメリカ)	資料から、アメリカの地形の概要について読み取ることができる。	37.1	○		
2		選択	○	◎	○	○		○	○	61.5		
3		選択		○	◎				資料から、アメリカの農業の特色を考え、読み取ることができる。	73.4		
4		選択			◎				資料から、アメリカの鉱工業の概要について読み取ることができる。	73.3		
5		記述	○	◎	○	○			○	○	66.7	
6	2	選択			○	◎	世界や日本の地形と人口分布	世界の遼山帯について、その地域的特色を理解している。	77.2			
7		短答			○	◎			日本は環太平洋遼山帯に属していることを理解している。	50.8		
8		選択			◎	○			世界の人口分布の地図を見て、人口密度の高い地域を読み取ることができる。	90.9		
9		選択	○	◎	○	○			○	○	49.4	
10		選択		○	○	◎				日本の人口構成の特色を理解し、その人口ピラミッドを指摘できる。	74.1	○
11	3	選択			◎	○	資源や産業から見た日本	日本の産業別人口割合についての理解をもとに、グラフを読み取ることができる。	25.9	○		
12		選択			◎				日本の農業の特徴に関する資料を読み取ることができる。	16.4		
13		記述	○	◎	○	○			○	○	26.3	
14		短答			○	◎				世界各国の(排他的)経済水域設定が日本の漁業にあつた影響について理解している。	41.4	△
15		短答				◎				太平洋ベルトについて理解している。	59.5	△
16	4	選択			◎	○	ヨーロッパ人との出会いと全国統一	鉄砲伝来に関する史料を読み取ることができる。	59.5	△		
17		選択			○	◎			ヨーロッパ人の新航路開拓について理解している。	49.1		
18		選択				◎			室町幕府の最後の将軍について理解している。	21.6		
19		短答				◎			織田信長の統一事業について理解している。	40.5	△	
20		選択	○			◎			○	○	70.7	○
21		選択			◎	○				(安土)桃山文化の資料を読み取ることができる。	56.9	△
22		選択		○		◎				豊臣秀吉の朝鮮侵略について理解している。	45.7	△
23		短答	○	◎	○	○			○	○	19.8	
24	5	選択			○	◎	江戸時代	武家諸法度の資料から、江戸幕府が行った大名統制を読み取ることができる。	45.7	△		
25		選択			○	◎			鎖国下での対外関係の内容について、関連諸国と関係づけ理解している。	66.4	△	
26		選択			○	◎			江戸時代の産業について、その特色を理解している。	47.9		
27		短答				◎				株仲間について理解している。	39.2	
28		選択				◎				元禄文化について理解している。	53.4	△
29		選択				◎				江戸時代の大版の様子について理解している。	67.2	
30		記述	○	◎	○	○			○	○	34.9	
31	6	選択			◎	○	明治時代	福沢諭吉について理解している。	70.7	○		
32		選択	○	◎		○			○	45.7		
33		選択	○	◎		○			○	43.1	○	

3 全国平均正答率よりも5ポイント以上上回った問題分析について（大問1）

アメリカの地形の概要については、地図や地球儀を使って、基本的事項を繰り返し覚えることが必要である。また産業の特色については、グラフのデータを読み取る技能の定着を図ることが大切である。

4 課題が見られる問題分析について（大問3, 4）

(1) 新学習指導要領では「我が国の歴史の大きな流れ」を理解する一方で、各時代の特色をとらえる学習が新設された。年表を使って基礎的・基本的な知識、概念を習得させることが重要である。

■ 類似問題

時代	社会/政治	日本の動き	世界の動き
室 町	↓ 戦国 の世	(1543年) ・ポルトガル人が鉄砲を伝える。 (1549年) ・フランシスコ・ザビエルがキリスト教を伝える。 ・南蛮貿易が始まる。 (1560年) ・〔 〕で織田信長が今川義元を破る。 (1571年) ・織田信長が〔 〕を焼き打ちにする。	新航路の 開拓 宗教改革

(2) 世界各国の排他的経済水域の設定による、日本の漁獲高の変化と漁業の変化をグラフから読み取る問題は、領土問題を理解しながら、経済水域の意義や日本の産業について多面的・多角的に理解する必要がある。

5 今後の指導について

教科書を手引きとして、習得すべき知識や技能を明らかにすることが大切である。単に語句を「丸暗記」させるだけでなく、学習目標に即した読み取りの方法や視点、学習の進め方については、しっかりと「教える」ことを心がけることが必要である。

板書計画やノート指導を再点検し、社会的事象の持つ意味や関連を考えさせ、論旨をまとめるなどの学習活動から概念の形成を図ることが大切である。資料から読み取ったことを箇条書きにしたり、発表したりする学習活動を繰り返す中で、自分の考えを論述できるようにして、思考力・判断力・表現力を問う記述式問題に対応できるようにすることが課題である。

中学校【第3学年理科】学力状況調査結果及び分析概要

1 学力状況調査結果の概要について

理 科	正 答 率 (%)		
	全 体	基 礎	活 用
柏 市	55.5	57.2	48.3
全国平均	54.8	56.5	47.6

(1) 基礎的内容について

基礎的問題は、全国平均とほぼ同等である。人体の学習に関心・意欲を持たせて指導することが必要である。

(2) 活用的内容について

活用問題は、全国平均とほぼ同等である。思考する力については概ね良好であるが、表現する力に課題がある。

2 調査問題について

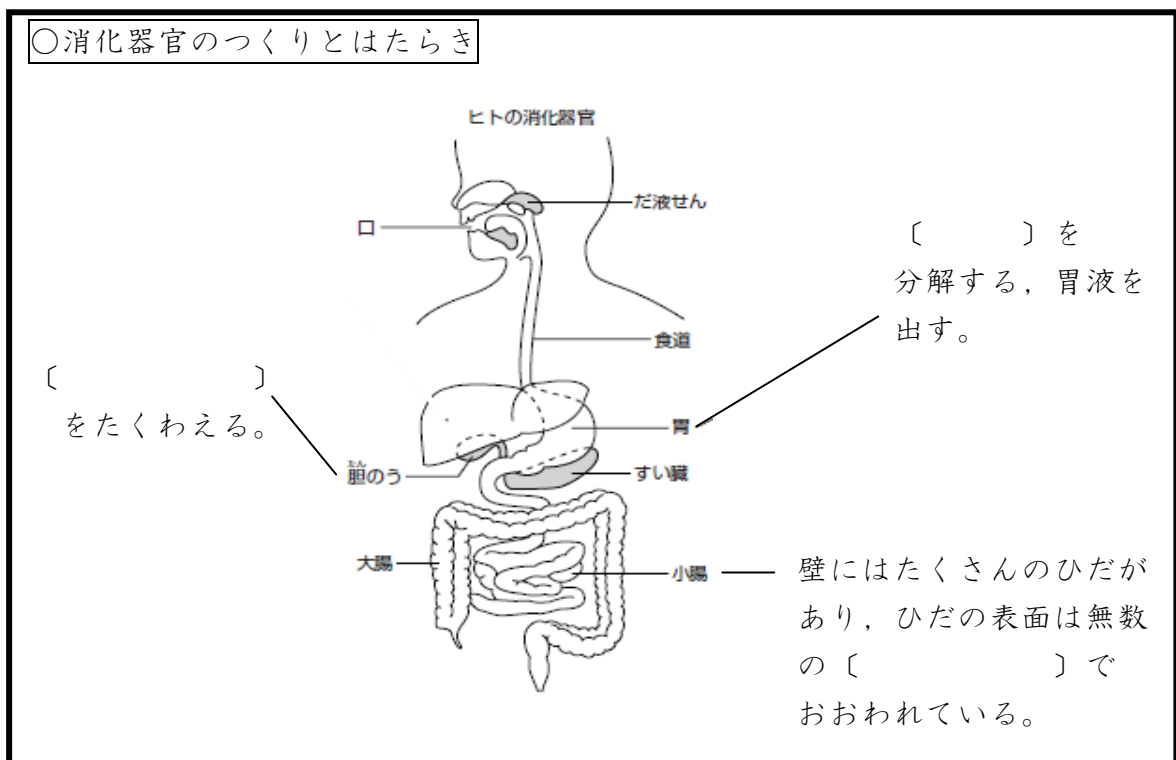
問題正答率 ※「全国と比較」の欄は、柏市の正答率が全国正答率より5ポイント以上上回る場合を○、5ポイント以上下回る場合を△で示しています。

通し 番号	大問 番号	解答形式	観点				活用 観点	問題の内容	出題のねらい	全国 正答率	全国と 比較
			関	思	技	知					
1	1	選択		○	◎		電流と電圧	電圧計の操作ができる。	42.9		
2		選択		◎		○		グラフより電流と電圧の大きさを読み取り、オームの法則を使って、抵抗の大きさを求めることができる。	80.2		
3		記述	○	◎				家庭の電気配線は並列つなぎになっていることがわかり、その理由を説明できる。	21.5	○	
4	2	選択		◎	○		電流の利用	実験結果から、電力と発生する熱量が比例することを指摘できる。	50.8		
5		選択		◎		○		電力と電圧の関係から、電熱線に流れる電流の強さを求めることできる。	44.7		
6		選択		◎		○		電力と時間から、消費された電力量を求めることできる。	32.8		
7	3	選択		○		◎	電流の利用	1本の導線に流れる電流の向きから、まわりにできる磁界の向きを指摘できる。	62.6		
8		選択	○	◎		○		誘導電流の向きや大きさが、何に影響を受けるか理解できる。	52.6		
9		短答	○			◎		コイルの周辺の磁界の変化によってコイルに電圧が生じる現象を、「電磁誘導」と定義できる。	34.9		
10		選択		◎		○		回路の抵抗が小さくなると、電流が大きくなることを指摘できる。	64.8		
11	4	選択		◎		○	ヒトの消化器官	磁界中のコイルの動く向きは、磁界の向きに関係があることを指摘できる。	76.7		
12		選択		○		◎		デンプンを糖に分解する消化酵素が出される器官を指摘できる。	46.1		
13		短答		○		◎		食物を消化するはたらきをもつ物質を、「消化酵素」と定義できる。	35.6		
14		短答		○		◎		「肝臓」のはたらきを指摘できる。	46.4		
15		記述		○		◎		表	柔毛のつくりの利点を説明できる。	49.0	△
16	選択	○	◎		○	思	柔毛と同じように表面積を大きくするつくりを、ヒトの体のつくりの中から指摘できる。	82.9			
17	5	選択		○		◎	動物のなかま	トカゲとハトにあてはまり、フナとカエル、ウサギにあてはまらないセキツイ動物の特徴を指摘できる。	92.1		
18		選択		○		◎		トカゲは変温動物、ハトは変温動物でないそれぞれ判断し、指摘できる。	56.3		
19		短答				◎		子の形で生まれる生まれ方を、「胎生」と指摘できる。	53.0		
20		短答	○	○		◎		トカゲ(ハチュウ類)のなかまを正しく指摘できる。	44.9		
21	選択	○	○		◎		軟体動物を指摘できる。	16.4	○		
22	6	選択	○	◎		○	水の分解を調べる実験	水に水酸化ナトリウムをとく理由を指摘できる。	82.4		
23		選択	○	◎		◎		水の電気分解の実験で、陽極と陰極に発生する気体を指摘できる。	63.6		
24		選択	○	◎		○		思	日常生活で起こる現象のうちの分解の例がわかる。	56.7	
25	7	選択				◎	酸化と還元	酸化銅の還元の実験で、操作の手順を指摘できる。	50.0		
26		短答				◎		酸化銅が還元され、銅に変化したことを指摘できる。	63.9		
27		短答				◎		石灰水を白濁させる物質の化学式を書くことができる。	47.7		
28		選択	○	◎		○		思	人類の歴史上で、アルミニウムの普及が比較的遅れた理由を指摘できる。	37.0	
29	8	選択	○	◎		○	空気中の水蒸気の変化	水蒸気が水滴に変わるときの温度を、「露点」と定義できる。	87.0		
30		選択		◎		○		くもりはじめた温度と飽和水蒸気量の表から、湿度を求めることができる。	38.9		
31		選択		◎		○		思	室内の温度が同じとき、露点が変わったのは、湿度が変化したためであることを指摘できる。	42.8	
32	9	選択				◎	天気と前線		53.3		
33		選択				◎		天気図記号を読みとることができる。	77.6		
34		選択				◎			87.9		
35		選択		○		◎			寒冷前線の空気の様子がわかる。	52.7	△
36	選択		◎		○	思	気象要素から寒冷前線が通過した時刻を読みとることができる。	43.3			

- 3 全国平均正答率よりも5ポイント以上上回った問題分析について（大問1，5）
- （1）家庭の電気配線は並列つなぎになっている理由を説明する問題である。学習内容を日常生活と関連付けながら学習を進めることが大切である。
 - （2）動物群から軟体動物を指摘する問題である。動物の特徴をきちんと整理しておく必要がある。

- 4 全国正答率をよりも5ポイント以上下回った問題分析について（大問4）
- （1）柔毛のつくりの利点を説明する問題である。消化器官のつくりとはたらきについて理解しておくことが重要である。

■類似問題



- （2）寒冷前線の空気の様子を答える問題である。前線のでき方を天気の変化と関連付けて理解しておくことが重要である。

5 今後の指導について

「自然事象についての知識・理解」の定着を図るために、生徒ひとりひとりの理解度に合わせたきめ細やかな指導を展開していく必要がある。

用語の記述の正答率は、総じて低い傾向にあるため、習得した科学用語を使い、自然事象を説明させる場面を授業の中で数多く設定していくべきである。また、無解答を減らすため、日頃からノート指導等を通じて、書く習慣を生徒に身につけさせることが大切である。

中学校【第3学年英語】学力状況調査結果及び分析概要

1 学力状況調査結果の概要について

算 数	正 答 率 (%)		
	全 体	基 礎	活 用
柏 市	65.0	69.6	49.2
全国平均	60.7	64.8	47.1

(1) 基礎的内容について

基礎的問題は、5ポイント近く上回っているが、長文からなる英文の内容を把握する問題に課題がある。

(2) 活用的内容について

活用問題は概ね良好であるが、条件作文に関して、問題内容をきちんと理解した上で解答することに課題がある。また、他の問題に比べて、無解答も多い。

2 調査問題について

問題正答率 ※「全国と比較」の欄は、柏市の正答率が全国正答率より5ポイント以上上回る場合を○、5ポイント以上下回る場合を△で示しています。

通し 番号	大問 番号	解答形式	観点				活用 観点	問題の内容	出題のねらい	全国 正答率	全国と 比較	
			関	表	理	知						
1	1	選択	○		◎			リスニング(絵を見て答える)	キーワード(数詞と名詞)を聞き取ることができる。	78.9		
2		選択	○		◎				キーワード(天気表現)を聞き取ることができる。	95.9		
3		選択	○		◎				キーワード(教科名)を聞き取ることができる。	91.7		
4		選択	○		◎				キーワード(see very small things)を聞き取ることができる。	67.5		
5		選択	○		◎				キーワード(cook)を聞き取ることができる。	96.3		
6	2	選択	○		◎			リスニング(会話内容)	会話の内容(許可を求める表現)を聞き取ることができる。	72.0		
7		選択	○		◎				会話の内容(夏休みの予定)を聞き取ることができる。	68.4		
8		選択	○		◎				会話の内容(お店でのやり取り)を聞き取ることができる。	58.7		
9	3	短答	○		◎		リスニング(メモの完成)	英文の要点(待ち合わせ場所)を聞き取ることができる。 英文の要点(待ち合わせ時刻)を聞き取ることができる。	55.8	△		
10		短答	○		◎				47.1			
11	4	選択			◎		長文の読み取り	長文の内容を把握することができる。	71.1			
12		選択			◎				62.3			
13		短答			◎				68.6			
14		記述	○	◎					表	条件英作文	54.6	
15	5	選択			◎		長文の読み取り	長文の内容を把握することができる。	35.1	○		
16		選択			◎				会話文の読み取り	電話での会話の流れを把握し、対話文を完成させることができる。	68.0	
17		選択			◎						68.6	
18		選択			◎						70.5	
19		短答		○		◎						単語の並べかえによる英
20	短答			◎			会話文の読み取り	67.5				
21	6	選択			○	◎	文法・慣用表現の知識・理解	対話の中で接続詞when節を含む複文が理解できる。 対話の中でWhenで始まる過去形の疑問文が理解できる。 対話の中でThere is/are] ~.の文が理解できる。 対話の中で目的を表すto不定詞が理解できる。 対話の中で目的語になる動名詞が理解できる。 対話の中で(S+V(look)+C)の文が理解できる。	40.6	○		
22		選択			○	◎			60.0	○		
23		選択			○	◎			46.8	○		
24		選択			○	◎			50.0	○		
25		選択			○	◎			73.8			
26		選択			○	◎			43.6			
27	7	短答		○		◎	単語の並べかえによる英作文	最上級の表現を理解し、正しい語順で書くことができる。 (S+V(show)+O+O)の文を理解し、正しい語順で書くことができる。 Shall I ~?の表現を理解し、正しい語順で書くことができる。 Which ~ like better, A or B?の表現を理解し、正しい語順で書くことができる。	74.6	○		
28		短答		○		◎			46.9			
29		短答		○		◎			52.5	○		
30		短答		○		◎			61.0	○		
31	8	記述	○	◎			条件英作文	Whatやto不定詞を使って、相手の希望をたずねる文を書くことができる。 未来形(be going to/will)の疑問文を書くことができる。	24.7			
32		記述	○	◎					37.7	○		
33	9	記述	○	◎			自由英作文	自分の住んでいるところを記述した後、既習の語彙や文法を駆使して、地域を紹介する文を書き表すことができる。	62.7			
34		記述	○	◎					45.3	○		
35		記述	○	◎					48.6			

3 全国平均正答率よりも5ポイント以上上回った問題分析について（大問7）

- (1) 単語の並べ替えによる英作文の問題である。今後も英語特有の語順を定着させるために、日頃から繰り返し、丁寧に個別指導することが重要である。

□類似問題

次の対話文が意味の通る文になるように、()内の語を正しく並びかえて書きなさい。

A : (like / which / better / you / do), baseball or basketball ?

B : I like basketball better.

4 課題が見られる問題分析について（大問3, 8）

- (1) リスニングの問題である。複数の文からなる英語の対話文全体を把握するためには、5W1Hを意識するとともに、日頃からキーワードをメモにとり、まぎらわしい内容を整理しながら、英語を聞く習慣を身につけさせることが必要である。
- (2) What や to 不定詞を使って、相手の希望を訪ねる問題に課題がある。特に、全体で無解答が2割と多くみられたので、授業の中で、英語を使って、自分の思ったことや考えていることを相手に伝える活動を継続的に行うとともに、家庭学習で書く指導を徹底する必要がある。

■類似問題

次のような場合、英語でどのようにたずねますか。3語以上の英文1文で書きなさい。

相手に、どこに行きたいか、とたずねる場合。

5 今後の指導について

「外国語表現の能力」の定着のためには、日頃から聞く、話すだけの指導に終始するのではなく、英語で表現させた後に、スピーチをさせたり、ある程度まとまった英文を読んだ後に、英語による要約文を書かせたりするなど、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」及び「書くこと」の4つの領域をバランスよく指導することが重要である。また、授業だけでは書く力が定着することは難しいので、家庭での学習（宿題や復習）を適切に課すなど家庭での取組を含めた指導を計画的に行うことが重要である。

また、「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」の育成のためには、自分が思ったことや感じたことを伝える場面を工夫し、伝える相手（例えば、級友やALT）を意識させ、生徒が思考・判断する活動を意図的に取り入れていくことが必要となる。

生活・学習意識調査結果及び学力との相関分析

1 学力と生活・学習意識調査結果との相関分析を次の観点で行った。

- 教科との相関について
- 生活との相関について
- 読書に係わる内容や学校図書館活用との相関について
- ICT活用に関する生活・学習意識調査結果及び分析

2 生活・学習意識調査グラフの見方について

全体は、該当学年の全児童生徒

○は、目標値の+5ポイント以上の児童生徒

≡は、目標値の-5ポイント以上～+5ポイント未満の児童生徒

△は、目標値の-5ポイント未満の児童生徒

※ 目標値とは学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、設問ごとに正答できることを期待した児童生徒の割合を示したもので、ほぼ全国正答率に近いものです。この目標値の達成状況で、児童生徒の前年度学習内容の定着状況を把握することができます。

生活・学習意識調査結果及び学力との相関分析

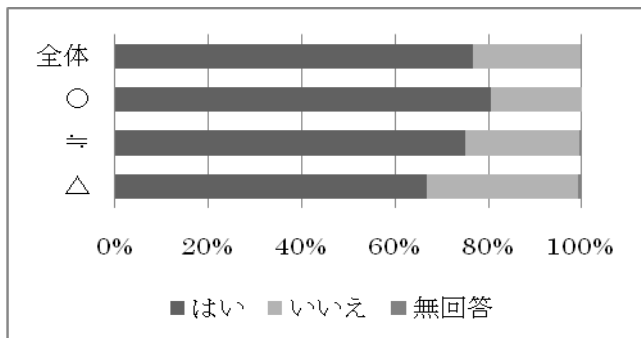
1 教科との相関について

(1) 国語の勉強は好きですか。

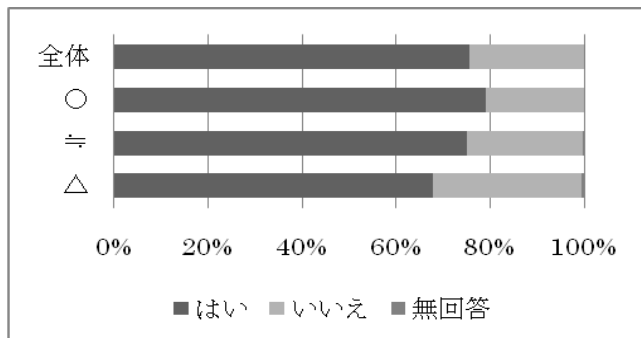
国語の勉強を好き（あてはまる まああてはまる）と回答している児童生徒は、中学校でも60%以上いる。好きと回答している児童生徒の正答率が高い傾向にある。

学年が上がるにつれ、好きと回答する児童が減っている。小学校高学年になると国語の授業時数が2時間減るが、少ない時間でも活動を取り入れ、関心意欲の持てる授業を構成する必要があると考えられる。

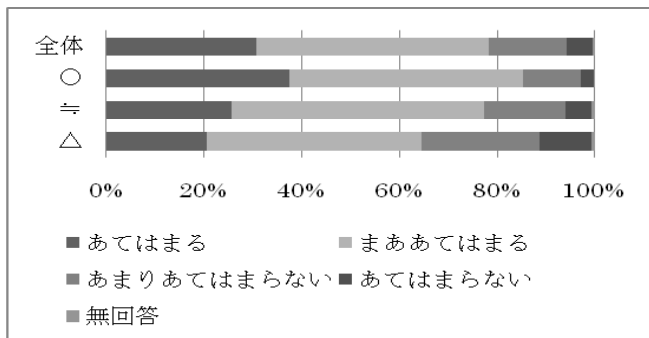
① 小学校 2年



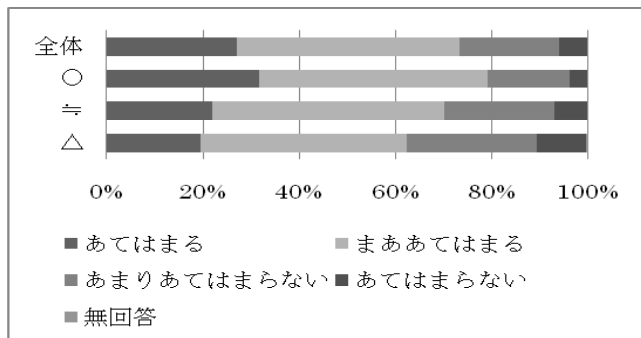
② 小学校 3年



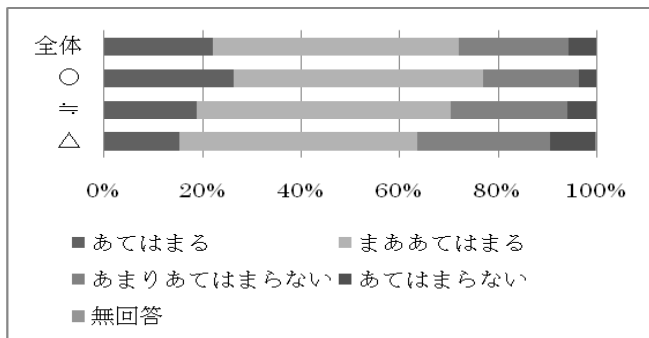
③ 小学校 4年



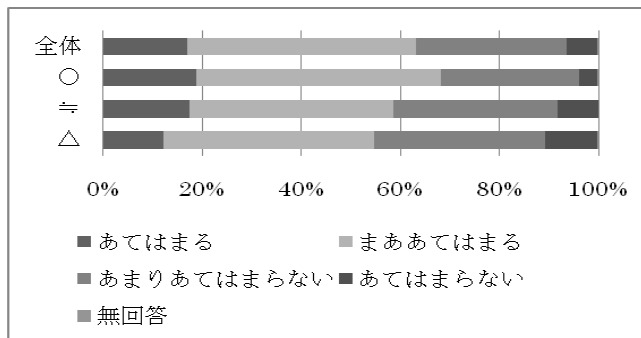
④ 小学校 5年



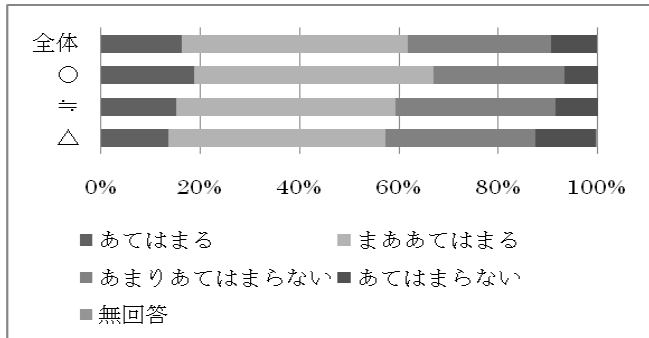
⑤ 小学校 6年



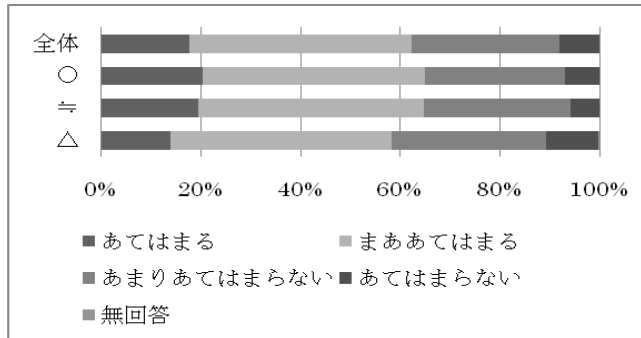
⑥ 中学校 1年



⑦ 中学校 2年



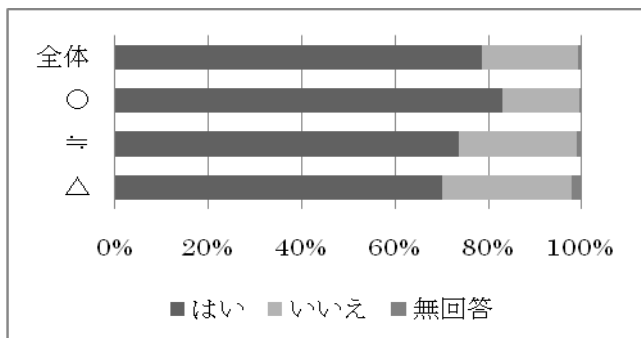
⑧ 中学校 3年



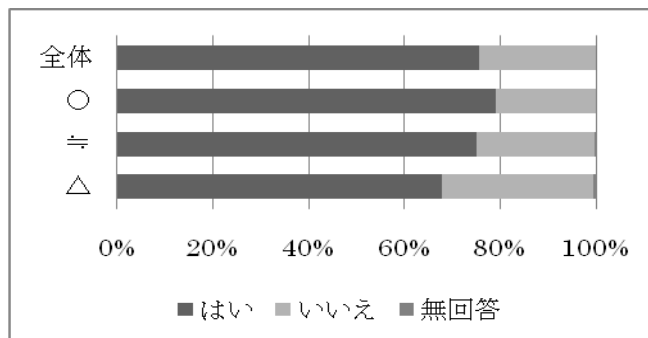
(2) 算数・数学の勉強は好きですか。

国語と比べて算数・数学の勉強を好き(あてはまる)と回答している児童生徒の方が、多い傾向にあるが、学年が上がるにつれ、好きとそうでない児童生徒の差が大きくなっている。小学校4年生から5年生にかけて好きと回答している児童の減少が大きい。好きを維持できるように、関心意欲が持てる授業づくりが求められる。

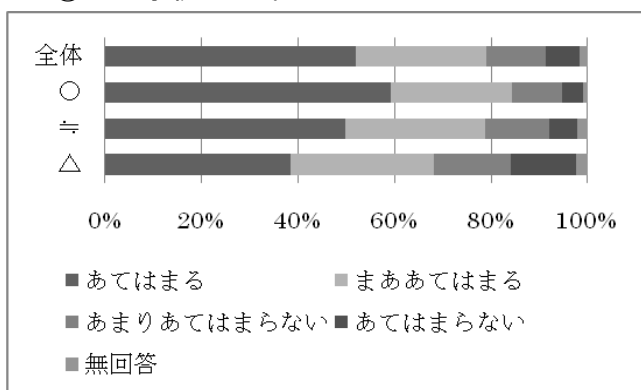
① 小学校 2年



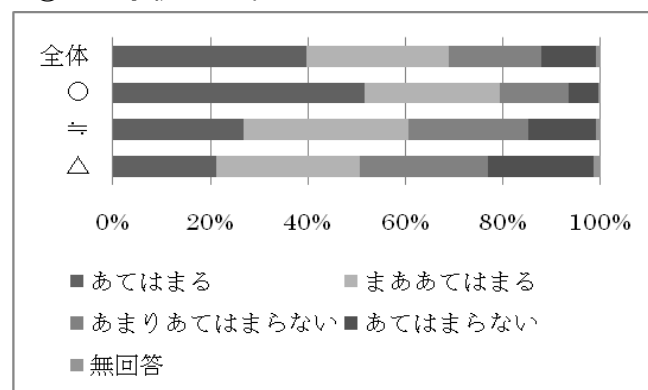
② 小学校 3年



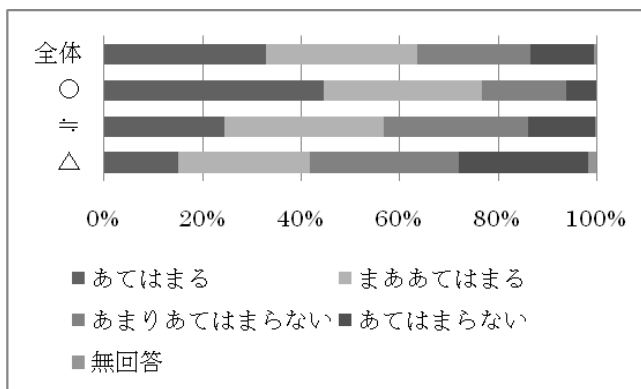
③ 小学校 4年



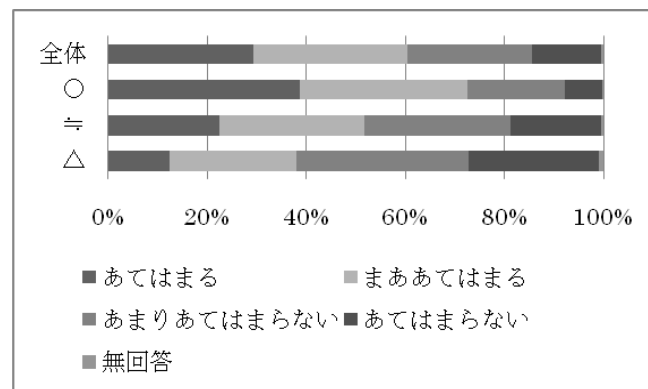
④ 小学校 5年



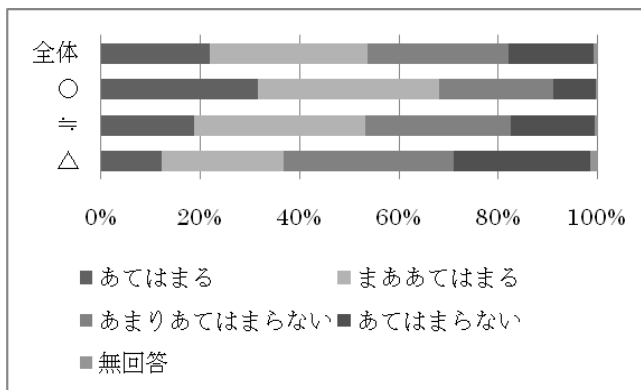
⑤ 小学校 6年



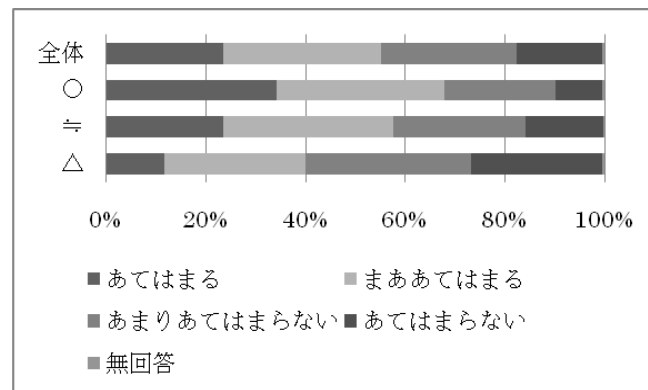
⑥ 中学校 1年



⑦ 中学校 2年



⑧ 中学校 3年

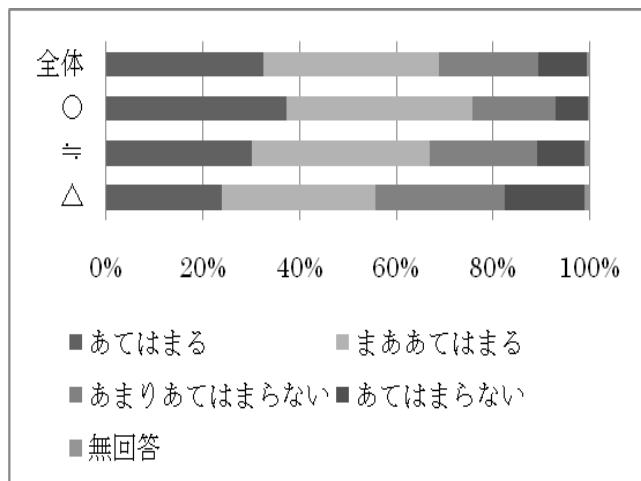


(3) 問題が解けなかったとき、なぜ解けなかったかを振り返って考えようとしていますか。

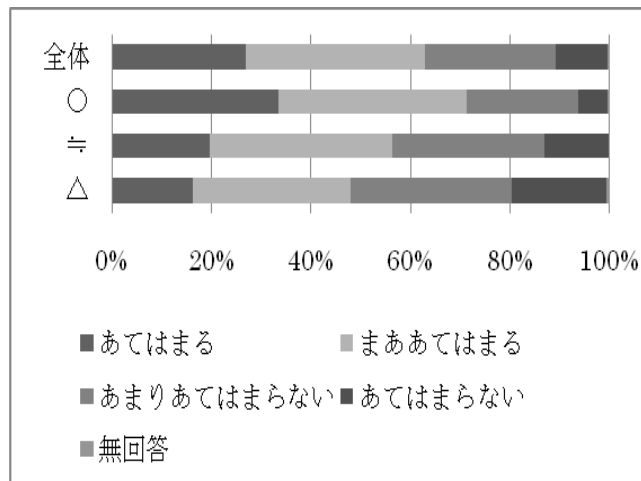
間違えた問題の振り返りは、学習した内容の定着につながる。

問題が解けなかった場合に、なぜ解けなかったのかを振り返り、復習をすることは、学力が高い子どもに多く見られる。間違いから学ぶ習慣化を図ることにより、子どもたちへの学力の定着を図ることができる。

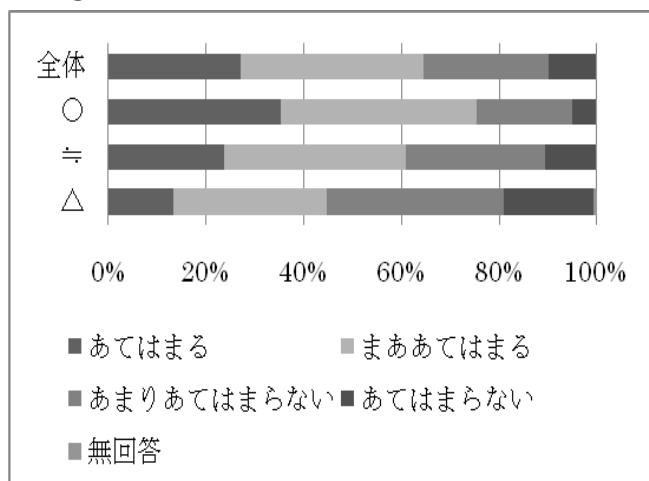
① 小学校 4年



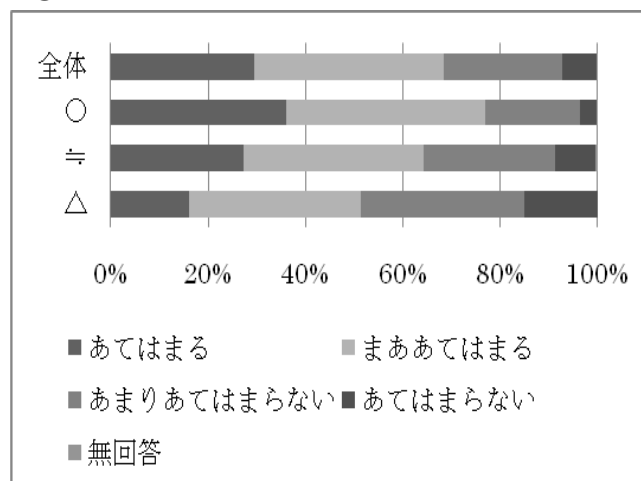
② 小学校 5年



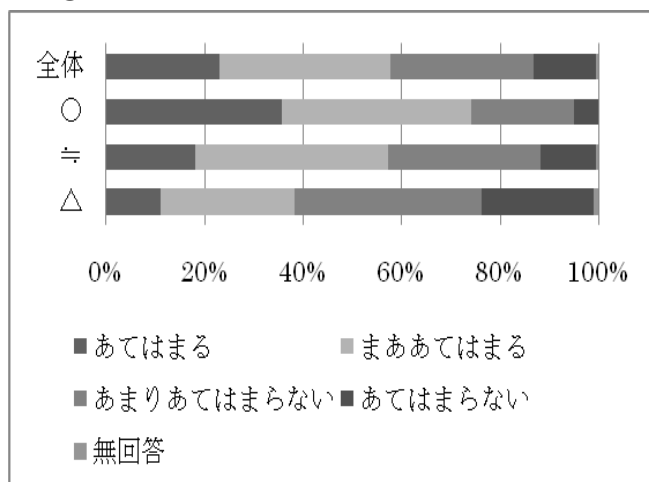
③ 小学校 6年



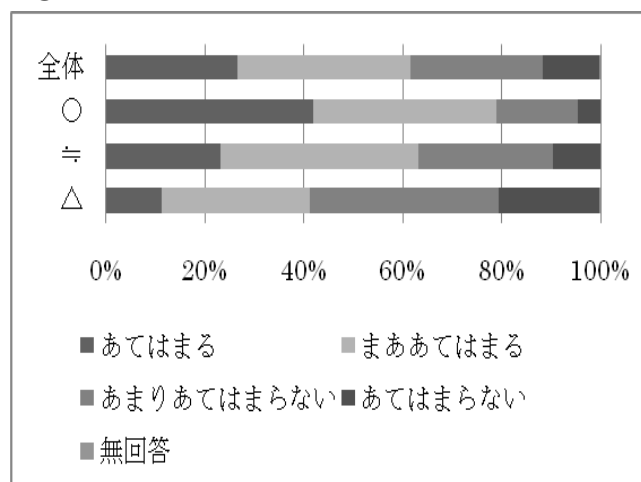
④ 中学校 1年



⑤ 中学校 2年



⑥ 中学校 3年

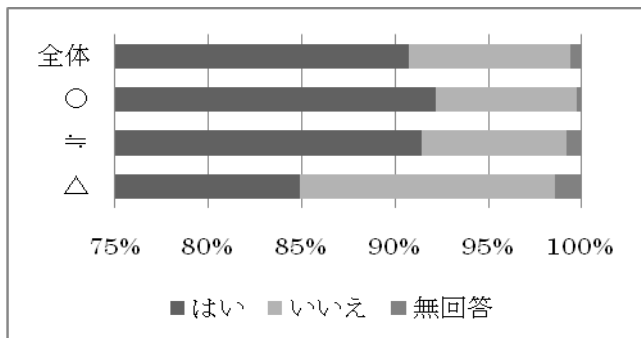


2 生活との相関について

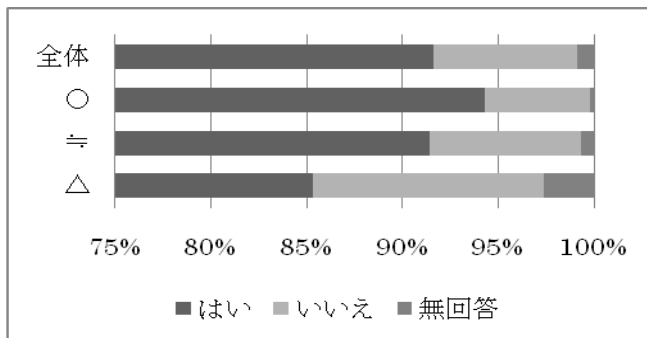
(1) 学校のきまりを守っていますか。

学校のきまりを守っている（あてはまる まああてはまる）と回答している児童生徒は、正答率が高い傾向にある。小学校6年生できまりを守っている（あてはまる）と回答している児童が他の学年の児童生徒と比べて少ない。小学校6年生の規範意識の低下は、小中連携の部活動等の中学生との交流の中で、中学入学後のイメージを6年生に持たせる必要があると思われる。

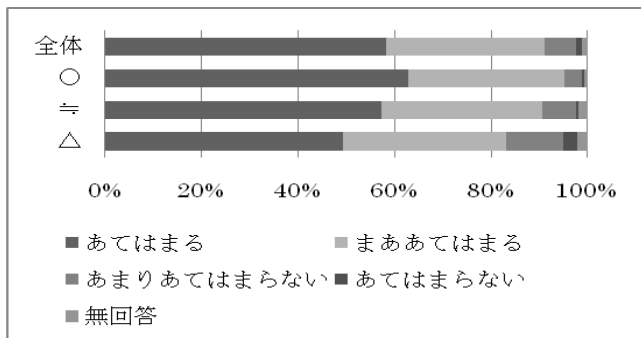
① 小学校 2年



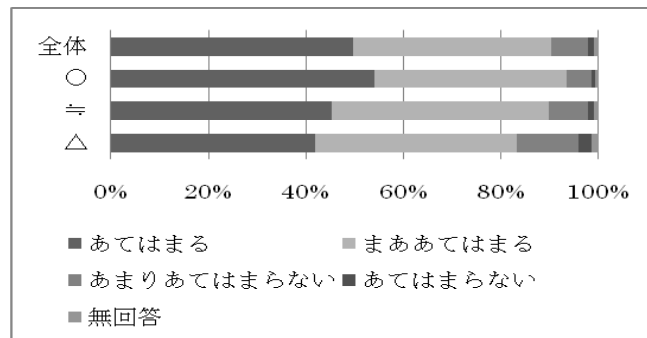
② 小学校 3年



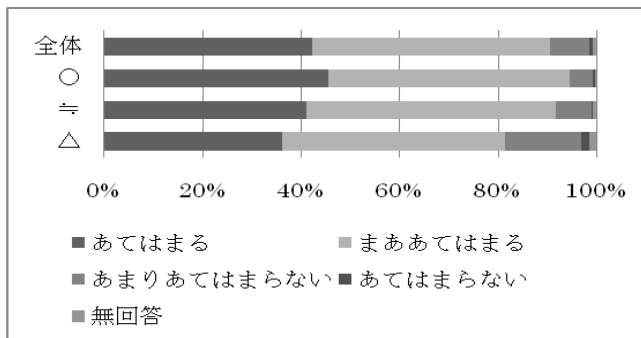
③ 小学校 4年



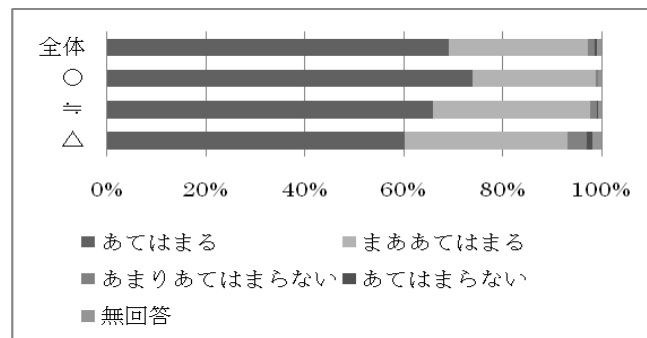
④ 小学校 5年



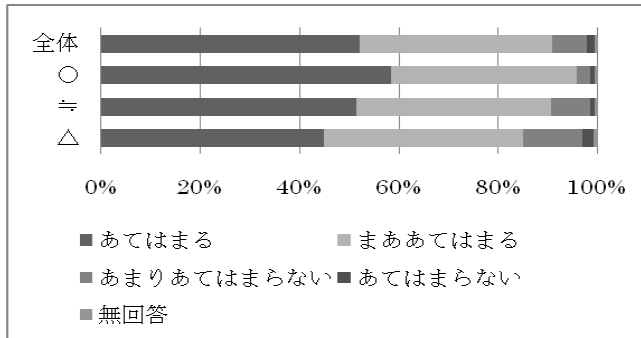
⑤ 小学校 6年



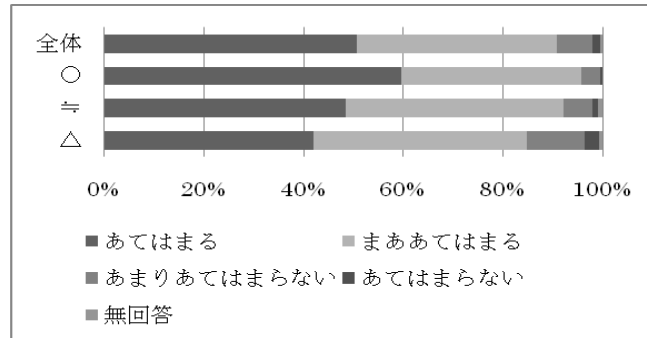
⑥ 中学校 1年



⑦ 中学校 2年



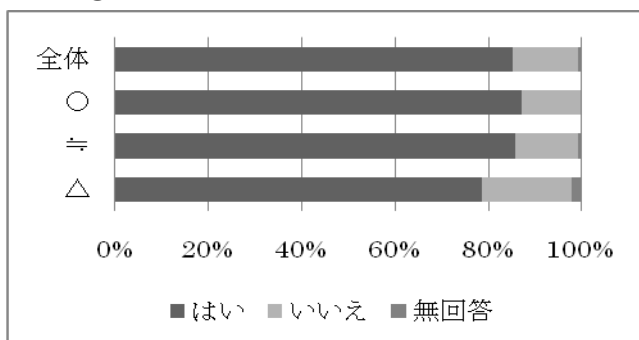
⑧ 中学校 3年



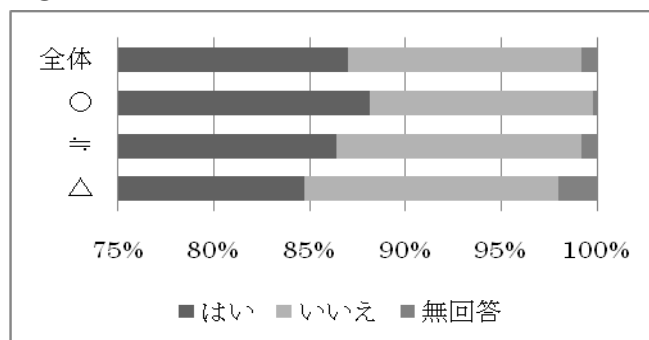
(2) 家の人と決めた約束やきまりを守っていますか。

全体の傾向として家の人と決めた約束やきまりを守っている（あてはまる まああてはまる）と回答している児童生徒は、正答率が高い傾向にある。約束やきまりを守っている（あてはまる）と回答している生徒は中学校2年生になると大きく減少している。親への反抗、規範の見直し等の思春期の心理的特徴を保護者に示し、適切な対応ができるよう周知することが必要と思われる。

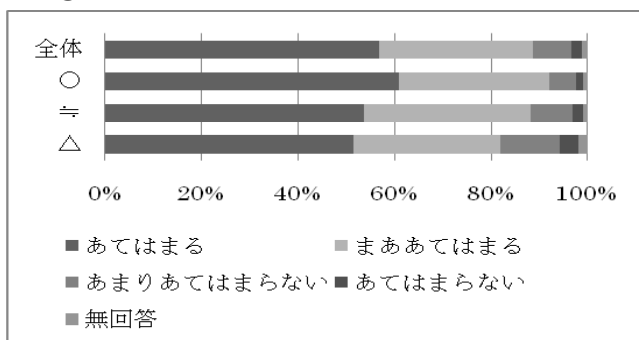
① 小学校 2年



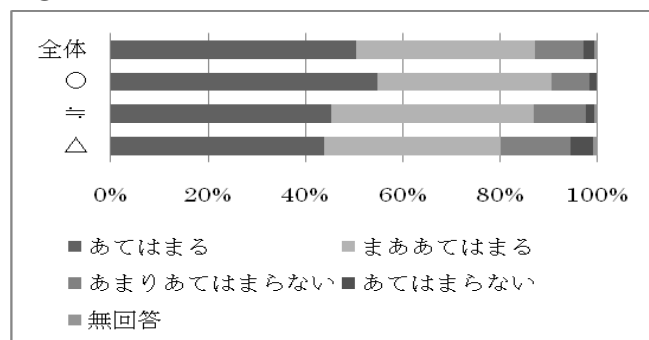
② 小学校 3年



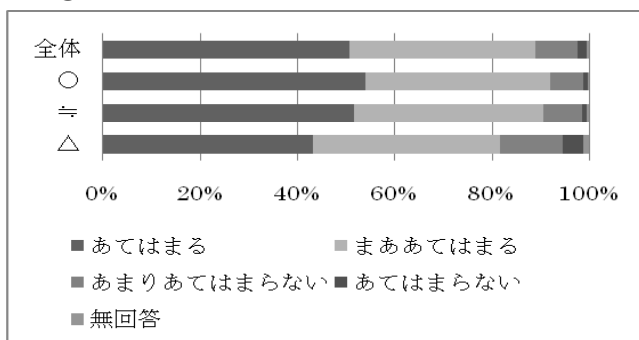
③ 小学校 4年



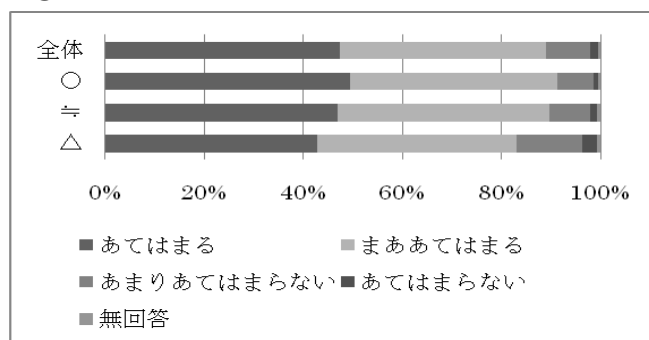
④ 小学校 5年



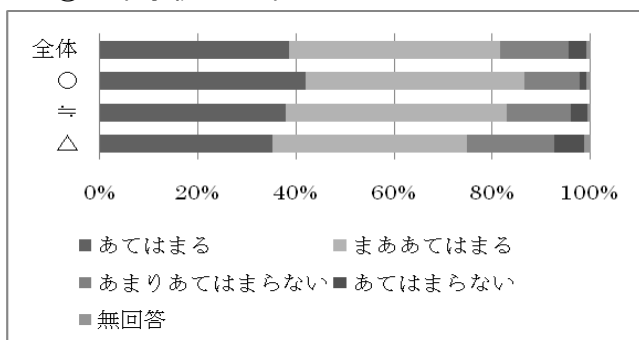
⑤ 小学校 6年



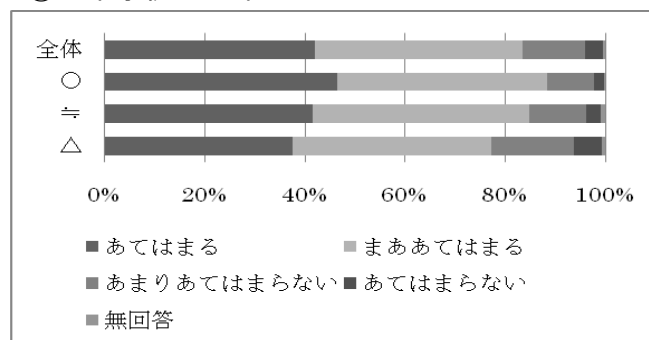
⑥ 中学校 1年



⑦ 中学校 2年



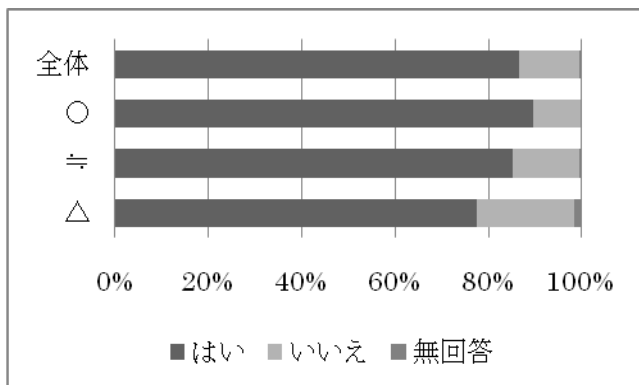
⑧ 中学校 3年



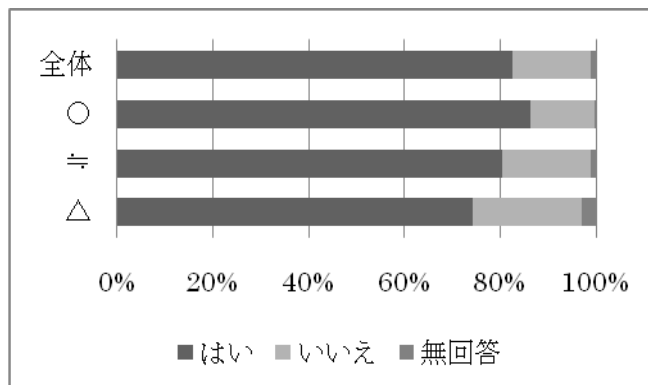
(3) 自分にはよいところがありますか。

全体の傾向として自分にはよいところがありますか（あてはまる まああてはまる）と回答している児童生徒は、正答率が高い傾向にある。年齢が上がるに伴い、あてはまると回答している児童生徒が減少している。教師や保護者は、児童生徒の年齢が上がるとともに自己肯定感を高めるための声かけを、意識して行う必要があると思われる。

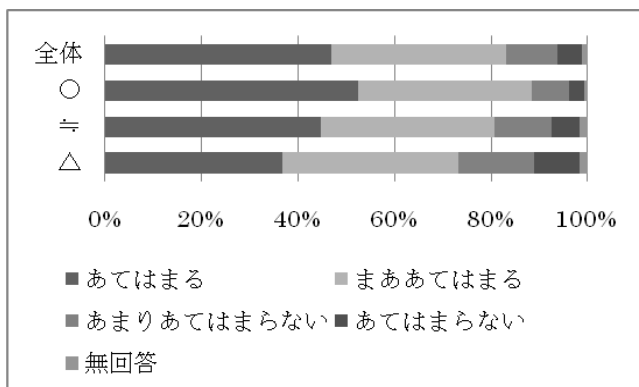
① 小学校 2年



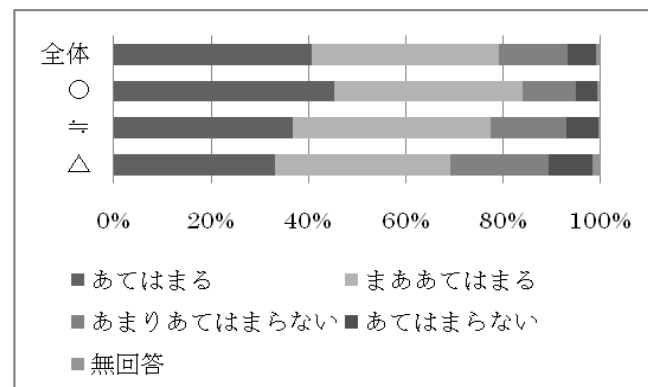
② 小学校 3年



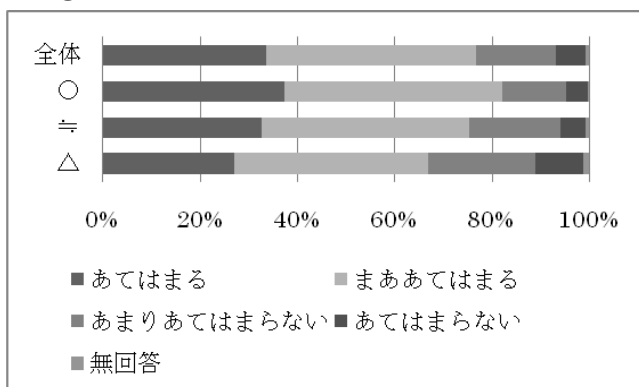
③ 小学校 4年



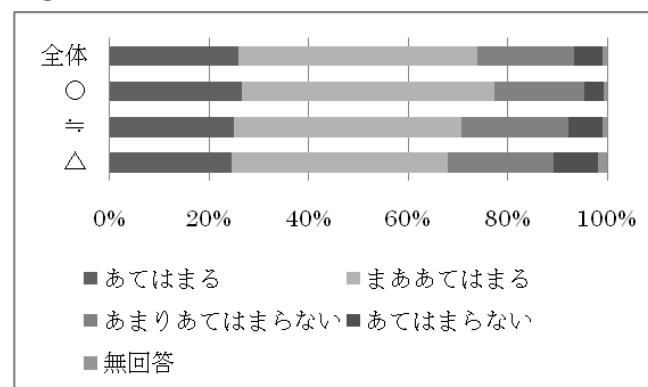
④ 小学校 5年



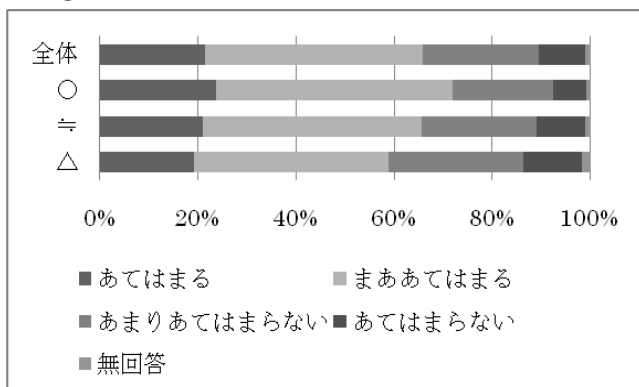
⑤ 小学校 6年



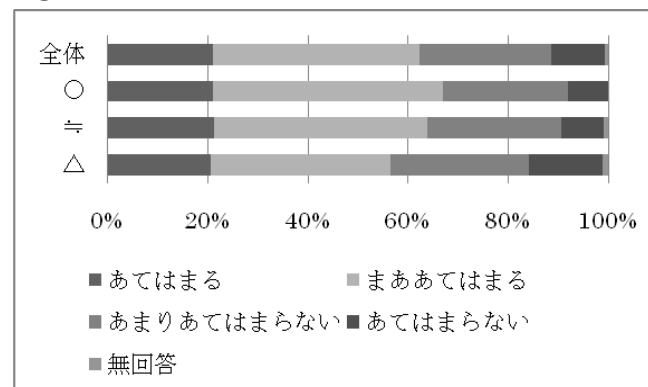
⑥ 中学校 1年



⑦ 中学校 2年



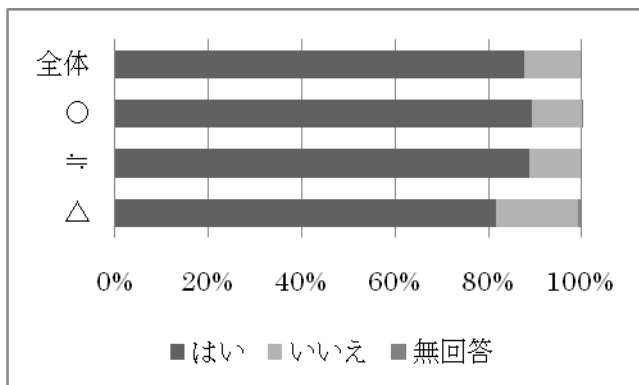
⑧ 中学校 3年



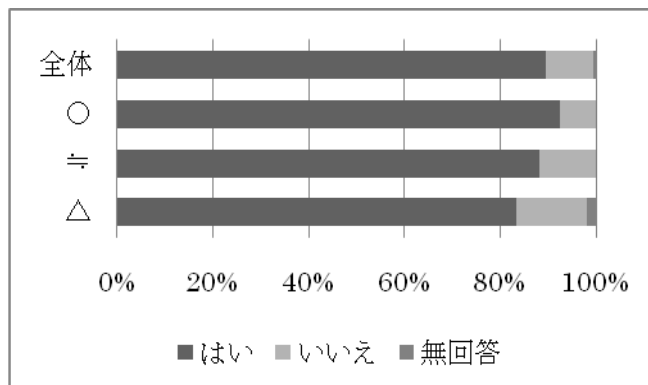
(4) 将来の夢や目標をもっていますか。

将来の夢や目標を持っている児童生徒と正答率に大きな変化はない。年齢が上がるに伴い、将来の夢や目標を持っていますか（あてはまる）と回答している児童生徒が減少している。教師や保護者は、児童生徒の年齢が上がるとともに夢や目標を持てるよう、児童生徒の発達段階に応じたキャリア教育を推進する必要があると思われる。

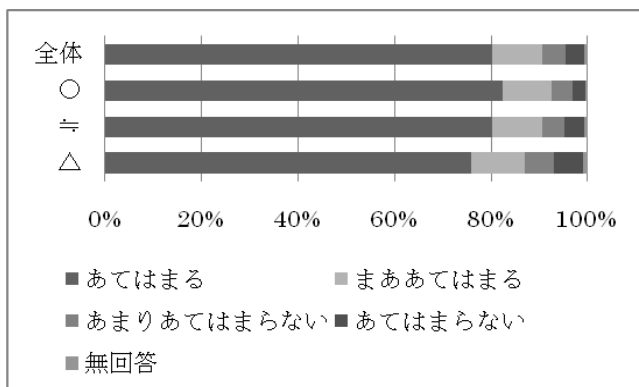
① 小学校 2年



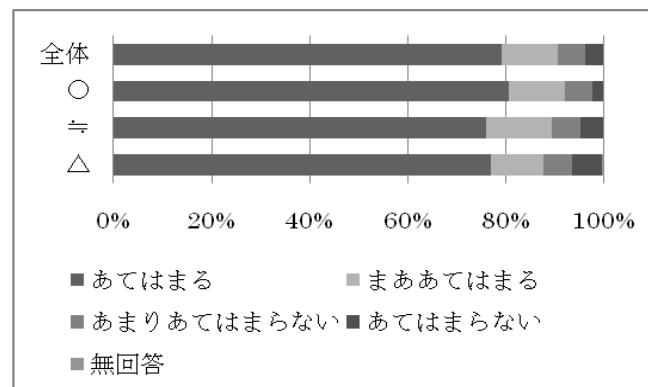
② 小学校 3年



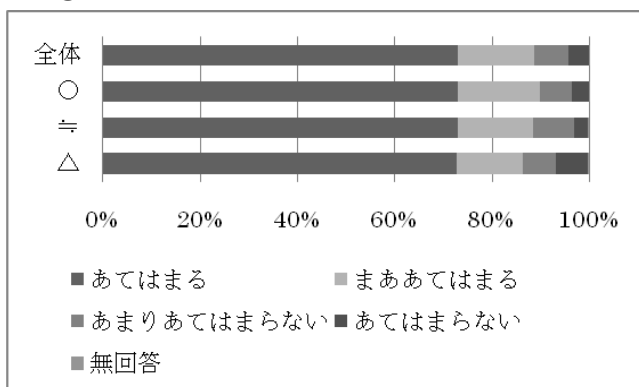
③ 小学校 4年



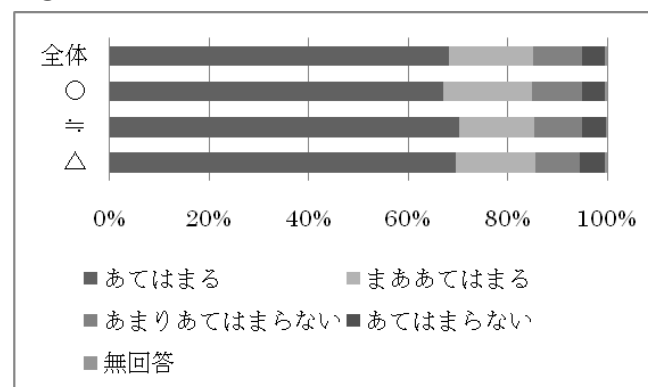
④ 小学校 5年



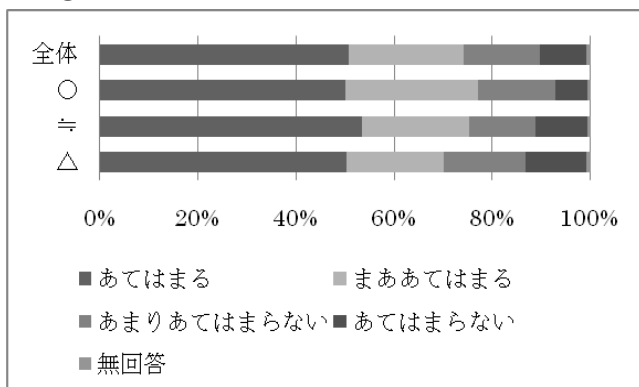
⑤ 小学校 6年



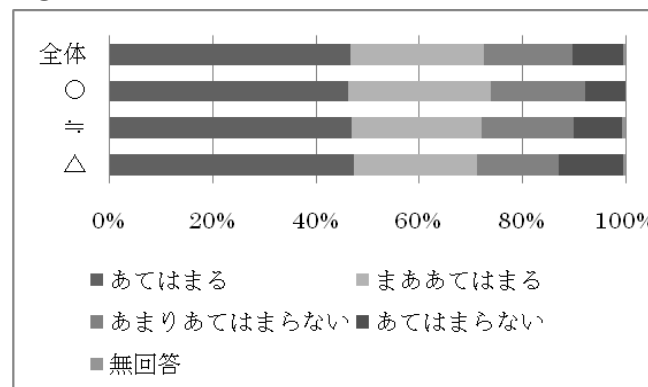
⑥ 中学校 1年



⑦ 中学校 2年



⑧ 中学校 3年

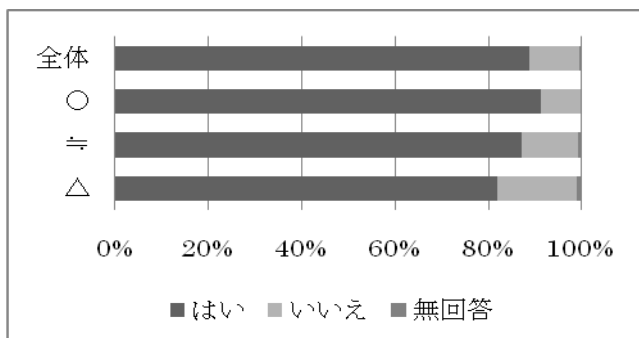


(5) 難しいことでも挑戦していますか。

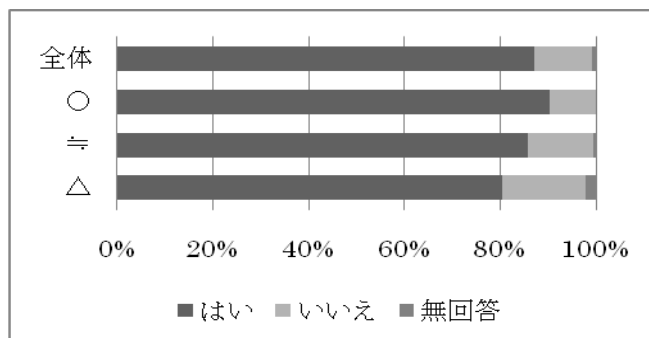
難しいことに挑戦する力は、学力の向上につながる。

難しいことにでも挑戦するという問いに対する回答で、低学年までは学力高位層、低位層共に、80%以上の子どもたちは挑戦すると回答している。挑戦すると回答する子の割合は、低位層で減少が激しく、中学校3年生では60%となる。その子にあった目標を設定し、少し努力することによって自らの力が伸びるという経験を多く持たせ、力の伸びを実感することにより、低位層の子の達成感を保証することが、全体の学力伸長につながると考えられる。

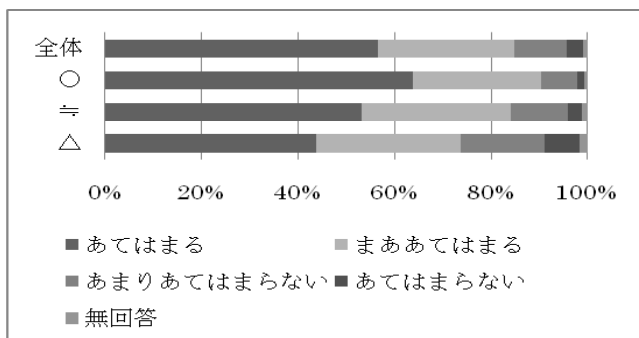
① 小学校 2年



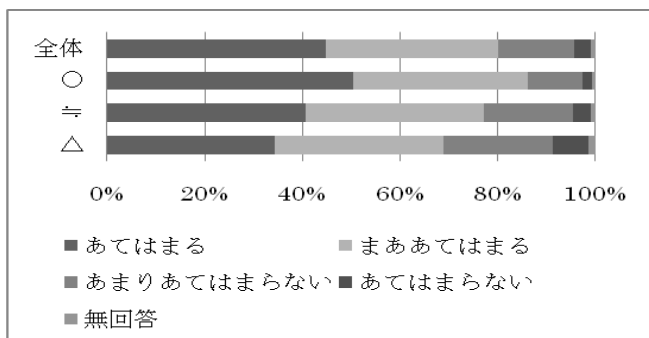
② 小学校 3年



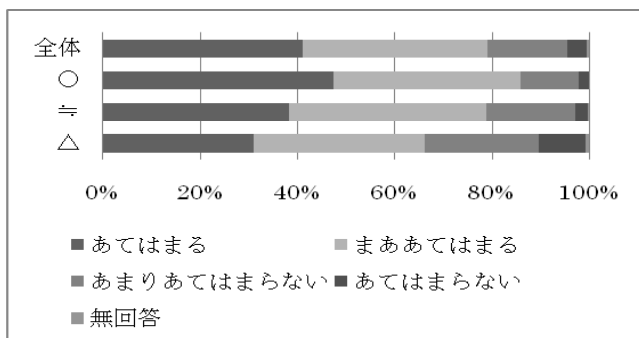
③ 小学校 4年



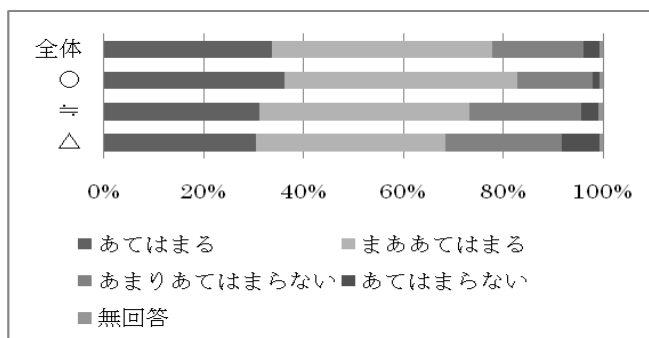
④ 小学校 5年



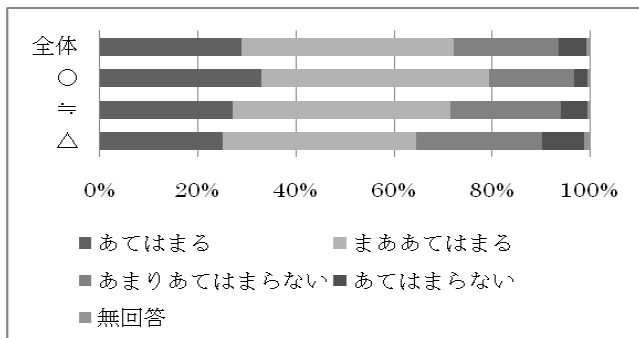
⑤ 小学校 6年



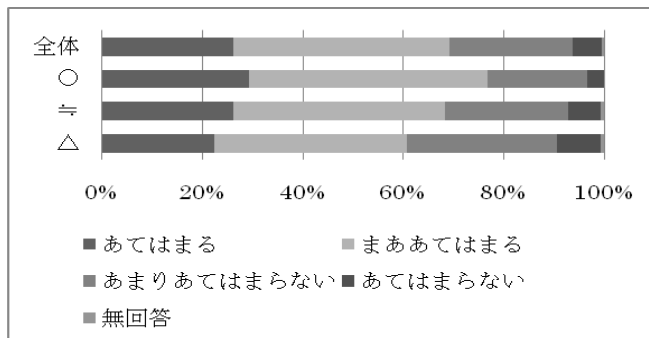
⑥ 中学校 1年



⑦ 中学校 2年



⑧ 中学校 3年



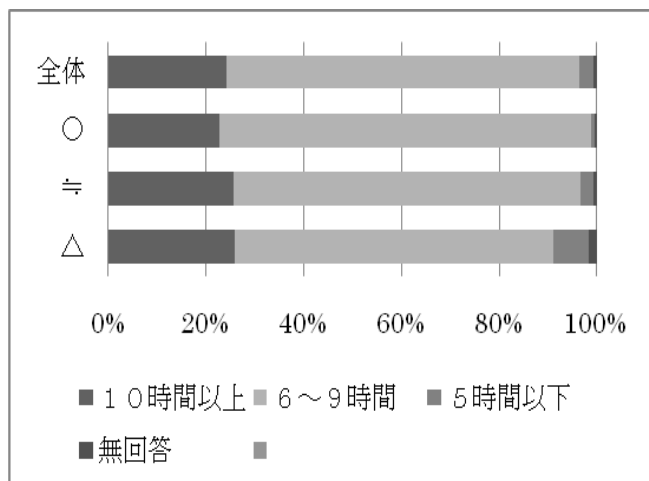
(6) 平日、睡眠時間をどのくらいとっていますか。

適度な睡眠時間と学力には正の相関関係が認められる。

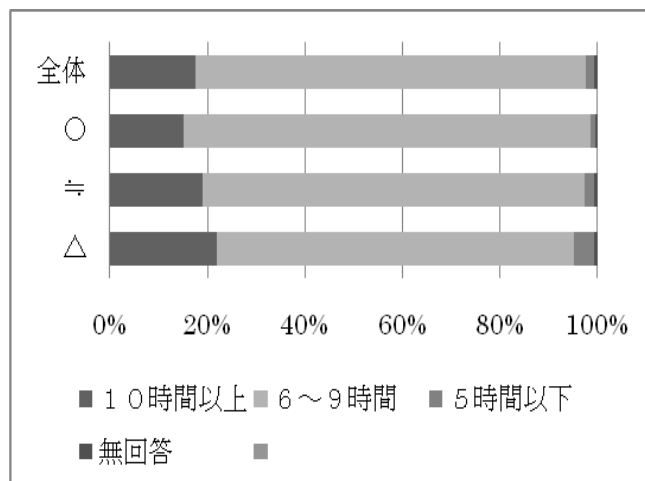
小学校4年生以上の学年において、睡眠時間が6時間以上9時間以下で、各学年の発達段階に相応しい睡眠時間を取得している子の方が、学力が高い傾向が認められる。

一方睡眠時間が5時間以下と回答する子は低位層に多い傾向が認められ、ゲームやテレビの長時間視聴等が影響していると思われる。

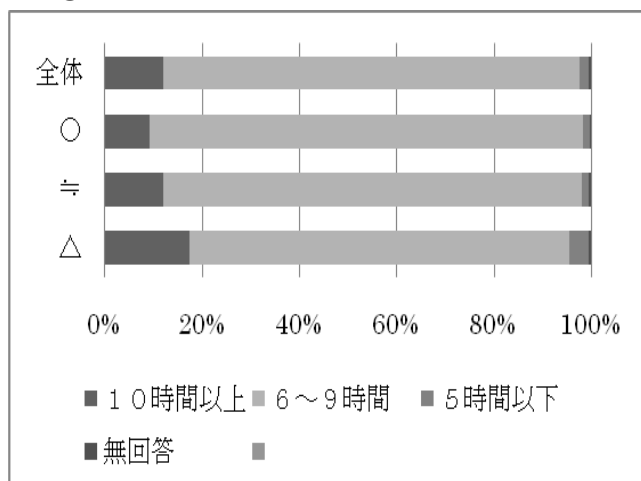
① 小学校 4年



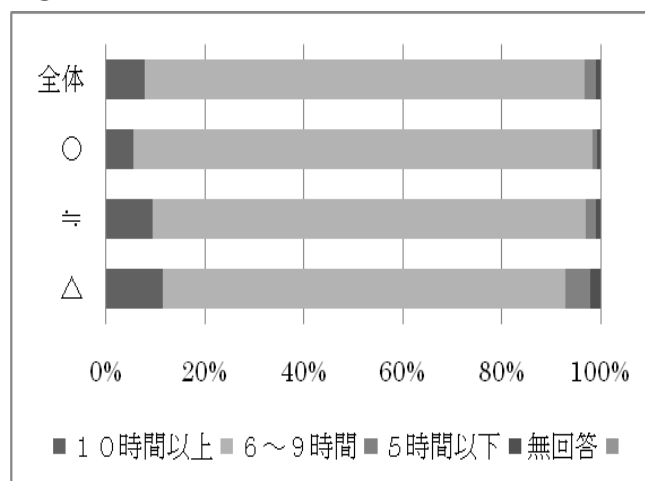
② 小学校 5年



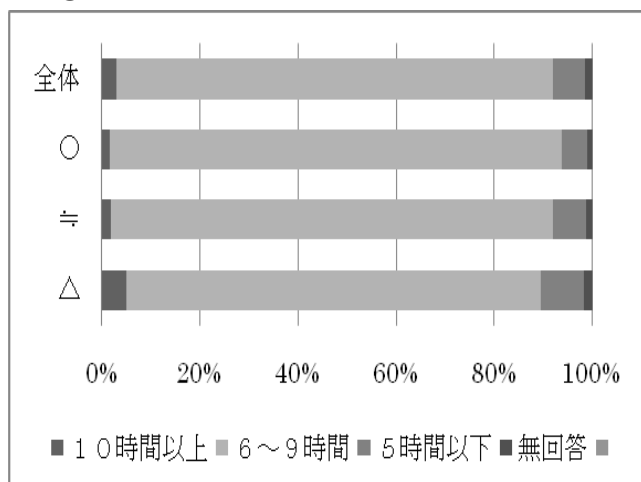
③ 小学校 6年



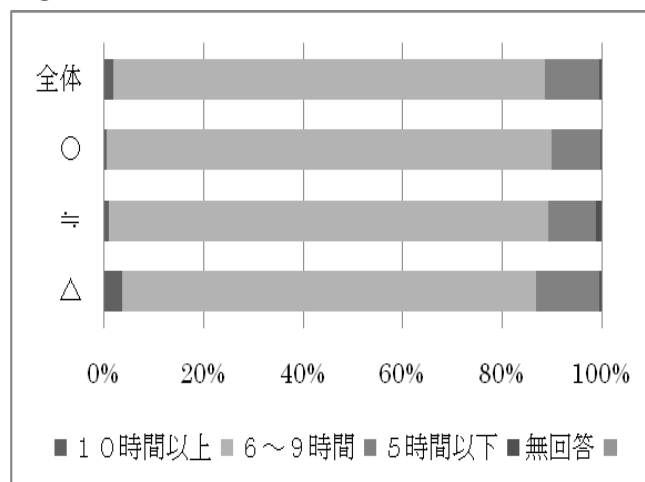
④ 中学校 1年



⑤ 中学校 2年



⑥ 中学校 3年



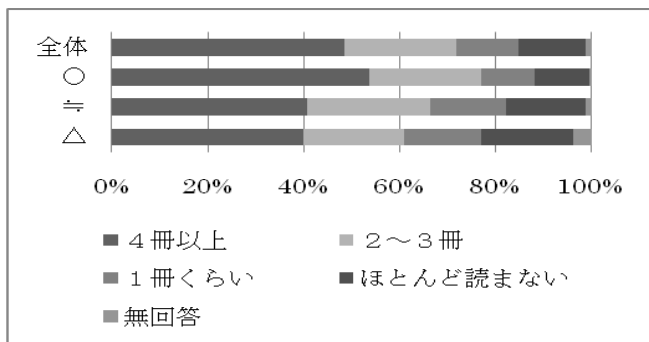
3 読書に関わる内容や学校図書館活用との相関について

(1) 1か月に読む本（マンガ・雑誌を除く）の冊数はどれくらいですか。

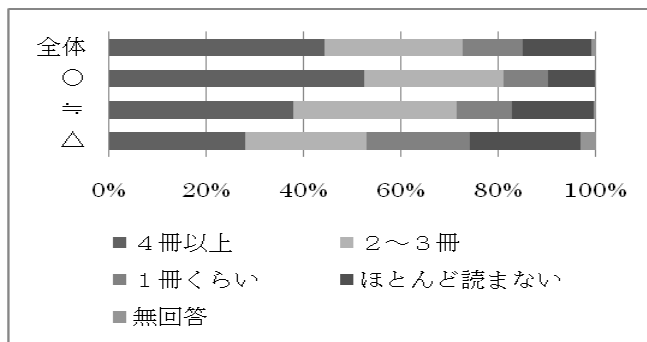
1か月に読む本の冊数が多い児童生徒の正答率が高い傾向にある。

小学校2, 3, 4年生の1か月の読書量が多い傾向にある。小学校6年生から減少傾向になり、中学生は3学年ともほぼ同じ読書量である。ほとんど読まないと回答した児童生徒は、ほぼ20%程度である。積極的に学校図書館を開館して、読まない児童生徒に働きかけをしていくことが必要である。

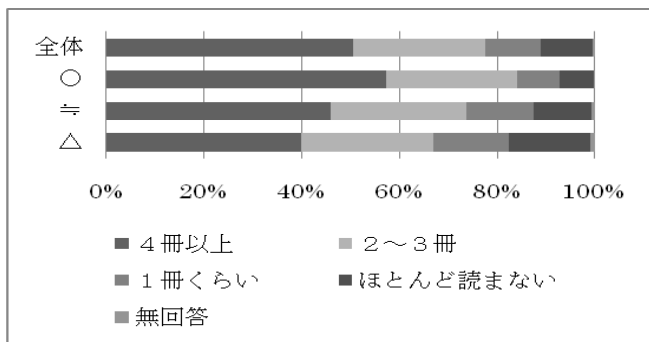
① 小学校 2年



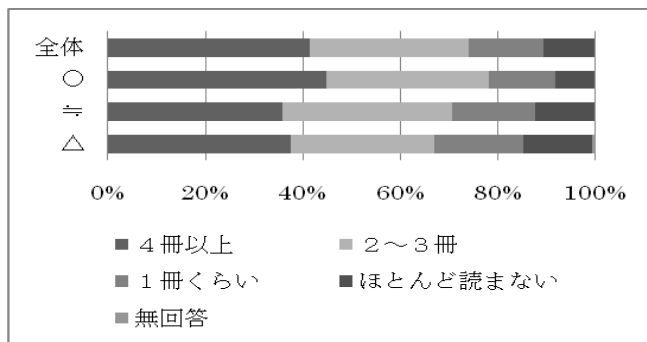
② 小学校 3年



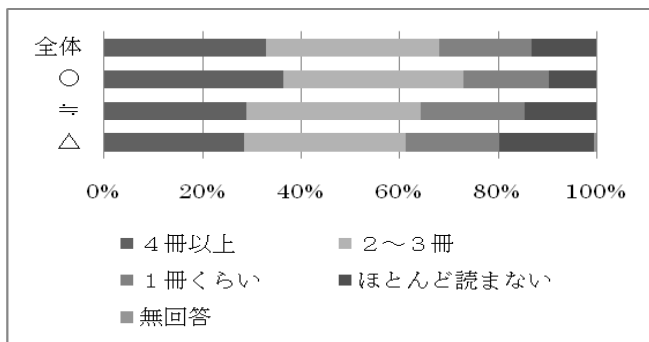
③ 小学校 4年



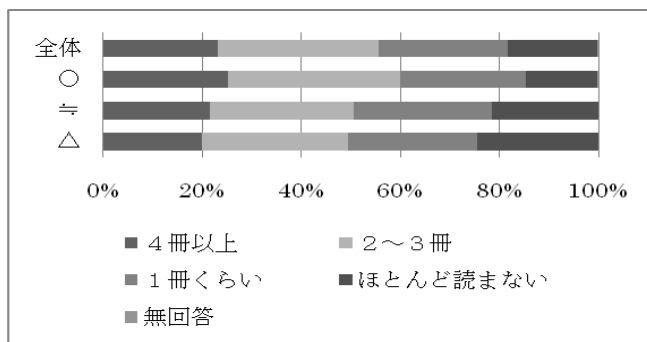
④ 小学校 5年



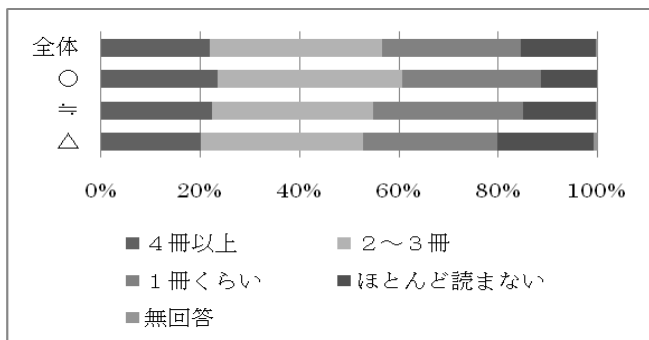
⑤ 小学校 6年



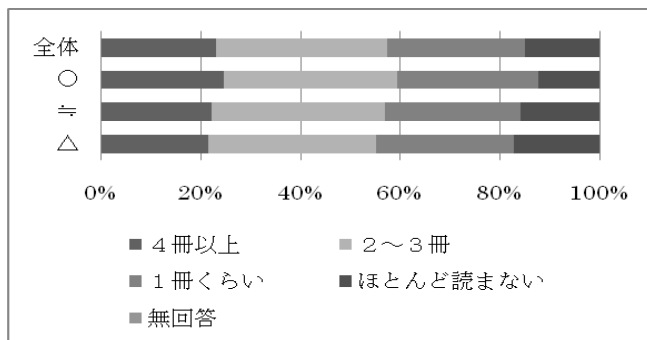
⑥ 中学校 1年



⑦ 中学校 2年



⑧ 中学校 3年



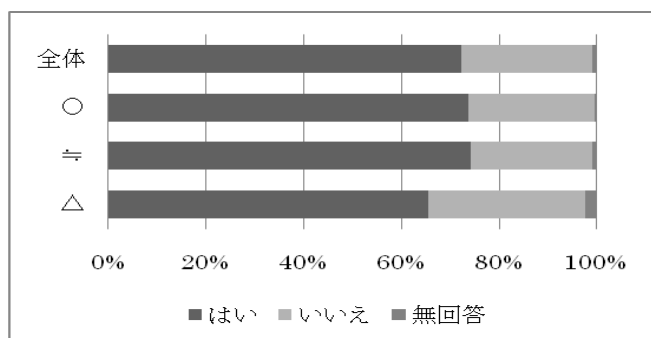
(2) 本で調べることは好きですか。

本で調べることが好きと回答している児童生徒の正答率が高い傾向にある。

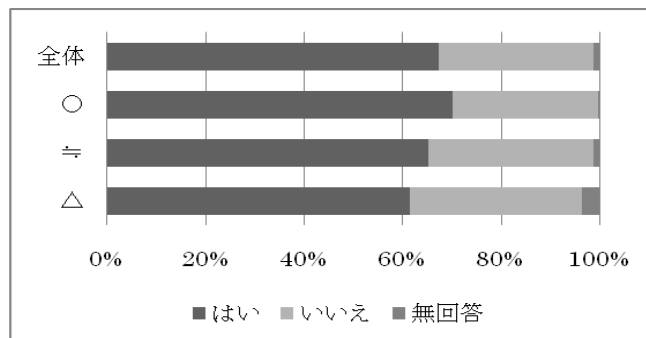
学年が上がるとつれ、好き・どちらかといえば好きと回答した児童生徒が少ない傾向にある。中学校で好きと回答している割合が、3学年ともほぼ同一の値である。

学校図書館の積極的活用や学校図書館指導員と連携した調べ学習の充実を、今後も一層推進する必要がある。

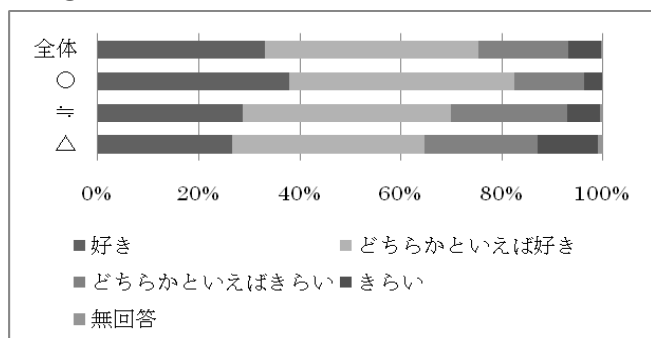
① 小学校 2年



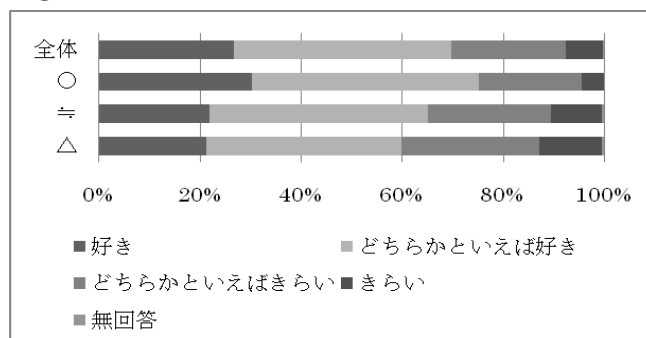
② 小学校 3年



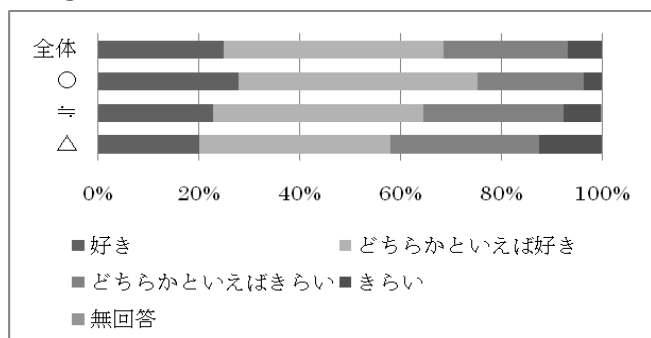
③ 小学校 4年



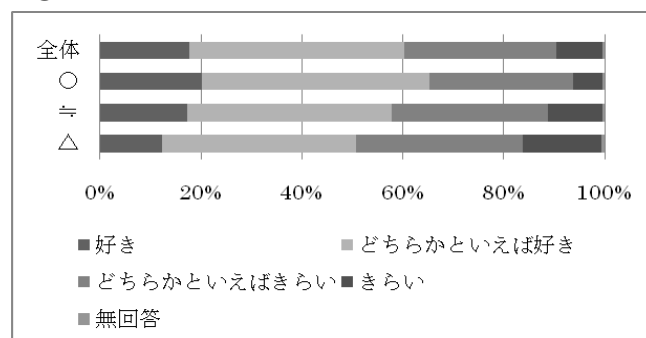
④ 小学校 5年



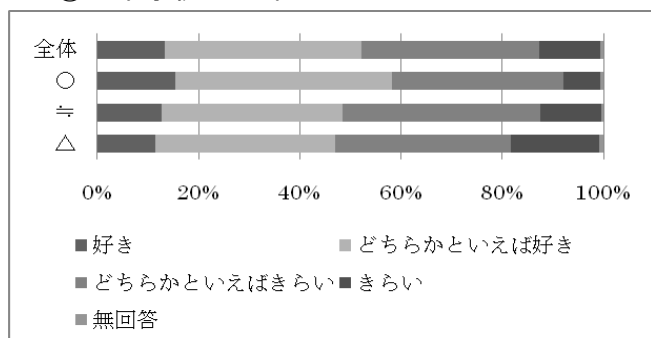
⑤ 小学校 6年



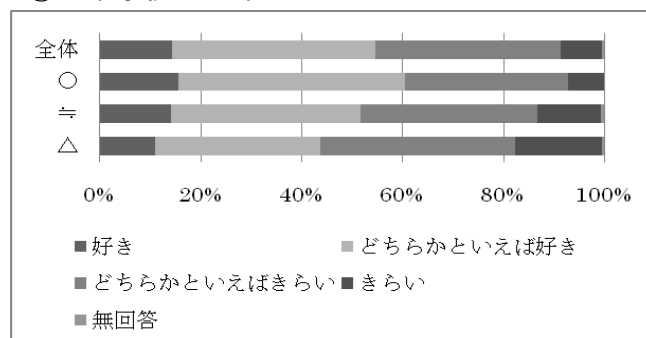
⑥ 中学校 1年



⑦ 中学校 2年



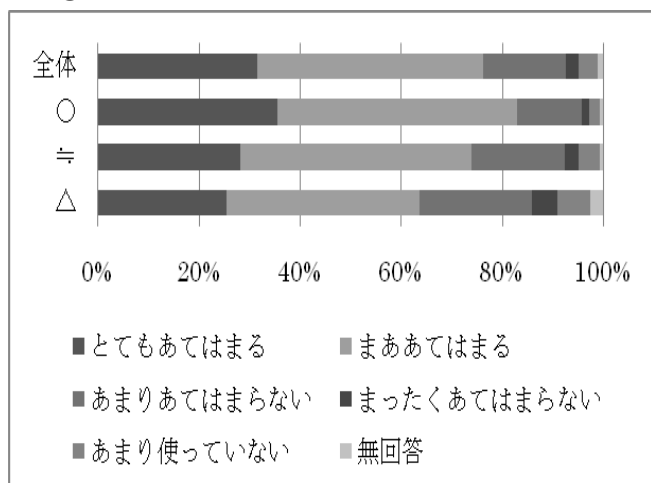
⑧ 中学校 3年



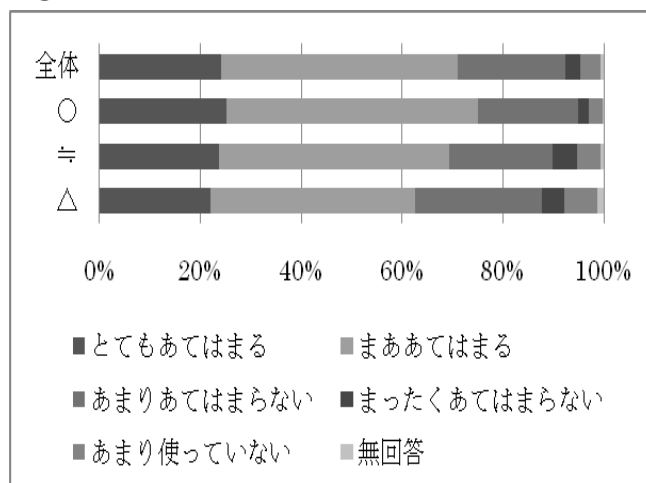
(3) 学校図書館で調べ学習をするときには、調べる本がそろっていますか。

とてもあてはまると回答している児童生徒が少ない傾向である。とてもあてはまる・まああてはまると回答している小学校4～6年生児童が70%程度であるが、中学校1～3年生は60%に達していない。柏市の平成23年度の学校図書館の図書充足率は、小学校112.5%，中学校98.9%である。今後も調べ学習用の図書の充実を図るとともに、教科学習の中に調べ学習を扱っていく必要がある。

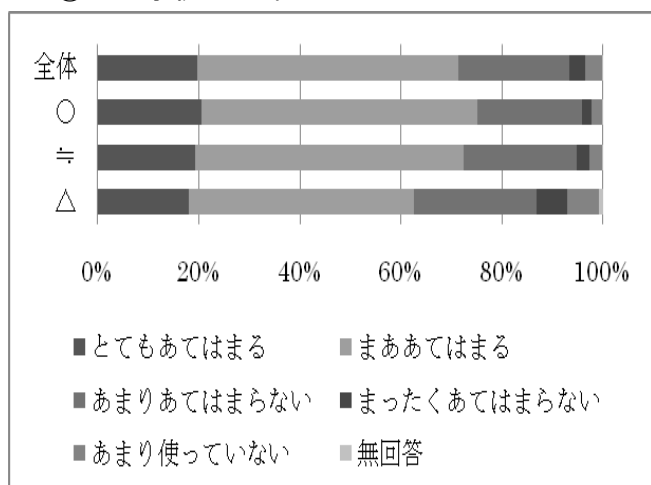
① 小学校 4年



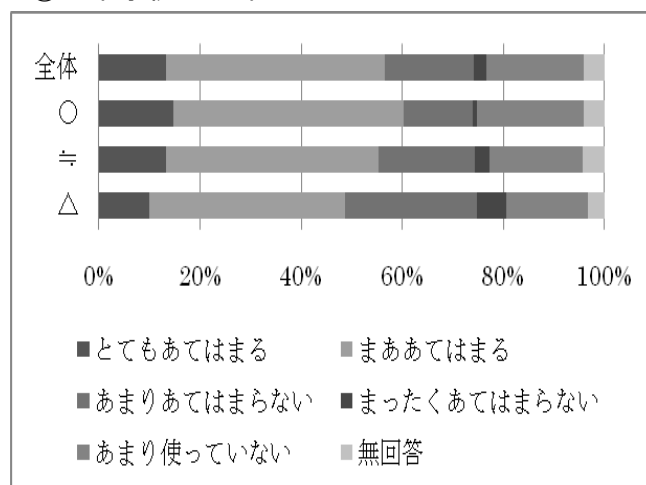
② 小学校 5年



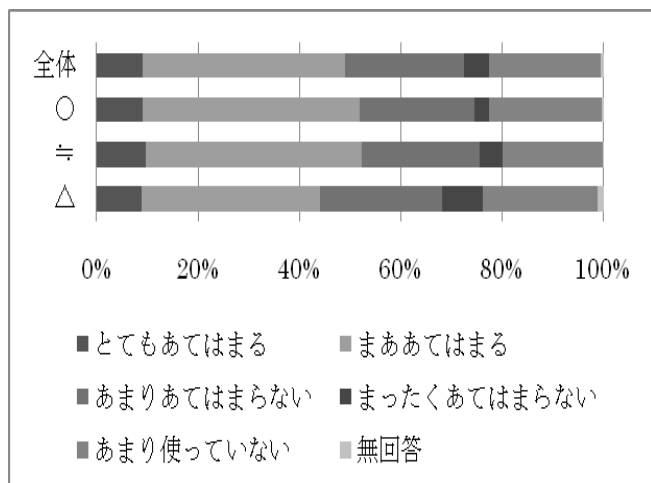
③ 小学校 6年



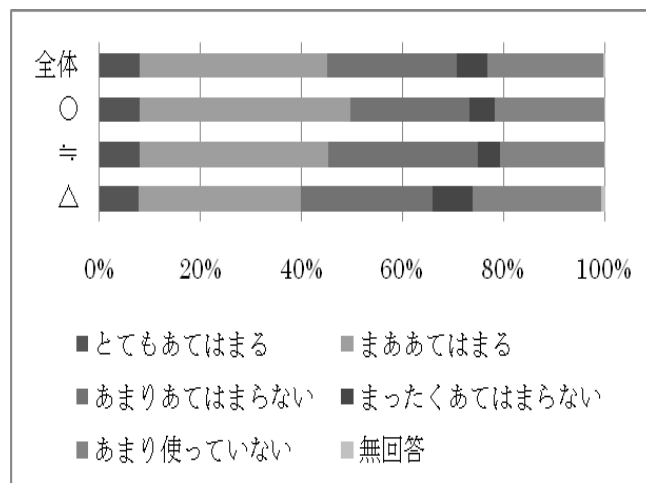
④ 中学校 1年



⑤ 中学校 2年



⑥ 中学校 3年



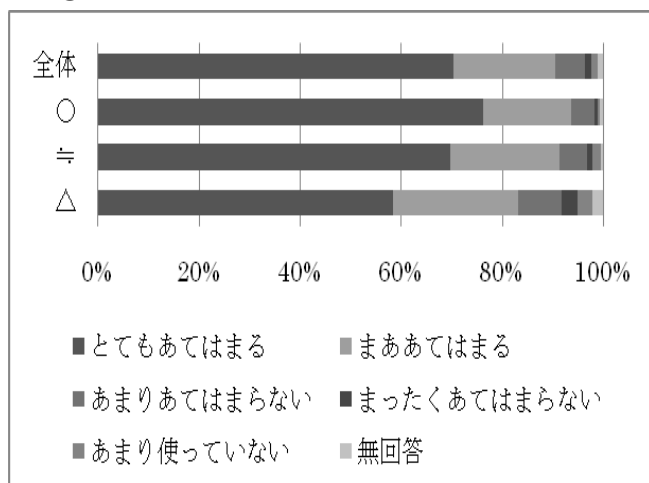
(4) 学校図書館を使う授業は好きですか。

学校図書館を使う授業は好きと回答している児童生徒の正答率が高い傾向にある。

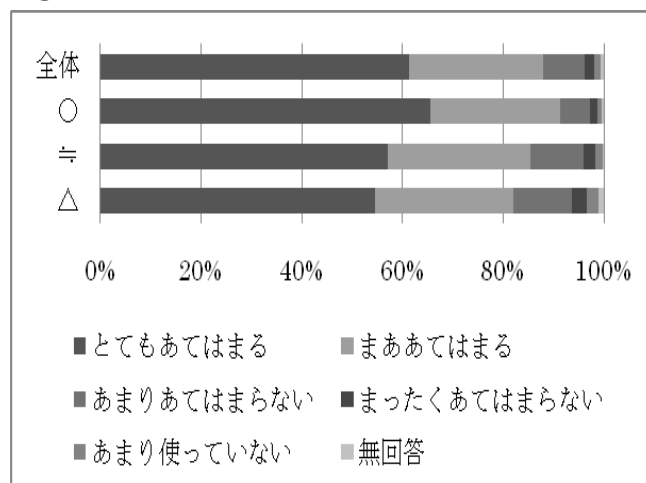
小学校ではとてもあてはまると回答している児童が多い傾向にあるが、中学校では少ない傾向にある。(本調査は4月実施のため、中学校1年生に関して調査時点では学校図書館をまだ利用していないことも考慮する必要がある)

小学校は学級担任制なので、学校図書館の活用に関して担任の裁量で活用していることが一因であると考えられる。

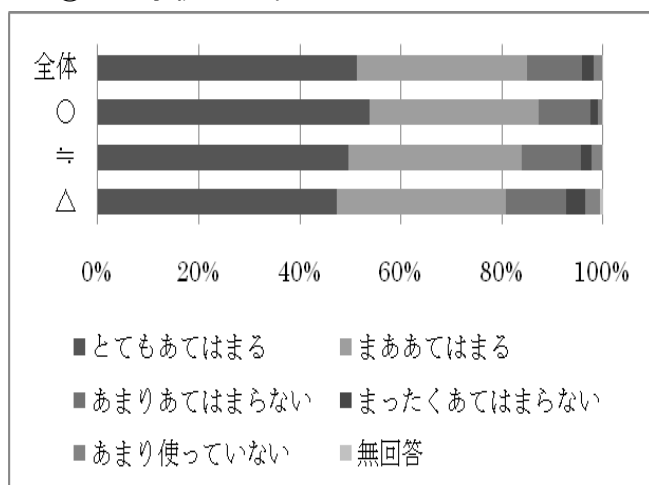
① 小学校 4年



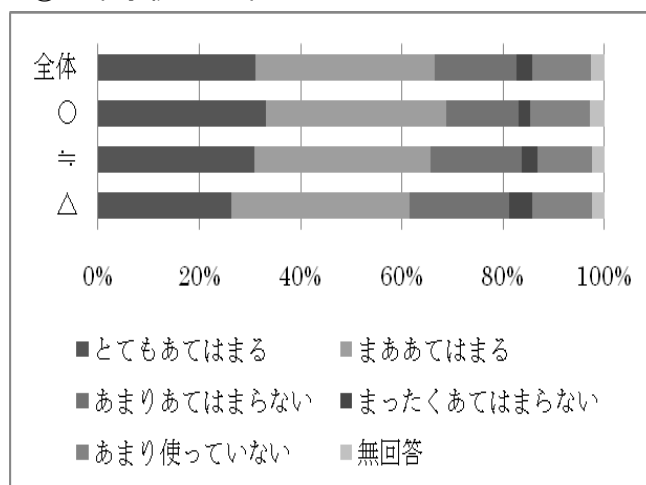
② 小学校 5年



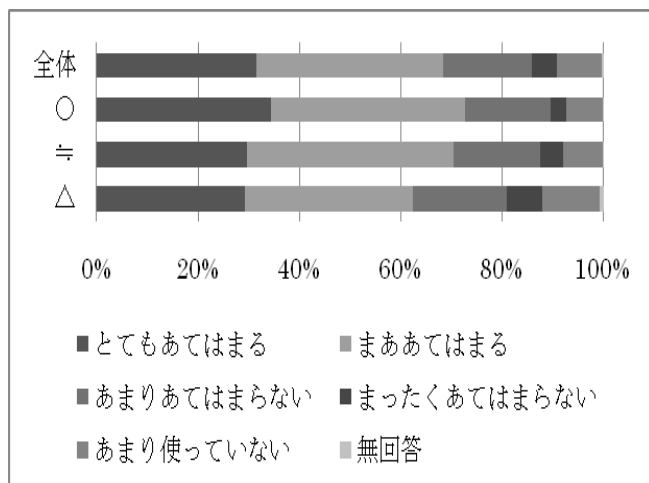
③ 小学校 6年



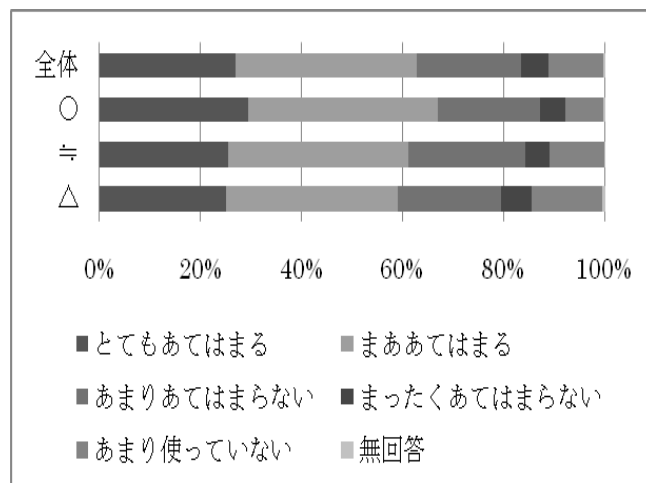
④ 中学校 1年



⑤ 中学校 2年



⑥ 中学校 3年



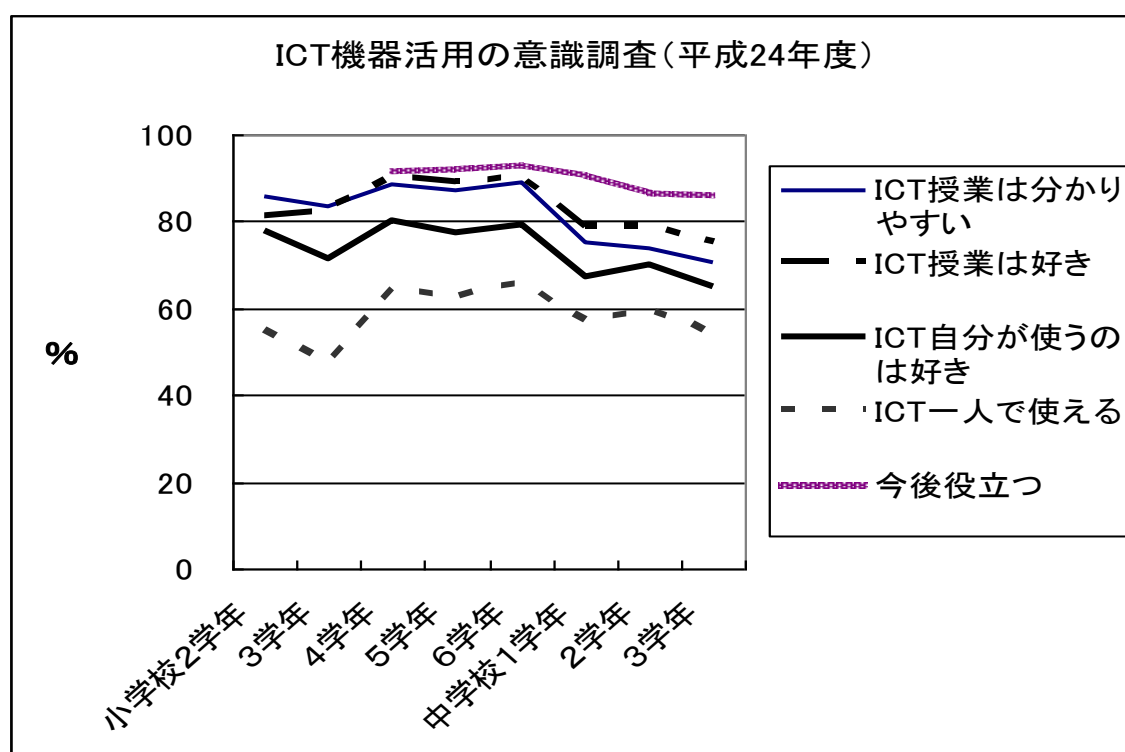
4 ICT活用に関する生活・学習意識調査結果及び分析

1 ICT活用に関わる調査項目

(1)	先生や友だちがコンピュータやプロジェクタなどを使う授業は好きですか。
(2)	先生や友だちがコンピュータやプロジェクタなどを使う授業はわかりやすいですか。
(3)	自分がコンピュータや実物投影機などを使うことは好きですか。
(4)	自分ひとりでコンピュータや実物投影機などの操作ができますか。
(5)	学校でコンピュータを使う活動は、これからの生活の中で役に立つと思いますか。

各項目の選択肢は小2～小3が三段階で①はい ②いいえ ③あまり使っていないであり、小4～中3は五段階で①とてもあてはまる ②まああてはまる ③あまりあてはまらない ④全くあてはまらない ⑤あまり使っていないである。(5)の調査項目(コンピュータを使う活動は、これからの生活の中で役に立つと思うか)は、小4以上を対象に実施した。

2 学年変化の実態



上記五項目の学年による変化を示したグラフである。活用実態をつかむ上で、小2～小3は三段階の①、小4～中3は五段階の①+②の割合を指標に用いている。

小2～小3と小4以降のグラフのつながりがよくないのは三段階、五段階の選択肢の影響であろう。

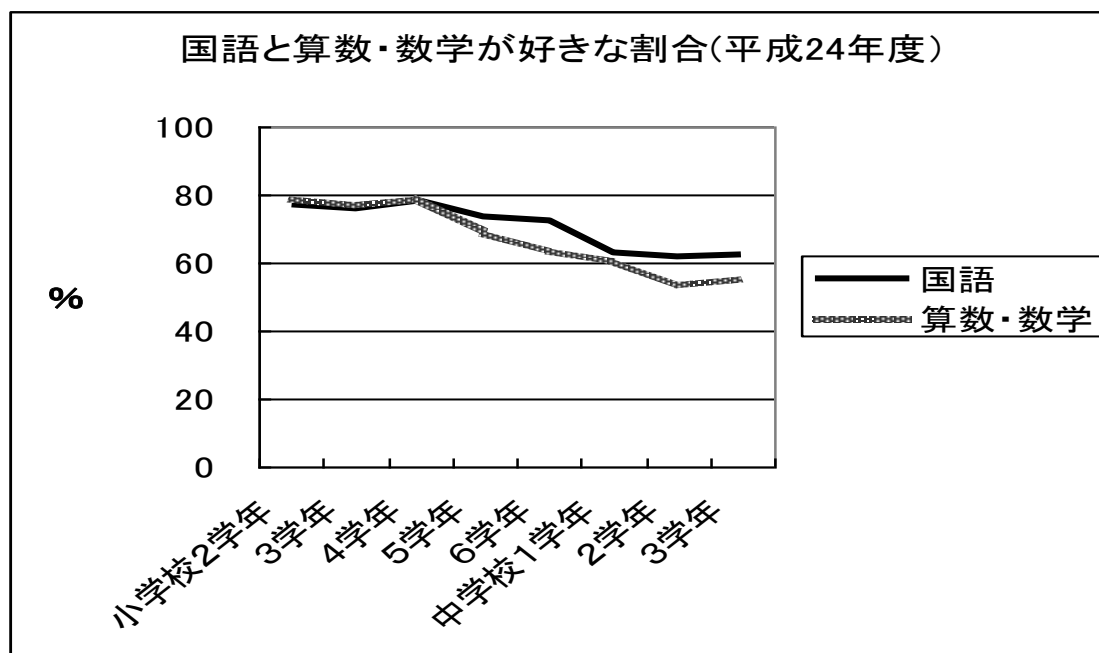
そこで小4～中3の変化を考えると、どの項目も小学校では横ばいであり、中学校で低くなる傾向がわかる。

授業に関わるアンケートでは学年が進むにつれて下降する傾向はよく見られる。その理由は、学校生活に慣れ、経験を積み、新鮮さが徐々に消えていくことではないかと思われる。「今後ICTが役立つか」という項目ではほとんど低下していないことは他の項目と違って学校生活への慣れや経験などの関わりが薄いためだろう。

3 ICT効果をつかむ調査結果

ICTを使うことで授業がより好きになるものだろうか。今回の調査結果に「国語と算数・数学が好きですか」と問う項目がある。この結果を先にあげた「ICTを使う授業が好きですか」という結果と比べICT効果を考えてみたい。

国語と算数・数学の調査項目は小2～小3が二段階で①はい ②いいえ であり、小4～中3は四段階で①あてはまる ②まああてはまる ③余りあてはまらない ④あてはまらない である。先の選択肢と「使っていない」が違うだけで大差はない。ここでも小2～小3は二段階の①、小4～中3は四段階の①+②の割合を指標にする。

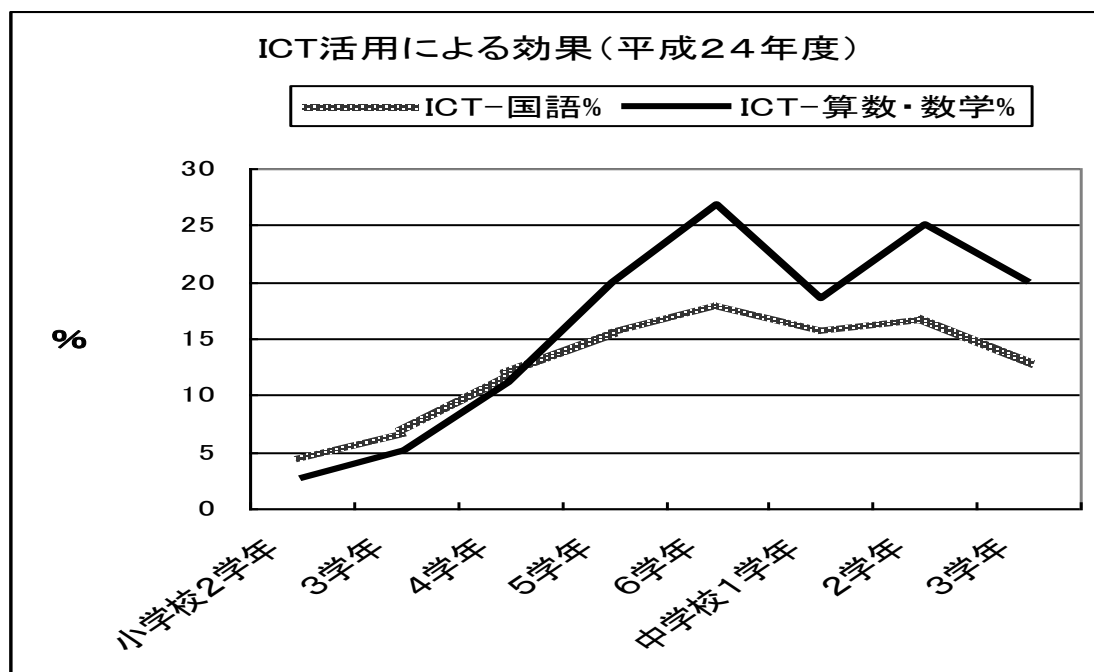


グラフをみるとICTを使った授業が好きだという割合が全学年で最も高い。

小4～中3と学年が上がるにつれて国語も算数も低下する。ICTを使う授業も似たような傾向は見られるものの高い数値を維持している。

この差がICT効果と考えるとよいのではないか。

そこで、「ICTを使った授業が好き」と答えている児童生徒の割合から、「国語と算数・数学の授業が好き」と答えている児童生徒の割合を引いた差をグラフにしてみた。この差が全てICT効果というのは早計だろうが目安にはなるのではないか。



小学校低学年では、「ICTを使った授業が好き」と「国語、算数・数学の授業が好き」な割合の差が小さい。しかし、学年が上がるほどその差が大きくなり、中学校でも同じように推移することがわかる。小学校高学年や中学生にICTを使った授業が好まれているということから、学習内容が高度化するに応じてICTを活用した授業を実施することで、より高い効果が期待できるのではないだろうか。

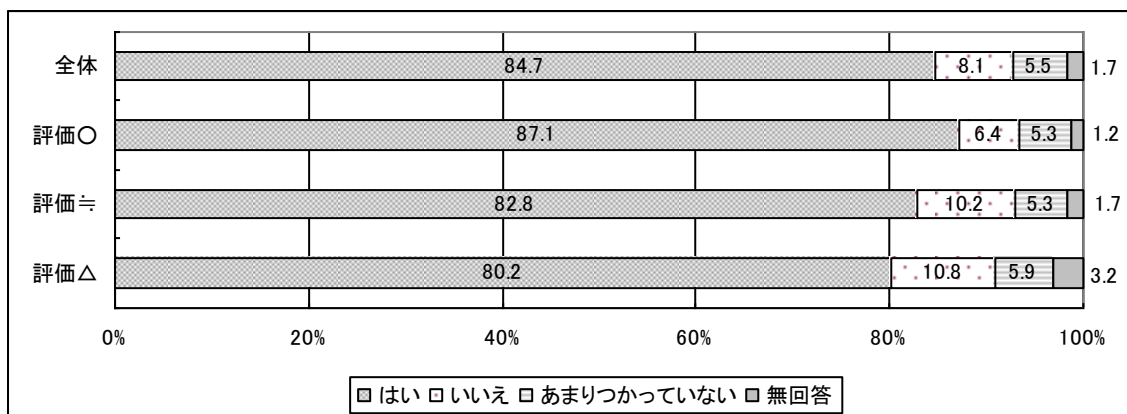
今年度、小学校10校に算数(1～6年)と社会(5,6年)のデジタル教科書を導入するが、特に社会ではこの理に合っているものと考えてよいのではないか。また、中学校へのデジタル教科書の導入も検討されており、普通教室におけるICT環境の整備を図るとともに、デジタル教科書導入の成果を検証することでこの考えの妥当性を確かめたい。

4 ICTに関わる調査結果及び学力との相関分析

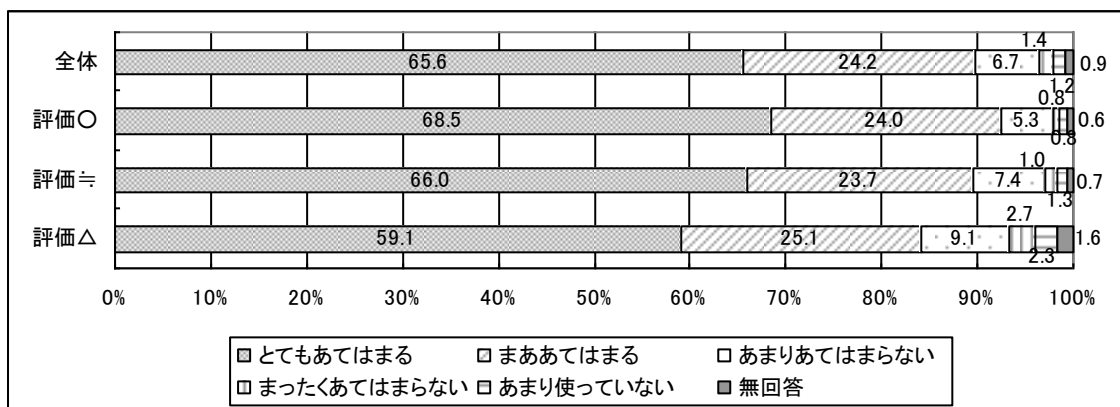
(1) 先生や友だちがコンピュータやプロジェクタなどを使う授業は好きですか。

先生や友だちがコンピュータやプロジェクタなどのICTを使う授業を好む児童・生徒の正答率が高い傾向にある。

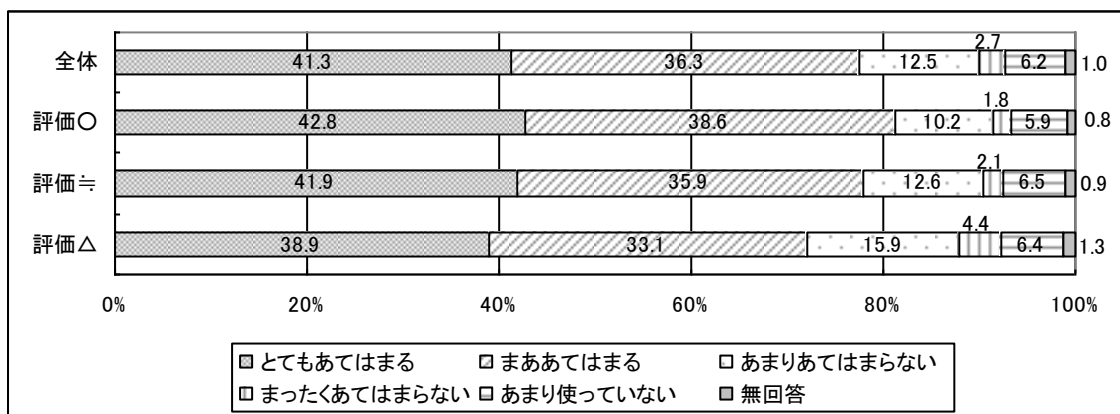
① 小学校 2年・3年



② 小学校 4年・5年・6年



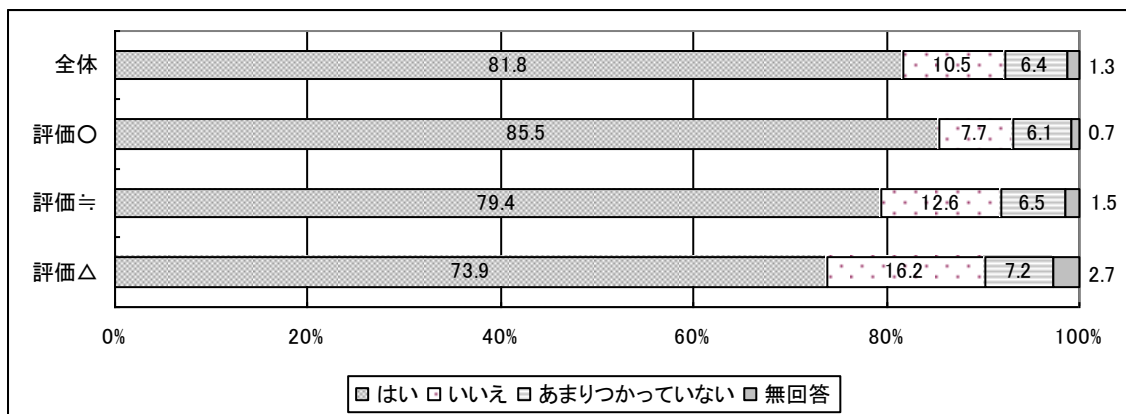
③ 中学校



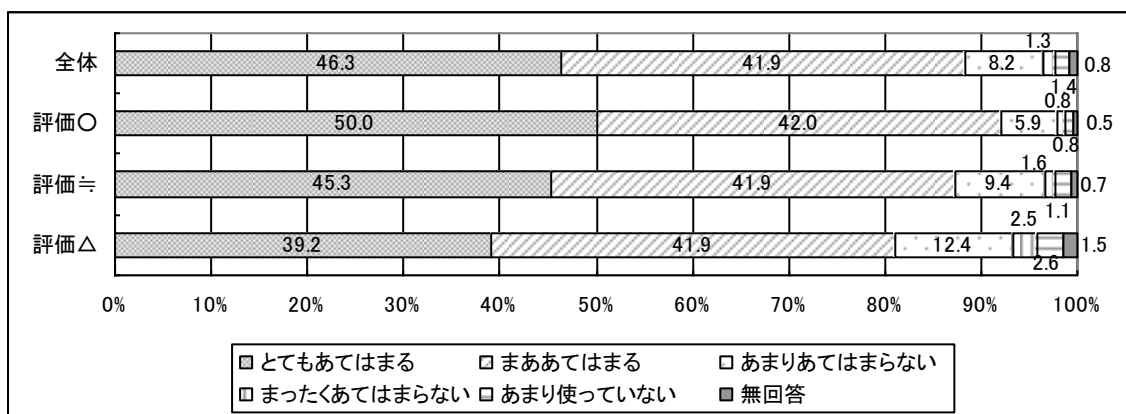
(2) 先生や友だちがコンピュータやプロジェクタなどを使う授業はわかりやすいですか。

先生や友だちがコンピュータやプロジェクタなどのICTを使う授業が分かりやすいと答えている児童・生徒の正答率が高い傾向にある。

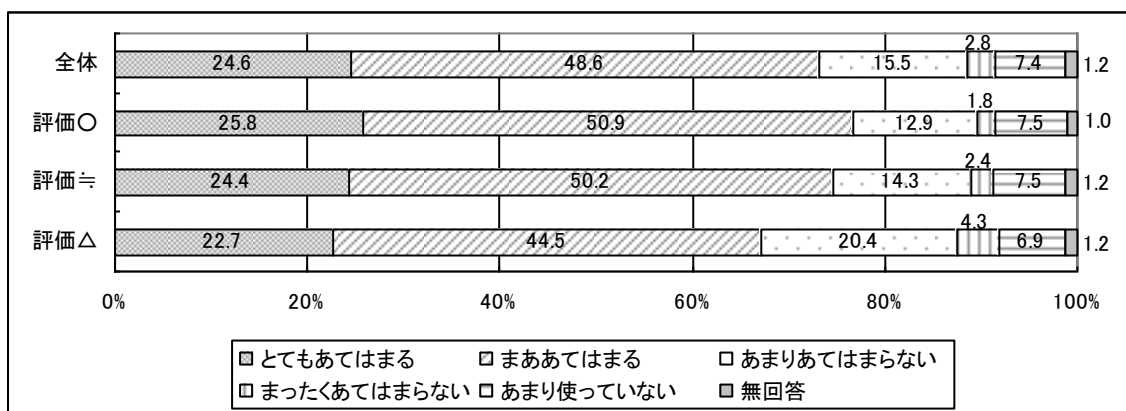
① 小学校 2年・3年



② 小学校 4年・5年・6年



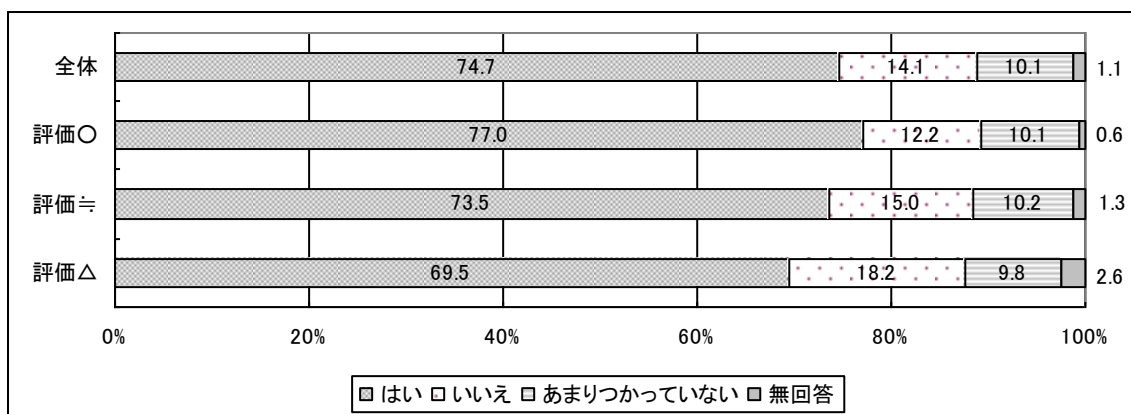
③ 中学校



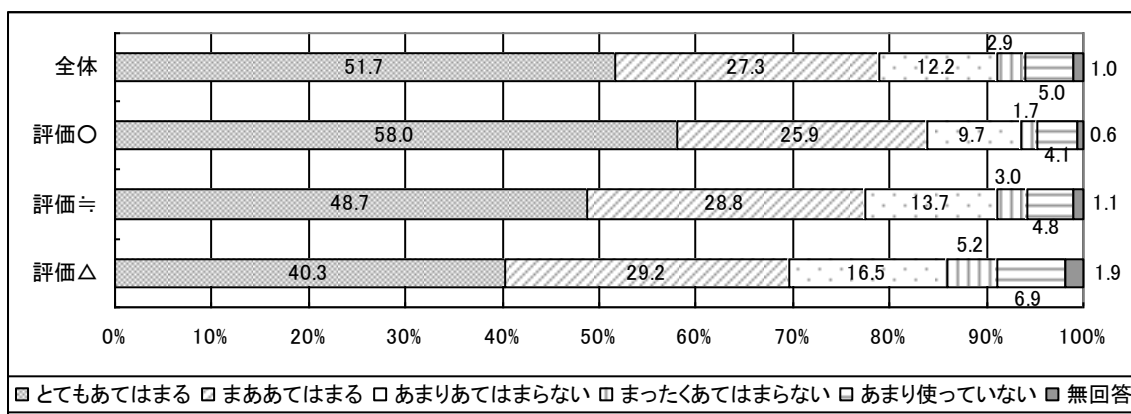
(3) 自分がコンピュータや実物投影機などを使うことは好きですか。

コンピュータや実物投影機など ICT 活用を好む児童・生徒の正答率が高い傾向にある。

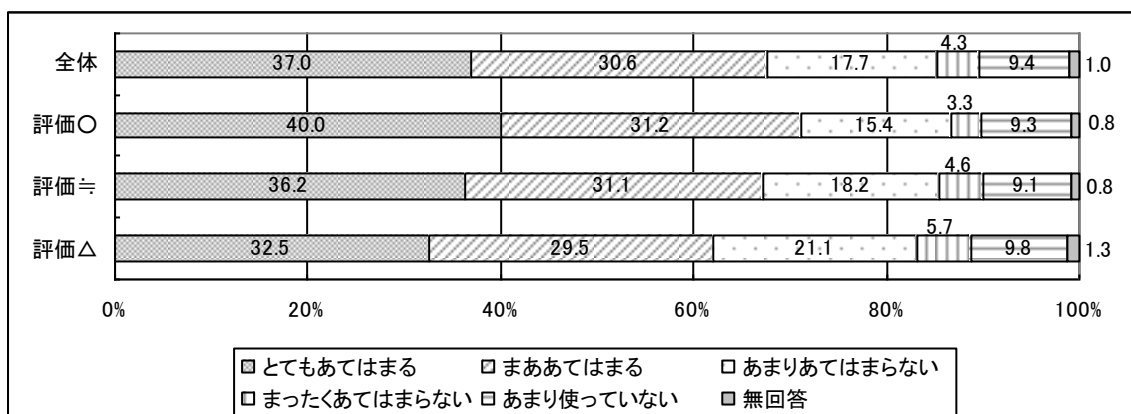
① 小学校 2 年・3 年



② 小学校 4 年・5 年・6 年



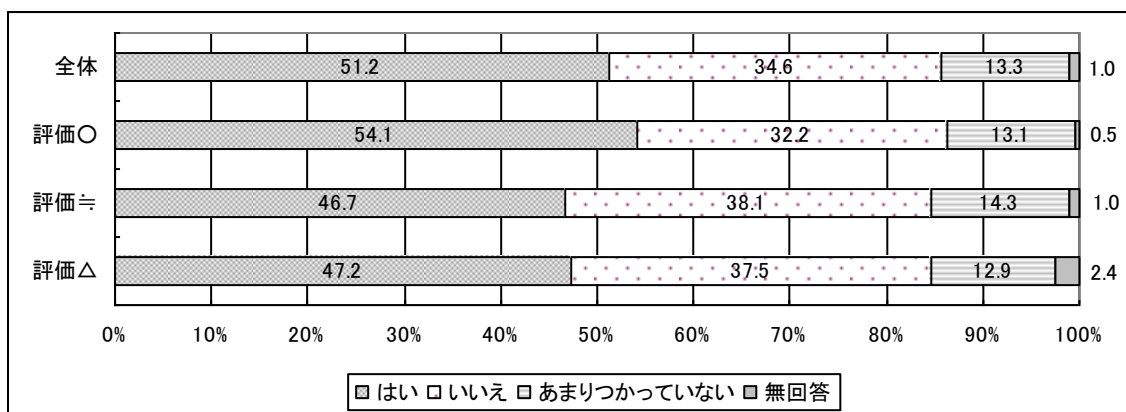
③ 中学校



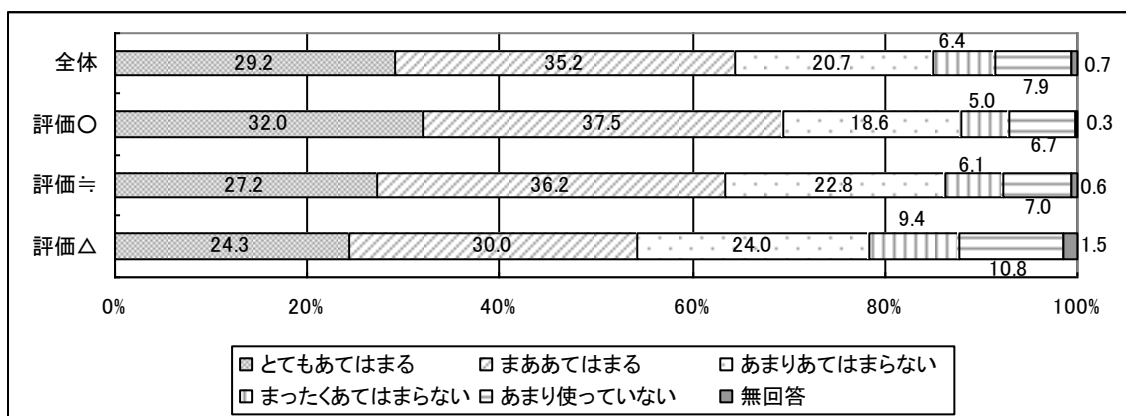
(4) 自分ひとりでコンピュータや実物投影機などの操作ができますか。

コンピュータや実物投影機など I C T 機器の操作ができると答えている児童・生徒の正答率が高い傾向にある。

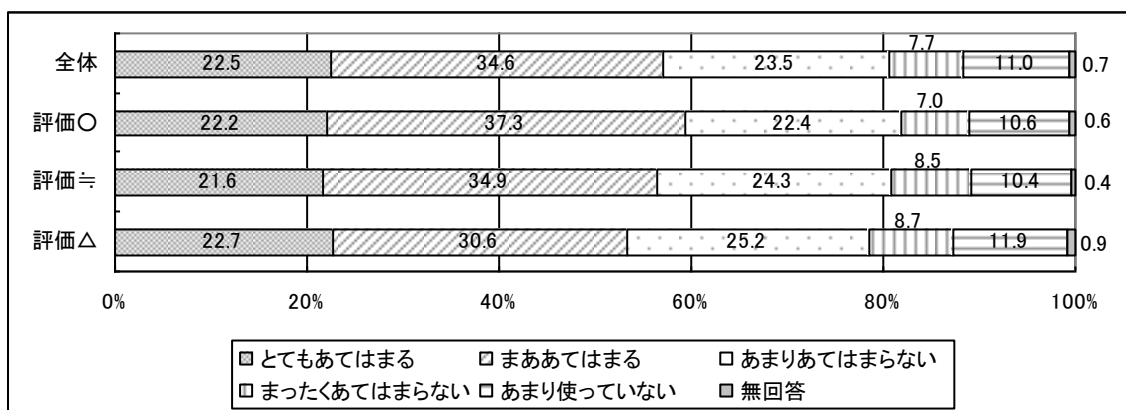
① 小学校 2 年・3 年



② 小学校 4 年・5 年・6 年



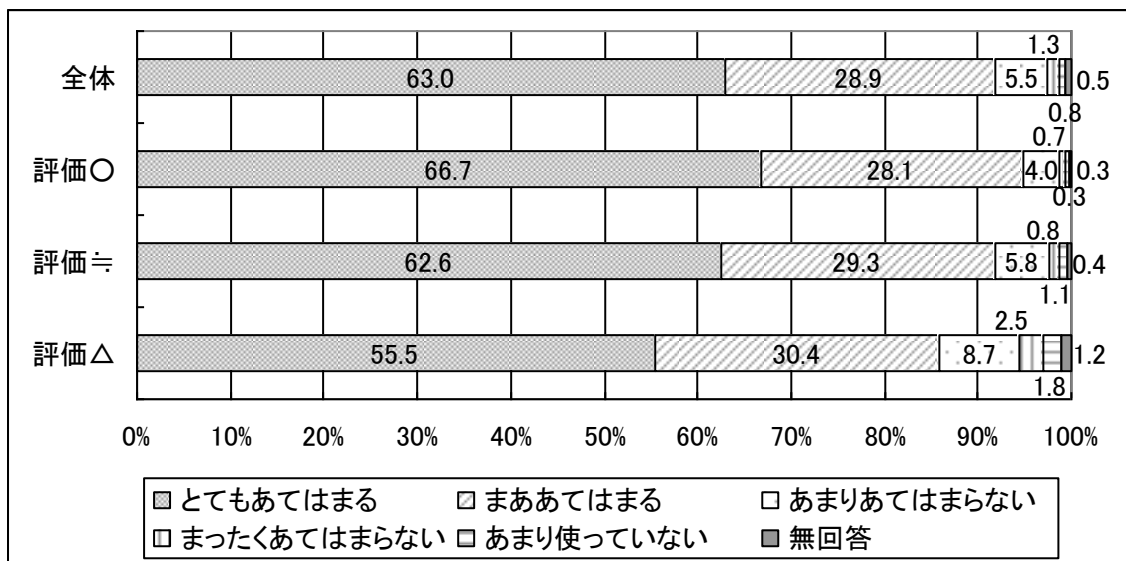
③ 中学校



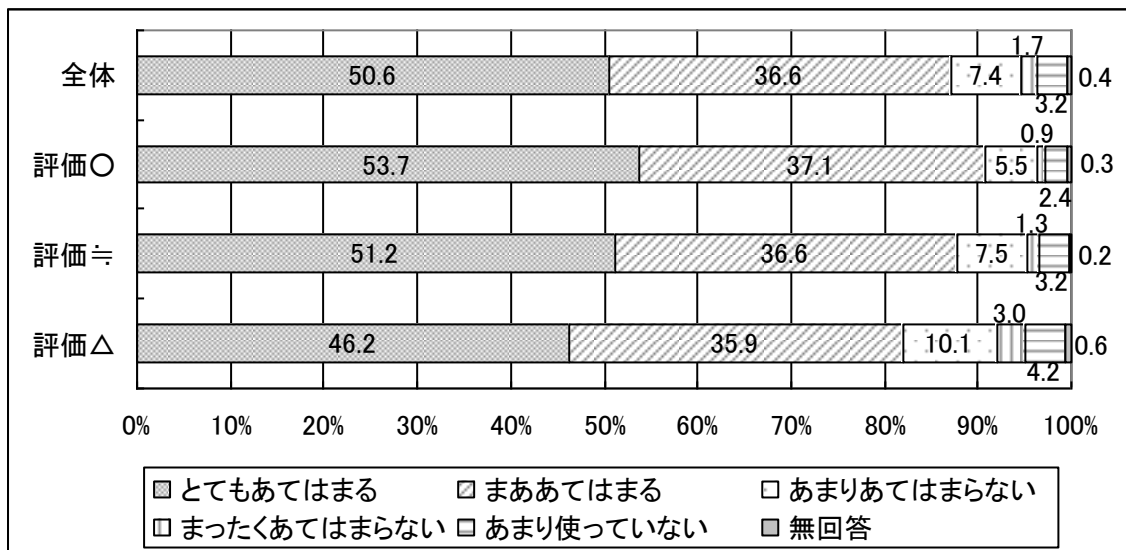
(5) 学校でコンピュータを使う活動は、これからの生活の中で役に立つと思いますか。

コンピュータを活用する活動が、これからの生活の中で役立つと思っている児童・生徒の正答率が高い傾向にある。学年が上がっても、「とてもあてはまる」「あてはまる」は、ほとんど低下していない。

① 小学校4年・5年・6年



② 中学校



平成24年度柏市学力・学習状況調査結果分析資料

作成者 柏市教育委員会学校教育部

千葉県柏市大島田4-8-1

発行 柏市教育委員会

発行年月日 平成24年7月27日

柏市立学校以外における無断転載を禁ずる